

1	館山市の移りかわり	3
(1)	縄文・弥生時代の館山市	4
(2)	古墳時代の館山	7
(3)	古代の館山と神話	10
(4)	奈良時代の館山	14
(5)	平安時代の館山	18
(6)	鎌倉時代の館山	21
(7)	室町時代（安土桃山時代）の館山	25
(8)	江戸時代の館山	30
(9)	明治時代の館山	40
(10)	大正時代の館山	46
(11)	昭和時代の館山	50
2	伝統を受け継ぐ	55
(1)	くらしの中に生きる伝統	56
(2)	伝統芸能	62
(3)	私たちの学校の校歌	66
3	姉妹・友好都市との交流	83
(1)	ベリンハム市との交流	84
(2)	ポートスティーブンス市との交流	88
(3)	石和町との交流	92
4	館山市の自然	95
(1)	高の島と沖の島	96
(2)	南房パラダイスと館山野鳥の森	110
5	豊かな自然を楽しむ	115
(1)	サンゴの世界に魅せられて	116
(2)	南房総の花畑を彩るストックの花々	119
(3)	ウミホタルの神秘的な光に魅せられて	122
(4)	少年の日の星への思いを持ちつづけて	126
(5)	海からの贈り物に秘められたメッセージ	132
(6)	平砂浦の自然を再発見	136
6	かわる館山・館山市総合計画	141
(1)	館山市の未来	142
(2)	館山市のまちづくりQ&A	150
7	館山市歴史年表	160



10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----



1 館山市の^{うつ}移りかわり



(1) 縄文・弥生時代の館山

氷河期が終わり、季節の区切りがはっきりとし、それまでは大陸と陸続きであった日本列島の誕生と、ほぼ同じ時期にはじまったのが縄文時代です。

日本人の直接の祖先である縄文人は、豊かな自然に適した生活を発展させ、日本列島のすみずみに生活の跡を残しています。

館山の縄文時代の人びとは、いかに自然とたたかい、いかに調和して生活していたのでしょうか。

この時代は、1万年前から1,700年前ぐらいの間にあたります。およそ6,000年前から5,000年前の縄文時代、今の平地にあたる場所は、だいたい海面の下になっていました。

今も海面から20メートルぐらいの高さのところには、波打ちざわに住む「せんこう虫」がいた穴のあとが、岩に残っています。

また、市内西岬地区の加賀名遺跡を発掘したら、海抜10メートルぐらいの高さのところから、およそ3,000年前の海岸がみつかりました。

土の下から掘り出される縄文時代の道具には、土器や、石の矢じり、鹿の角や魚の骨で作ったつり針やもりの先などがあります。

市内で、これらの道具が出る遺跡のあるところは山の先端などが多く、遺跡があるところを線で結んでいくと、この当時の海岸線がわかってきます。

この時代の人たちは、大地の上になたて穴式の家をたてたり、海岸にある波でけずられてできた洞くつで生活していました。

那古小学校の裏山にある稲原の貝塚からは、黒よう石がイルカの骨にささったまま出土していて、大昔の人がイルカをとっていたことや、とがらせた石をもりの先に使っていたことがわかります。

また、黒よう石は、安房地方ではとれない石なので、当時の人た



縄文時代の岩石海岸



大寺山洞けつ遺跡でみつかったつり針やペンダント



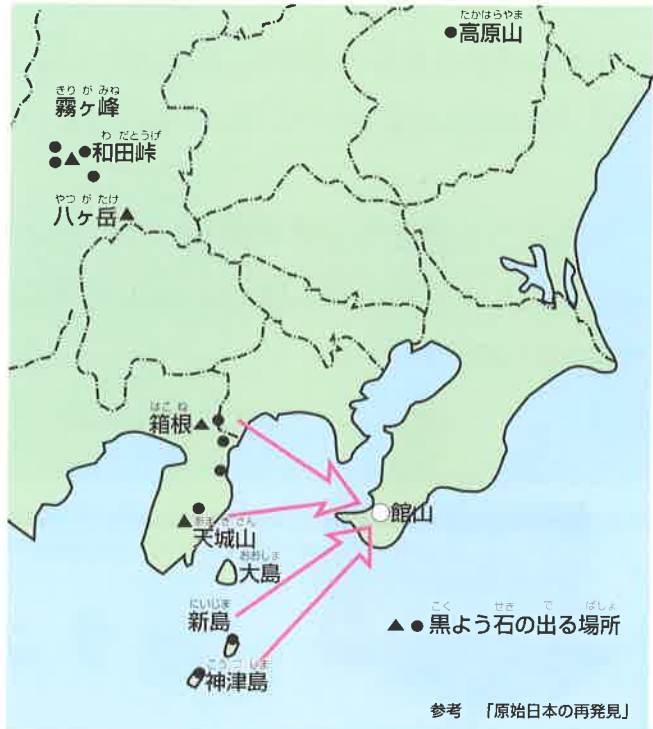
稲原貝塚からみつかったイルカの骨にささった黒よう石

これは、この石がとれる伊豆半島や伊豆諸島の神津島などと、海の道を使って、物と物を交換していたこともわかります。

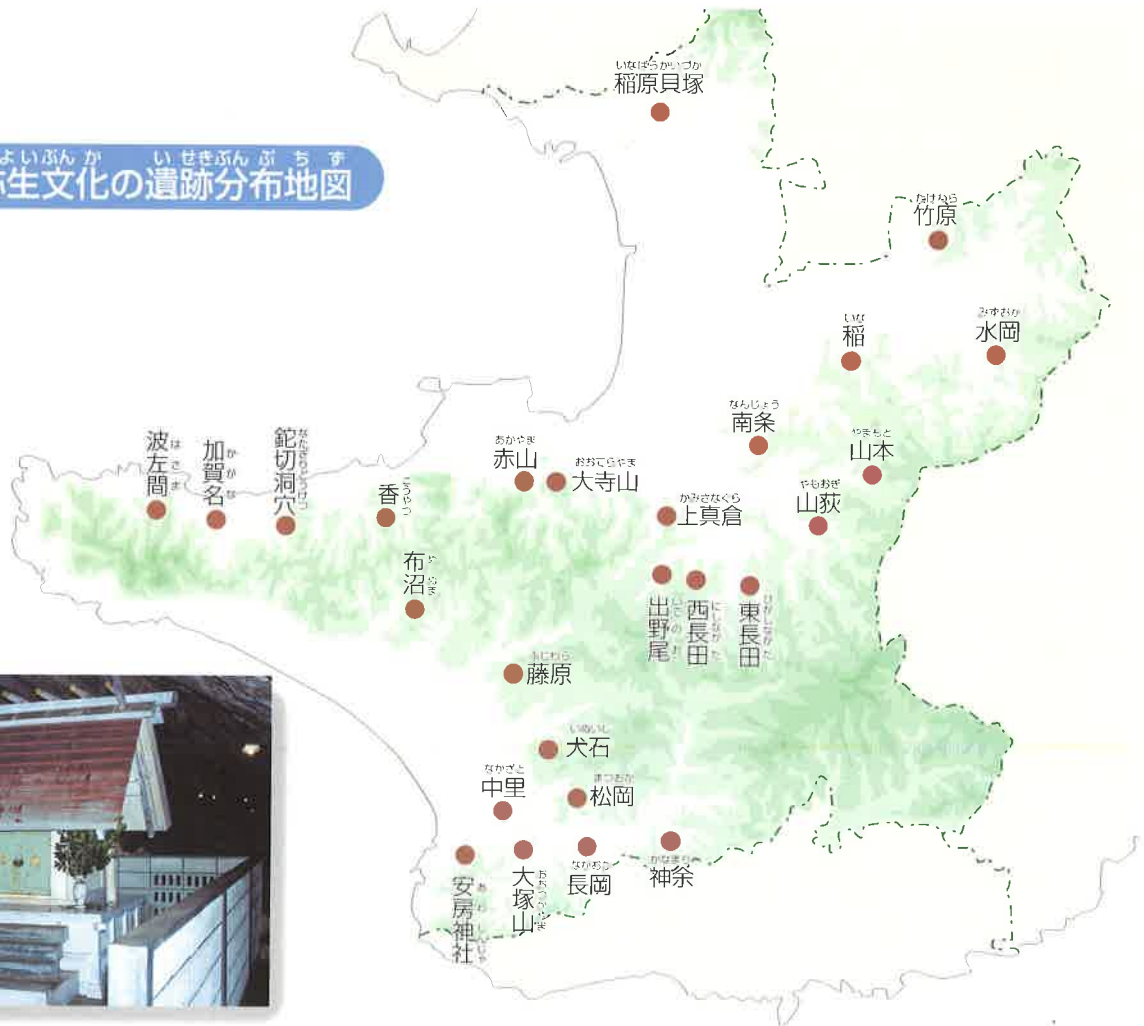
館山市内の代表的な縄文時代の遺跡は、西岬地区の鉦切洞くつです。この洞くつは、波の力で岩の弱い部分があぐりとられ、やがて地震や何かの力で土地が隆起したため、現在は海抜25メートル、海岸から200メートル奥のところにあります。

入口のはば約6メートル、高さ約4メートル、奥行き約30メートルのこの洞くつは、夏は涼しく、冬は暖かく、住みよいところで、およそ4,000年前の人が使っていたことがわかっています。

うみ わた こく せき
海を渡った黒よう石



じょうもん やよいぶんか いせきぶんぶちず
縄文・弥生文化の遺跡分布地図



鉦切洞くつと鉦切神社

洞くつの入口は、貝がらと砂が交互に4層かさなっていて、長い間にわたって利用されていたことがわかります。

市内には豊房地区の出野尾、館山地区の沼、西岬地区の波左間、神戸地区の安房神社にも、このような洞くつ遺跡があります。

その他には、遺跡が山林や畑になっているところもありますが、館山地区の下真倉の田んぼでは、弥生時代の水田跡も発掘で見つかっています。



長須賀の条里水田跡



沼サンゴ

海面から20メートルぐらいの高さの山すそからは、海の中に住むサンゴの化石がたくさん出てきます。館山地区の沼というところで見つかったことから、「沼サンゴ」と呼ばれますが、豊房地区の南条や西岬地区の香でも見られます。西岬地区の浜田では、「さんご」という地名になっているところもあります。



神戸の巴川流域

神奈地区から太平洋に流れる巴川の両岸は、高いところが多く、竜岡、中里、大神宮などでは、縄文時代から弥生時代、そしてそのあとの古墳時代、奈良・平安時代まで、人々が生活を続けてきた場所です。このあたりでは、畑や屋敷地からたくさんの土器が出てきます。



巴川周辺の台地 (松岡)

(2) 古墳時代の館山

ヒミコの墓が日本のどこかにつくられた3世紀後半から、近畿地方を中心に、高く土を盛った古墳が、さかんにつくられるようになります。

大きな古墳は、地域のリーダーがその力を示すためにつくったものと考えられ、現在の奈良県に各地のリーダーをまとめる政権が生まれました。

この大和政権の発展と広がり、館山にどのような影響を与えたのでしょうか。

千葉県の北部には、円墳、方墳、前方後円墳など、山のように土を盛った古墳がたくさんありますが、安房地方にはあまりありません。市内では、正木の塚山や館野地区の山本、九重地区の大井などの山の上に、古墳らしい塚が残っています。

以前に、西岬地区のゴルフ場で、人の骨とともに金ばくのすばらしい大刀が出土したことがあります。そこには、古墳があったのでしょうか。当時、大和朝廷と手を結んだ館山市内の豪族が、東京湾の入口で大きな力をもっていたことが想像できます。

館山市内では、古墳が少ないかわりに、洞くつを古墳の代わりにしていることがよくあります。縄文時代に生活で使っていた、鉞切の洞くつや出野尾の洞くつが、古墳時代にはお墓として使われたのです。

豪族が住んだと考えられる大きな建物のあとが、館山地区上真倉で見つかりました。また、下真倉では建物のとびらがほりだされていて、この時代になると、大きな力をもった豪族は、たて穴の家ではなく、高ゆか式の大きな家をつくり、住まいとしたことがわかります。

館山市内では、このほかに、たくさんの古墳時代の横穴墓が見つかっています。横穴墓は6世紀の前半に、北九州でつくられはじめたもので、安房地方には7世紀ごろ伝わってきました。



坂井翁作古墳跡（館山カントリー）



坂井翁作古墳から出た大刀と復元模型



稲の山中にある横穴墓

よこあなほ やま しゃめん いわ いろくち ほそ つうろ
 横穴墓は、山の斜面の岩をほりぬいて、入口に細い通路と、
 その奥に広い部屋を作っています。正面には棚がくりぬかれ
 ていて、そこが棺として使われました。一番外側の入口部分には、
 とびらをはめる切り込みがあり、中に入れないようにしていた
 ことがわかります。

よこあなほ かず おお ひがしながた なんじょう
 市内の横穴墓の数は多く、豊房地区の東長田や南条、九重
 地区の竹原や安東、館野地区の稲などでは、ひとつの場所に、
 20も30もかたまっています。そういった様子を見ると、集落のリー
 ダーの墓というよりも、家族の墓だったことがわかります。四角い
 穴をあけただけの簡単なものも、たくさん残っています。



おめてらやまどう ほ
 大寺山洞くつ墓



ひがしだい いせき なてもの
 東田遺跡からみつけた大きな建物のあと



トンボ玉 だま

館野地区山本の丘の上にあった小さな円墳
 から、色もようのあるガラス玉がみつかりま
 した。トンボ玉というこの玉は、紀元前7~6
 世紀に西アジアやヨーロッパでさかんにつく
 られ、中国・朝鮮半島をへて、日本では、古
 墳時代の終わり頃につくられた飾り玉です。
 この峯古墳のトンボ玉は、淡いくすんだ青の
 ガラス玉に、クリーム色のガラス玉がうめこ
 まれ、クリーム色のガラス玉には、赤とコバ
 ルトブルーの風車の羽のような文様がはめこ
 まれています。国産品ではなく、中国・朝鮮

半島の玉ともちがい、西アジアやヨーロッパ
 に似たデザインの玉があります。シルクロード
 をとおって、東のはて日本にたどりついた
 アクセサリーかもしれません。



トンボ玉 だま

トンボ玉といっしょに
 みつけた玉 だま

古墳の分布地図

※数字は横穴墓の数



大寺山の洞くつ墓

沼の大寺山にある洞くつを発掘したら、およそ1,600年前の、武人のよろいや刀、土器、丸木舟などがたくさん出てきました。

なかでも丸木舟は、舟として利用されたあとに、棺のかわりに使ったもので、館山では、海で生活をする人々の中からも、大きな力をもった豪族が生まれてきたことがわかります。



右側のとがった部分が舟のへさき。この1号木棺の長さは3.3m

(3) 古代の館山と神話

やまと せいけん こうせい ちゅうおう ちほう こうぞく つよ こっか こくない へいわ あらす
大和政権を構成した中央、地方の豪族たちは、強い国家をつくるために、国内で平和と争
いをくり返します。

そのいっぽうで、ちゅうごく ちょうせんはんとう うご こくない おお えいきょう こうぞく れんりつせいけん
中国や朝鮮半島の動きが国内にも大きく影響し、豪族たちの連立政権か
ら、てんのう ちゅうしん こっか たんじょう
天皇を中心におく国家が誕生しました。

館山の豪族は、どのようにして国家に組みこまれていったのでしょうか。

いま あわ ちほう ならじだい めいじじだい はじ
今の安房地方は、奈良時代から明治時代の初めまで、ずっと
あわのくに よ あわのくに あわ へぐり あさい ながさ
安房国と呼ばれていました。安房国は、安房、平群、朝夷、長狭
の4つの郡に分かれ、館山市にあたる地域は、平久里川をさか
いたがわ ぐん わ ちいき へぐりがわ
いに、北側の那古・船形地区が平群郡、南側のそのほかの地
区があわぐん へぐりぐん みなみがわ ち
が安房郡になっていました。安房の文字は、『古事記』の中
はあわ こくぞうほんぎ あわ にほんしょき
は「淡」、『国造本紀』では「阿波」、『日本書紀』ではじめて「安
房」と書かれています。



古語拾遺



淡の水門

「みなと」というのは、みず でい
いう意味です。もともとの意味は海峡や河口の
ことですが、かこう ふね ていはく
河口は船が停泊しやすいので、船が
泊まることをみなと
里川の河口に湊という地名があるのは、そのた
めです。こだい
古代にはここが安房の国の玄関でした。



平久里川



船で安房へ向かう忌部一族

古代の安房については、ふたつの神話があります。ひとつめは、『高橋氏文』という書物のなかに書かれています。大和朝廷が日本平定をはじめたとき、ヤマトタケルの活躍で、その父景行天皇は関東の豪族をしたがえました。天皇が関東へやってきたとき、安房の豪族のイワカノツカリが、ほかの関東の豪族たちとともに、淡の水門で、アワビの料理を作って、もてなしたことが書かれています。

書かれているこれらのことが、すべて本当にあったことかどうかは、はっきりしません。しかし、これは関東の豪族が、天皇にしたがったことをしめす、儀式をあらわしているのではないかといわれています。「淡の水門」は、「安房の湊」ということで、平久里川の河口のあたりではないかといわれています。日本の西にある朝廷にとって、海路でいくと関東の入口にある安房は、重要な場所だったのかもしれない。

もうひとつは、『古語拾遺』という書物に書かれている、忌部という氏族の神話です。忌部氏は、朝廷で神祭りを担当していました。忌部氏の指導者だった天富命は、宮中に神殿を建て、木綿や麻などの織物や鏡・玉などの祭りの道具も、自分たちで作ることになりました。玉は出雲の国で作り、布は四国の阿波の国でつくりました。

その後天富命は、布を織るための植物を栽培するのに、よい土地をもとめて、四国の忌部一族を率いて、海路を東に向かい、房総半島の南端に上陸しました。そして、阿波の国で栽培して



けものが 獣狩り



あめのとみのみこと 大富命



あむじんじや けんせつ 安房神社の建設



いた、穀物や麻を植えてみると、よく育ちました。そこで房総半島を「総の国」と名づけたのです。古代には麻のことを、総と言っていたからです。のちに総の国はふたつに分かれ、都に近い半島南部を上総の国、北部を下総の国としました。

また、阿波の忌部氏が移住した本拠地を、故郷にちなんで「安房」と名づけ、天富命はそこに先祖の天太玉命をまつる神社を建てました。それが、安房神社のはじまりであると伝えています。また、天太玉命のお妃が洲宮神社と洲崎神社にまつられています。



安房神社



洲宮神社

忌部氏ゆかりの神社分布地図



これらのことも、すべて本当^{ほんとう}にあったことかどうかは、はっきりし
ません。しかし、現在でも安房神社^{あわじんじや}の周辺を神戸地区^{かんべ地区}といいま
すが、神戸^{かんべ}は神^{かみ}につかえる家^{いえ}のことで、安房神社^{あわじんじや}の神^{かみ}に仕える
人々^{ひとびと}の家^{いえ}がある地域^{ちいき}だったということです。

また、「神余^{かなまり}」は、神戸^{かんべ}の余^{あま}りということで、神戸^{かんべ}の人口^{じんこう}がふえ
たため、あふれた人々^{ひとびと}が新しく開拓^{かいたく}して住んだ場所^{すばしょ}という意味^{いみ}
になります。まさに、このあたりは、安房神社^{あわじんじや}ゆかりの地域^{ちいき}なので
す。



安房神社境内^{あわじんじやけいん}から出土^{しゅつど}した高坏^{たかつま}
神まつりで使われた道具^{もぐ}



忌部の神々をまつる神社

平安時代^{へいあんじだい}になると、安房神社^{あわじんじや}の神^{かみ}は、朝廷^{ちやうてい}で
料理^{りようり}を担当^{たんとう}する役所^{やくしよ}にもまつられていました。
また朝廷^{ちやうてい}からは、安房郡^{あわぐん}の税^{ぜい}を安房神社^{あわじんじや}のため
に使うことを認められて、安房郡^{あわぐん}は神郡^{しんぐん}と呼ば
れるようになり、とても権威^{けんい}がありました。平安
時代^{へいあんじだい}の806年には、安房神社^{あわじんじや}に仕える神戸^{かんべ}は、
104戸^こにもなり、忌部^{いんべ}ゆかりの神様^{かみさま}をまつる神
社^{じん}もたくさんつくられました。



布良神社^{ふらじんじや}

神戸地区^{すのみやじんじや}の洲宮神社^{かみさま}の神様^{あわじんじや}は、安房神社^{あわじんじや}
の神様^{かみさま}の奥^{おく}さんです。富崎地区^{めらさきじんじや}の布良崎神社^{ふらさきじんじや}は、
最初^{さいしよ}に安房^{あわ}へ来た天^{あめ}富^{とみ}命^{のみこと}をまつっています。
布良^{めら}の岬^{みさき}に天^{あめ}富^{とみ}命^{のみこと}が上陸^{じやうりく}したという神話^{しんわ}が、
富崎^{ちめい}の地名^{ちめい}のおこりです。他^{ほか}には丸山町^{まるやま}の莫越^{なごし}
山神社^{やまじんじや}、千倉町^{ちくらまち}・白浜町^{しらはま}の下立松原神社^{しもたてまつばらじんじや}などが、
忌部^{いんべ}の神様^{かみさま}をまつる古い神社^{ふるじんじや}です。



天^{あめ}富^{とみ}命^{のみこと}が上陸^{じやうりく}したと伝えられる阿由戸^{あゆど}の浜^{はま}

(4) 奈良時代の館山

強い国家の体制をつくるために、新しい制度が作られます。

それまで、中央や地方の豪族が、土地と人びとを別々に支配していましたが、朝廷が支配を徹底させるために、地方の行政区画が作られました。

国家の支配はどのように行われ、人びとの暮らしはどうなっていたのでしょうか。

大化の改新以後、地方は国・郡・郷・里に分けられました。平安時代の『和名抄』という書物によると、安房地方には17ページの地図のような地名がありました。この中には、今でも残っている地名があります。

安房の国は、718(養老2)年に上総の国から分かれてできました。国の役所である国府は、三芳村府中に置かれ、都からや



安房国府跡 (三芳村宝珠院)



おもしろ
探検隊

九重の条里跡

九重地区の江田では、山名川に面した広い範囲で、条里制の跡が残っていました。そこで、昭和49年に発掘調査をおこなったところ、条里の水田跡が見つかりました。

当時の用水路、道路、あぜ、土どめの杭の列などがあり、農具や土器のかけらも出てきました。江田にある「五反下り」や「大坪」「南条目」などは、条里制ゆかりの地名です。



つてきた国の役人が、国司をつとめました。安房の国は4つの郡に分かれ、郡には郡司という地元の役人がいました。さらに郡は50戸ずつでいくつかの郷に分かれ、郷は里に分けられていました。

この頃に、平野部では水田が整備されました。全国的に条里制という土地の区画がおこなわれ、同じ広さにされた水田が人々に分け与えられたのです。館山市内でも、その名残が見られます。「北条」や「南条」の地名、館野地区の稲にある「一ノ坪」から「十ノ坪」までの地名などは、条里制が地名になって残ったものです。条里制ゆかりの地名は、他にも市内でたくさん探すことができます。

国府から真南へちょうど2kmのところに、国分寺が建てられました。この年代ははっきりしませんが、布目のついた瓦が出土し



江田の条里跡から出た杭と農具



国分寺から出た瓦

条里制のようす

「条里」の条は縦（南－北）方向の単位、里は横（東－西）方向の単位をあらわし、ごばん目に区切られた水田の位置は、例えば、2条1里というようにあらわされました。



この「2条1里」の大きさは、現在のメートル法におきかえると約1万㎡の広さで、1辺約109mの正方形になります。

JR内房線を間にはさみ、千葉県南総文化ホールみなみかわ ひろの南側に広がる長須賀条里制遺跡の条里の区画は、「大坪」などの地名が残っているだけで、条里の境がどこにあるのかわかりません。しかし、1辺109mのごばん目を地図に

あててみると、東西方向の道が、ほとんど条里の境と一致しています。これらの道路は、条里制の区画を、現代の私たちに教えてくれているのではないのでしょうか。



ていることから、奈良時代から平安時代の初めごろだろうと言われているとされています。

また、都との連絡をよくするために、上総の国へ向かうまっすぐの道が、国府から平久里川にそってつくられました。さらに役人のためには、のりかえの馬などを用意した駅が、白浜と富山町の川上につくられました。この白浜は白浜町ではなく、今の館山市内の正木ではないとも言われています。

この道が東海道につながって、九州へ防人として警備にいく人や、都へ税を運ぶ人が歩いていったのです。万葉集の中には、次のような、安房出身の防人の歌が残っていて、ふるさとを遠くはなれた苦勞が伝わってきます。



ほしアワビ



のしアワビ

家風は 日に日に吹けど

吾妹子が 家言もちて 来る人もなし

朝夷郡の丸子連 大歳

立ちこもの 立ちのさわぎに

あい見てし 妹が心は 忘れせぬかも

長狭郡の文部与呂麻呂

安房の国からはるばる都へ運ばれた税は、アワビや布でした。国の役人が木簡と呼ばれる荷札をつけ、毎年寒さに向かう10月ごろに送られました。奈良の都である平城京跡から、その荷札がたくさん発見されています。そして、西岬の塩見の人や、豊房の戸の人、館野の広瀬の人など、海に面したところの人はもちろん、神余や九重の大井・水岡のように、海からはなれたところの人も、みんなアワビを送っていたことがわかりました。



奈良の都へ荷物を運んだときの木簡

な ら じ だ い ち め い ぶ ん ぶ す
奈良時代の館山の地名分布図



おもしろ
探検隊

こくぶんじあと
館野の国分寺跡

こくぶんじ
国分寺は、741 (天平13) 年に聖武天皇が、
くに いちじ ずつく ように めい ました。あわの
くに おく
国では、すこし遅れてできたようです。館野小学
校の近くには、いまでも国分寺と呼ばれるお寺が
ありますが、この場所に安房国分寺は建てられ
ました。しょうめん どう に向かって ひだりて ほう てら
正面のお堂に向かって左手の方に、土
が盛り上がったところがあります。そこが昔のお
寺の中心で、ちゅうしん こんどう たてもの ばしょ
寺の中心で、金堂という建物があった場所です。



あわこくぶんじ
安房国分寺

(5) 平安時代の館山

つくられた^{とうじ}当時^{から}、いろいろな^{もんだい}問題^{があつた}古代^{こだい}国家^{こっか}の^{せいど}制度^はくずれていき、^{こっか}国家^が土地^{とち}を^{しはい}支配^{する}制度^{せいど}にかわり、^{こじん}個人^{とち}の^ふ土地^が増えていきます。

いっぽう、^{ちほう}地方^{しはい}を^{こくし}支配^{して}いた^{のうみん}国司^{かだい}は、^{せい}農民^{から}過^{いちぶ}大な^{ゆうりよく}税^{をと}りたてたため、^い一部^の有力^な農民^{たちは}、^{ちゅうおう}中央^{きぞく}の^{じしや}貴族^や寺社^に、^{すす}進^{んで}土地^{とち}を^{きしん}寄進^{する}ようになります。

このような^{とち}土地^{しやうえん}を^{しやうじや}荘園^といいますが、^{きぞく}その^{じしや}所有者^{ちほうのうそん}である^う貴族^や寺社^と、^{そだ}地方^{ぶし}農村^{のうみん}から^{たいりつ}生まれ^{むす}育^{つた}武士^との^{せいじ}対立^や結^びつき^が、^{しやかい}政治^や社会^を動か^さず^{うご}大きな^{おお}力^{ちから}になっていきます。

これらの^{うご}動き^は、^{てんかい}どのように^{展開}していったのでしょうか。

^{へいあん}平安^{じだい}時代^{になると}国^{せいど}の^{こじん}制度^がくずれていきました。^{こじん}個人^でか^{つて}に^{とち}土地^{しやう}を^{ひと}所有^{する}人^がふえると、^{じもと}地元^のリーダ^ーが^い入れ替^わつたり、^{せいかつ}生活^{でき}ず^{むら}に^{ひと}村^{をは}なれる^{ひと}人も^で出て^きました。そのた^め盗^{とう}ぞく^がは^びこる^{よう}になり、^よ世^{なか}の中^{みだ}が^{みだ}乱^れて^きました。



つるがやひつまんぐら
鶴谷八幡宮



館山の国司神社

^{こう}館山^{ちか}港^の近く^{にある}柏崎^{かしわざき}の^{こくしじんじや}国司神社^は、^{へいあん}平安^{じだい}時代^の国司^{こくし}源^{なもとの}親元^{ちかもと}が^{かみさま}神様^{として}まつられてい^ます。^{しごと}仕事^を終^おえて^{みやこ}都^{かえ}へ^{あわ}帰^{ひとびと}るとき、^{あわ}安房^{ひとびと}の人々^はと^{ても}悲^{しみ}、^{わか}別^れに^{きもの}着物^の袖^をもらいま^した。^{ちかもと}親元^{みやこ}が^な都^{あわ}で^{ひとびと}亡^{ふな}くなると、^{あわ}安房^{ひとびと}の人々^は船^{ふな}出^した^{かしわざき}柏崎^{じんじや}に^{しんじや}神社^{をつ}く^{つて}、^{そで}袖^を納^めま^した。そ^れが^{こくしじんじや}国司神社^{です}。^{ぬま}沼^{おおてら}の大^し寺^{そう}として^し知^られる^{しんじや}総^{じいん}持^ち院^は、^{ちかもと}親元^たが^{てら}建^たて^たお^{てら}寺^だそ^うです。



こくしじんじや
国司神社

この時代、国司は国を治める儀式をおこなうために、有力な神社の信仰を大切にしました。そして国内にある神社を、一度に拝礼するためにつくられたのが総社で、権威がありました。安房では三芳村の府中に元八幡神社というのがあって、そこに総社がありましたが、鎌倉時代に北条へ移って、いまの鶴谷八幡宮になりました。

また、人々のあいだには仏教が広まってきました。安房ではとくに、仏教の信仰があついで源親元が国司をつとめると、仏教



八幡の祭りのお水とり
(三芳村府中の元八幡神社にて)



崖観音と那古観音

平安時代は仏教がひろまり、館山市内には平安時代の仏像が12体も残されています。市内で一番古い仏像は、安房神社近くの干祥寺にあって、平安時代初めの頃のものです。金鞠氏の本拠地神余の自性院にある仏像は、平安時代の中頃につくられました。

海で生活する人々の信仰をあつめたのが、船形の崖観音です。山の崖に直接観音様を彫っています。平安時代の中頃につくられましたが、お堂がなかった頃は、海から見ると姿がよく見えたことでしょう。

那古寺の観音様も平安時代の終わり頃のもので、ここは関東全域からのお参りがあります。関東地方には有名な33か所の観音様がありますが、それを順番にまわる巡礼の最後のお寺として、今も参拝する人が多いのです。



船形の崖観音



那古寺観音堂

を広めました。1096(嘉保3)年からわずか4年の任期でしたが、安房の人々にやさしい政治をしたので、とても慕われていました。

都から国司としてきていた貴族の中には、地方での力を保つために土着して、武力で問題を解決する武士になっていくものもできました。平将門のように都に対して反乱をおこす武士もあらわれてきました。房総半島では、1028(長元元年)年に反乱をおこした、上総の国の上総介忠常が大暴れをしています。

下総・上総に勢力をもっていた忠常は、国司より力をもち、国の財産や年貢の略奪をくりかえしていました。そして長元元年の春、いきなり安房へ乱入すると、国府をおそって国司を焼死させてしまったのです。2年後にもふたたび安房へ侵入したため、新しくきていた国司は、国の印鑑と倉の鍵を捨てて、都へ逃げかえってしまうほどでした。

この忠常の乱のあとは、房総はとても荒れてしまい、再開発がおこなわれました。再開発された土地は荘園となり、開発をすすめていった人々が、安房の新しい武士になっていきました。1156(保元元年)年に京都でおこった保元の乱に参加した、安西、金鞠、沼平太、丸五郎などです。安西氏は館野地区の広瀬付近から三芳村にかけて勢力をもち、金鞠氏は神余周辺、沼平太は城山公園周辺に勢力をもっていた武士たちでした。

安房の平安時代の人として知られている人に、伴直家主がいます。国分の館野原に住んでいたといわれていますが、親孝行をして朝廷から表彰されました。家主の親孝行は、父母が亡くなってからも像をつくり、生きているときと同じように父母を大切にしたことでした。江戸時代になってからも孝子と言われたたえられ、国分の萱野と国分寺には記念碑が建てられています。



かみまりし ほんきよち ねんまろしよと
神余氏の本拠地・神余城跡



こうし け
孝子塚



ともこのあたいやかぬし
伴直家主



あんざい かげます
安西景益

(6) 鎌倉時代の館山

11世紀頃、本格的に登場してきた武士は、各地に強力な武士団をかたちづくりまします。なかでも東国武士団はその力が強く、そのリーダーとなったのが源氏でした。

源頼朝は、頼朝にしたがった武士たちに、以前からの土地の所有を認めたり、新しい土地や地位を与えたりしました。彼ら「御家人」が年貢を集め、土地を管理し、地方をまとめました。

頼朝と御家人の上下関係と、その支配が全国におよんだことにより、鎌倉幕府が誕生します。鎌倉が政治・社会の中心になると、館山にどのような影響があったのでしょうか。

1180(治承4)年に、石橋山の合戦に敗れた源頼朝は、伊豆から船で安房へ逃げ、勝山の竜島(鋸南町)へ上陸しました。ここで安房の武士を味方にしようと手紙を送ったのですが、何



頼朝上陸地 (鋸南町竜島)

おもしろ
探検隊

すのさきじんじや 西岬の洲崎神社

長狭氏におそわれたあと、頼朝は洲崎神社にお参りました。平家と戦うために、武蔵の国や下野の国など関東の武士たちが、頼朝に従うことを祈るためでした。洲崎神社はこの頃、いくさの神・航海の神として知られていて、頼朝はあつく信仰しました。東京湾を行き来する人々が信仰していたので、東京湾の沿岸には、洲崎神社の神様を分けて、おまつりしていたところがあります。江戸の神田や品川、神奈川(今の横浜)、

上総百首(富津市)などで、みんな重要な湊があった場所でした。



洲崎神社

おと ほうそう ちり みうらよしずみ あんない
 の音さもないので、房総の地理にくわしい三浦義澄の案内で、
 いすみ かずさのすけひろつね ひがし ほう む
 夷隅の上総介広常をたよって東の方へ向かいました。しかし、
 かもがわ いそむら へいけがた ながさろくろうつねとも
 鴨川の磯村にさしかかったとき、平家方の長狭六郎常伴におそ
 われてしまいます。義澄の活躍で長狭氏を滅ぼし、難をのがれ
 ると、ようやくあんざい まる かなまりし たす え
 安西、丸、神余氏たちの助けを得られるようになり、
 き へい ととの あわ かずさ む
 300騎の兵を整えて、安房から上総へ向かいました。

あわ よりとも でんせつ
 安房には、頼朝にまつわる伝説がたくさんありますが、それらを
 つなぎあわせると、下の図のようになります。

よりとも あんざいかげます あわ ぶし へいけ
 頼朝にしたがった安西景益などの安房の武士たちは、平家と
 たたか せ とないかい きゅうしゅう で だん うら
 の戦いのために、瀬戸内海や九州まで出かけました。壇の浦
 へいけ ほろ かまくら かえ いじょう つきひ
 で平家を滅ぼして鎌倉へ帰ってくるまで、1年以上の月日がか
 かっています。

よりとも あわ さいき ご かまくら ばく
 頼朝は、安房での再起をはかってから、12年後に鎌倉に幕

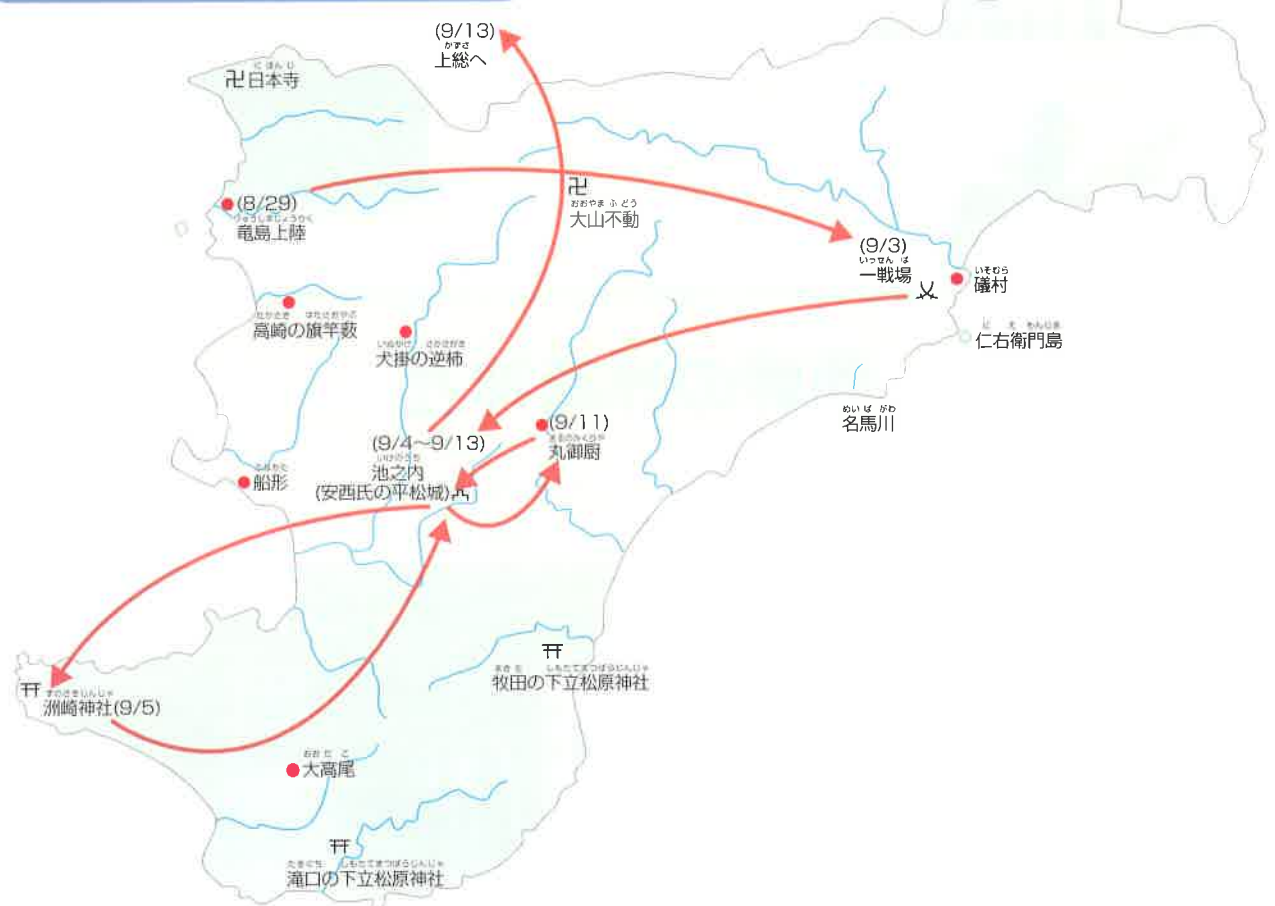


よりともでんせつ すのさき やしろ いど
 頼朝伝説がある洲崎の矢尻の井戸



かまくら ぶしろう でんせつ たまがわ たていし
 鎌倉武将の伝説がある瀧川の立石

よりともさいき 伊 頼朝再起の図(1180年)



府を開きました。功績のあった三浦氏は、安房の北部を所領にして、安房の最有力者になりました。安房で頼朝の御家人になった武士には、安西氏や丸氏、神余氏の他、安東氏、山下氏、多々良氏など、安房南部の武士たちがいました。

安房は、鎌倉とは海路で近いため、鎌倉の有力な神社やお寺、幕府の有力者の所領も多くありました。とくに執権の北条氏一族の勢力が及んだようです。館野地区の安房医師会病院の敷地で、北条氏ゆかりのお寺でしか使われない、鎌倉時代の瓦が出土したことがあります。平久里川の湊に近いことから、鎌倉と安房を結ぶ重要なお寺だったのかもしれません。

また鎌倉の文化の影響もおよんで、豊房地区の小網寺には、鎌倉の一流の職人がつくった梵鐘や、鎌倉で有名な審海という僧侶が使った仏教の道具が残されています。



執権北条氏の家紋（三ツ騎）が入った瓦



小網寺

鎌倉時代の安房の武士





豊房の小網寺

出野尾にある小網寺は、昔は仏教の修業をするための道場でした。平安時代の仏像もある古いお寺です。お寺の下の谷には、「やぐら」というお墓があって、弘法大師が修業した場所という言い伝えもあります。

鎌倉時代の梵鐘は、国の宝物として重要文化財になっています。法具と呼ばれる仏教の道具は、千葉県にとって重要な文化財です。平安時代の仏像は館山市の宝物で、文化財としていつ

までも大切に守っていくものです。



小網寺の梵鐘



花瓶



五鈷鈴



小網寺の観音様



蓮華型香炉



五鈷杵

(7) 室町時代の館山 (安土桃山時代)

室町幕府は、もともと朝廷が持っていた政治の権力を手に入れたことにより、武士だけではなく、貴族や寺社の上にもたつ政権となりました。地方については、国ごとにおかれた守護による支配を強め、あらたな地方支配者である守護大名が生まれます。

いっぽう、農業生産がいちじるしく発展し、農民たちが、あたらしい結びつきをつくります。彼らは、地域の武士とも結びつき、守護大名と対決するようになります。こうして社会が大きく変動し、戦国時代が幕をあけたのです。

戦国大名里見氏は、どのように生まれ、どのような支配をすすめたのでしょうか。

室町時代になっても、鎌倉が関東の中心でした。そして安房にもそのまま、鎌倉の有力者や大きなお寺、神社の所領がたくさんありました。しかし安房の武士たちは、領地を広げようと、所



水岡やぐら



おもしろ
探検隊

九重のやぐら

市内には「やぐら」が、まんべんなく分布しています。とくに多いのは九重地区で、九重駅の東の方にある安東や水岡には、大きなものがあります。水岡やぐらと呼ばれるものは、中の壁に17の五輪塔が彫ってあったり、焼いた骨を納める穴があります。また安東の千手院というところには、やぐらの横穴がお堂になっていて、中には室町時代の石の仏像がまつてあります。こ

のあたりは、安東氏という武士の本拠地でした。



千手院のやぐら

領争いをするようになっていきました。

安房と鎌倉との関係は依然として深く、この頃になると、「やぐら」と呼ばれる武士や僧侶の墓がたくさんつくられています。山の中腹に四角い穴を掘って、五輪塔や宝きょう印塔という石塔を置いたり、中の壁に刻んだりしています。これは鎌倉と房総半島にだけ集中してつくられたもので、鎌倉との強いつながりをしめしています。

鎌倉には、関東の将軍である鎌倉公方と呼ばれる足利氏と、その補佐をする上杉氏という大名がいました。この大きな勢力が対立をはじめることで、関東地方の戦国時代がはじまりました。

安房には足利氏と上杉氏の領地があつたのですが、白浜や千倉に勢力をもっていた上杉氏が、海上交通で優勢でした。そこで足利氏は、側近の里見義実（よしみ）に命じて、安房から上杉氏を追い出す作戦にでました。義実（よしみ）は、それまでの安房の有力者だった安西氏（あんざい）や、上杉氏（うえすぎ）の家臣（かじん）だった白浜（しらはま）の木曾氏（きそし）などを味方につけて、安房（あわ）の上杉（うえすぎ）勢力（せいりょく）の追い出し（おし）に成功（せいこう）するのです。



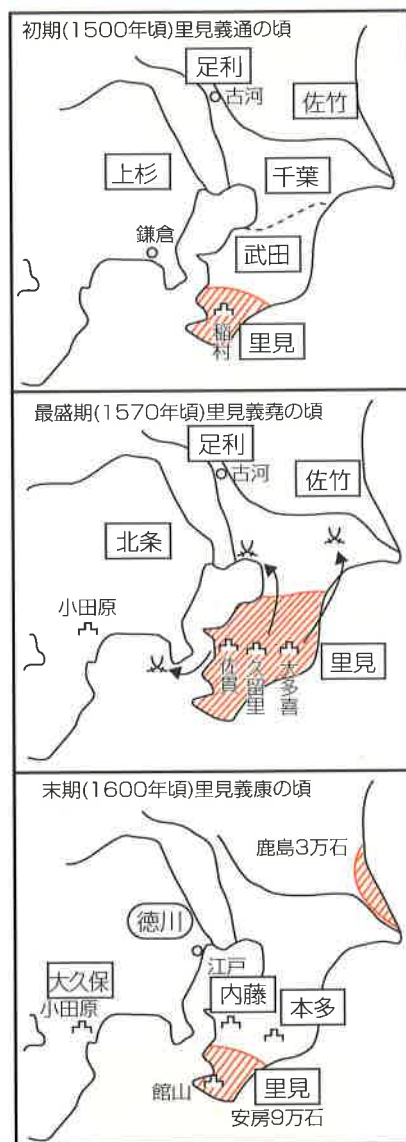
館野の稲村城跡

九重（ここのへ）駅の館山（くわんざん）よりで、線路（せんろ）に面（む）している山（やま）が稲村（いなむら）城跡（じょうあと）です。古代（こだい）からの安房（あわ）の中心地（ちゅうしんち）だった国府（こくふ）に近く、館山（くわんざん）平野（へいや）を見わたすこともできる場所（ばしょ）にあります。平久里川（へくろがわ）の湊（みなと）や内陸（ないりく）の交通路（こうつうろ）を押さえることもできて、安房（あわ）の国（くに）を支配（しはい）するためのお城（しろ）でした。戦（たたか）いになったときのこと（こと）を考えて、山（やま）の中には堀（ほり）や土塁（どるい）やくるわ（くるわ）がつくられて、いまでもそれが残（のこ）っています。



稲村城跡

安房里見氏の勢力図



やがて里見氏は安房の武士たちを従えるようになりました。1500年頃には、九重駅に近い稲村城を、安房を支配するための本拠地にしていました。その後、一族の内乱がありましたが、それをのりこえた里見義堯は、房総半島全域に勢力を広



三浦城ヶ島合戦の図（里見氏と北条氏）

げて、房総最大の戦国大名に成長したのです。そして1590年の豊臣秀吉による関東平定まで、平和な時代はなく、関東各地の勢力と争いが続きました。

里見氏の最大の敵は、小田原の北条氏でした。東京湾の支配をめぐる、下総の国の国府台や三浦半島などで、たびたび戦いがありました。水軍どうしの戦いでは、里見水軍の力が強く、三浦半島の海辺の村では暴力からのがれるために、里見氏と北条氏の両方に、年貢を納めることがありました。

1577(天正5)年になって、ようやく北条氏との争いが終わります。東京湾の交易が、安心して行えるようになったことから、里見氏は商業を盛んにすることを考えました。館山の湊に商人を集めて、経



おもしろ探検隊

館山城と湊

城山公園が館山城の跡です。城山のすまわりは、崖を垂直に削った壁になっていて、城だつとときのなごりです。戦国時代にはこの城山だけを城にしていますが、里見氏がここに住むようになって、城下町もつくと、汐入川の方の低いところまで、城を大きく広げました。御霊山には今も堀が残っています。

里見氏は富浦町の岡本城から、湊が大きな館山に移ってきました。里見氏は湊を使って交易を盛んにすることを考えたのです。高の島が陸

から離れていた頃は、今の館山港の場所は、深くて西風がふせげるととてもいい湊でした。



館山港と館山城跡

ざい くに ちから
濟で国の力をつけようとしたのです。

しかし、天下統一をすすめる豊臣秀吉が、1590(天正18)年に北条氏を攻めたとき、里見氏も秀吉に従って戦ったにもかかわらず、軍令違反をしたため、安房だけを残して、他の領地を全部とりあげられてしまいました。

北条氏を滅ぼして関東を手に入れた秀吉は、徳川家康に関東を与えました。そのため、安房の国のまわりは、徳川氏の家臣でうめつくされてしまいました。その中で里見氏は、安房9万石の大名として、国を支配するための城を館山に築き、家臣をはじめ商人や職人を集めて、城下町をつくることにしました。

最初は館山地区の新井に上町、仲町、下町などの町の形を整え、次第に長須賀、北条へと町を広げていきました。こうして、いまの館山市の市街地のものがつくれたのです。そのとき里見義康は、次のような意味の触れを出して、市をつくって、商売を盛んにするように努めたのです。



里見義弘が使った印章

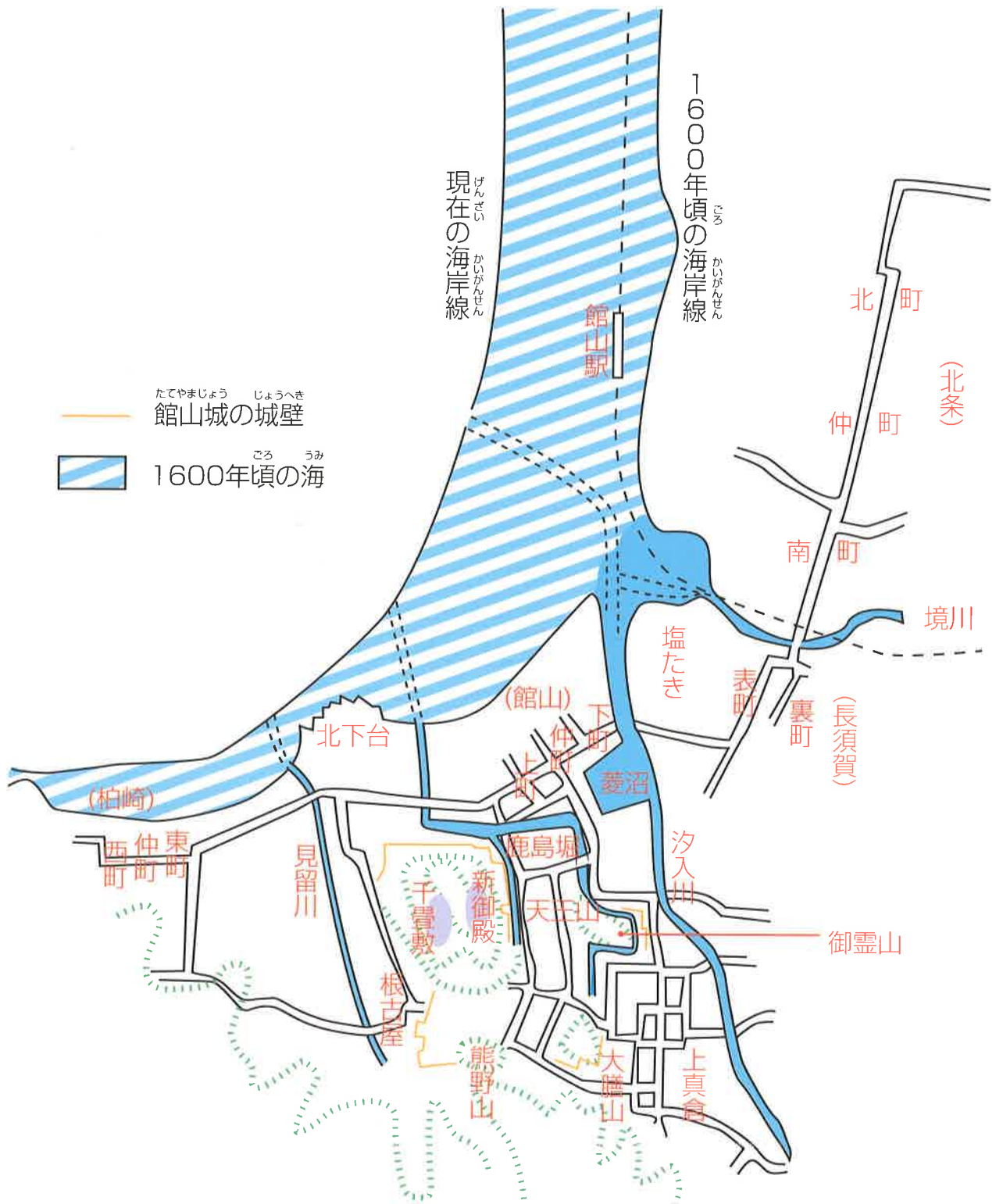
里見義康法度条々

- 一、他国の商船が、新井町以外の浜へ船を乗り付けて、商売をしてはならない。
必ず、新井町に船をつけて、売り買いをすること。
 - 一、坂田・波左間から内浦までの海岸の村では、他国の商人に宿を貸してはならない。
もし宿を貸したときは、家の財産を全部取りあげる。
 - 一、安房国内の商人や漁師が、ひとりですら、商売と漁業の両方をする場合は、
それぞれの税金を支払うこと。
 - 一、武家の奉公人が、塩魚や干魚を買うときは、商人ときちんと相談して、正しい取り引きをすること。
むりやり安く売らせないこと。
 - 一、新井町で市を開くので、農村へ行って勝手に仕入れをしてこないこと。
必ず、市で売り買いをすること。
- 右のとおり、安房国内の商人たちへ申し渡します。

慶長6(1601)年4月14日 里見義康より

岩崎与次右衛門
石井丹右衛門
松本豊右衛門

じょうかまち す
館山城と城下町の図



(8)江戸時代の館山

江戸幕府は、大名に対する支配と統制を強め、圧倒的な力で、すべての大名の上にそびえ立ちました。いっぽう、民衆のなかの大多数をしめる農民を支配するため、武士・農民・町人の身分をきびしく区別しました。

およそ2世紀半にわたる封建社会のなかで、館山の政治・経済・社会は、どのように展開していったのでしょうか。

里見氏滅亡

関が原合戦のとき、里見義康は徳川秀忠、秀康に従って、宇都宮（栃木県）へ出馬しました。会津（福島県）の上杉氏が、西軍の石田三成と手を組んでいたため、それに対する備えのためでした。この功績が認められて、徳川家康から、鹿島（茨城県）で3万石の領地を新しくもらいます。里見氏の領地は安房と合わせて12万石になり、関東最大の外様大名になったのです。

しかし、義康は若くして病死してしまいます。そのため長男の梅鶴丸は、10歳で家を継ぐことになりました。1606（慶長11）年、13歳のときに将軍徳川秀忠の前で元服の式をおこない、秀忠から名前の一文字をもらって、忠義と名乗ります。他にも従四位下・侍従・安房守という位をもらって、幕府の重臣たちとも付き合うようになりました。

ところが、1614（慶長19）年9月9日、21歳の忠義が、節句のあいさつで江戸城へいくと、幕府から「小田原城主大久保忠隣（忠義の妻の祖父）に米や足輕を送り、館山城に新しい堀をつくり、浪人を大勢召しかかえて、幕府に反乱をおこそうとしている。よって、安房9万石は取り上げ、鹿島3万石の替わりに、伯耆の国倉吉（鳥取県）に国替えを命じる」という命令を、とつぜ



慈恩院にある里見義康の墓



里見忠義が最後の思いをこめた棟札

う
ん受けたのでした。

いえやす おおさか とよとみ け めつぼう かつせん まえ え ど
家康は、大坂の豊臣家を滅亡させる合戦をする前に、江戸
あんぜん
を安全にしておくことを考えていました。そこで、関東にただひと
かんが かんとう
つ残った外様大名の里見家を、取りつぶしておくことが家康の
のこ とごまだいみょう さとみ け と いえやす
ねらいだったのです。

とも だだよし おおさか おこな かつせん
わずかな供をつれた忠義は、大坂で行われている合戦をよこ
め
目にしながら、暮れの12月にくらよしにきました。ついでみるとただ
くらよし つ
義が与えられた領地は、4千石しかありませんでした。倉吉では、
よし あた りょうち せんごく くらよし
故郷の安房へ帰ることをひたすら神仏に願う生活でしたが、3年
こきょう あわ かね しんぶつ ねが せいかつ
後にはその領地さえも取りあげられてしまいました。

げん な いえさいこう ゆめ だだよし
そして1622(元和8)年6月、お家再興の夢もむなしく、忠義は
さい わか びょうし さとみ け だんぜつ かしん
29歳の若さで病死しました。里見家は断絶となり、8人の家臣が
しゅくくん し せっぽく せんごく くらよし だいがくいん
主君の死とともに切腹したといわれています。倉吉の大岳院に
いま だだよし かしん はか のこ
は、今も忠義と家臣の墓が残っています。

さとみ し ばくふ たてやまじょう と
里見氏がいなくなった館山では、幕府が館山城を取りこわし
ました。こわした建物のはりなかす ぼりう
城山公園の駐車場をつくる時の発掘で、そのときの廃材がた
しろやまこうえん ちゅうしゃじょう はくくつ はいざい
くさん出てきたことがあります。



むらみ だだよし ばく
里見忠義の墓



むらみ だだよし いん やしきおと せむらひ だいがくいん
里見忠義最後の屋敷跡 (鳥取県関金町)

さとみ し かいえき けいちょう 里見氏の改易(慶長19年=1614年)





村に残った里見氏の家臣

里見氏が倉吉に行っても、多くの家臣たちは倉吉に行きませんでした。そこで他の大名に仕えるものもいましたが、ほとんどは武士の身分から農民になって、村の指導者になっていきました。今でも安房地方の各地には、先祖が里見氏の家臣だったと伝えていたり、古い里見時代の書き物を残しているお宅があります。きっとあなたの近所にもいるはずですよ。



里見氏の古文書

里見氏以後の安房地方

安房地方の新しい支配者には、里見氏のような大きな大名はきませんでした。9万石の安房には270の村がありましたが、1万石ほどの小さな大名の支配地や、それ以下の旗本と呼ばれる将軍直属の武士の支配地、幕府の直接支配地など、たくさん領主たちに分けられてしまいました。そして江戸時代が終わるまでのあいだに、村の領主は何度も入れ替わったのです。



江戸時代、那古寺門前にぎわい

農民騒動

江戸時代には、館山で3つの農民騒動が occurred.

七人様

1672(寛文12)年、この年、大神宮村の領主が旗本の河野三左衛門にかわりました。江戸で生活する旗本は、元禄文化のはなやかで高い生活費に悩まされていました。そのため三左衛門は、すぐに年貢を増やしたうえ、村人に山の年貢を払わせながら、山へ入ることを禁止しました。村人は仕方なく、山に入るための税を別に払って、山を利用したのです。

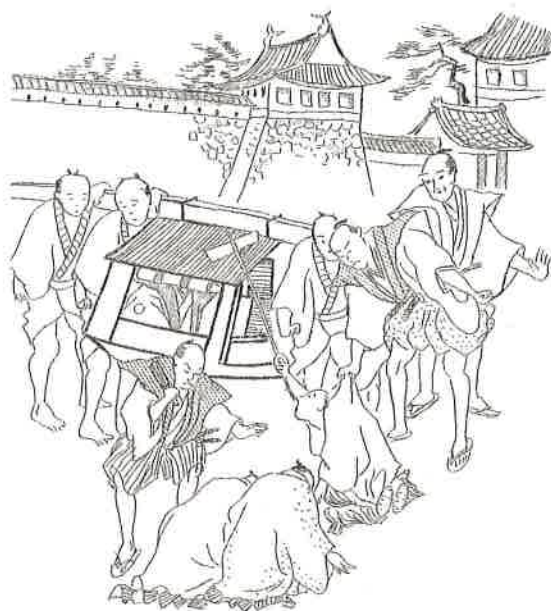
ところが、1679(延宝7)年ごろから米の不作が続いて、いよいよ



七人様の供養塔(千禪寺)

よ納めるものがなくなっていました。1680年と81年には、領主の江戸屋敷へ年貢を軽くしてもらえよう願いでたのですが、聞き入れてもらえなかったため、ついに1682(天和2)年、老中に直接訴えたのです。しかし、この越訴は失敗して、代表者7人は処刑されてしまいました。

このあと村人たちは、7人を供養するお墓を建てて、その偉業を後の人たちに伝えようとした。そのお墓はいつしか地中に埋もれてしまいましたが、お堂を建てなおすときに見つかりました。今は大神宮の千祥寺に館山市の文化財として保存され、七人様と呼ばれています。



老中の篤庵に訴える図

三義民 北条藩の領主屋代越中守は、安房郡に1万石の領地がありました。北条(新宿・上野原)・長須賀・湊・高井・安布里・国分・山本・大作・滝川・腰越・広瀬・稲・加戸・蘭・水玉・安東・ふたご・ぼうがい・みなみかたおか・きたかたおか・おおい・えだ・たけわら・かもなか・みしょういけのうち・むらむら岡・大井・江田・竹原・加茂・中・御庄・池之内の27の村々を支配していましたが、1711(正徳元)年に、ここで一揆がおこりました。合計1万石の村が参加したので、この一揆を万石騒動と呼んでいます。

元禄文化のはなやかな江戸の生活で、大名たちは出費がかさみ、多額の借金に苦しんでいました。浪人から藩の重臣にとりたてられた川井藤左衛門は、藩の収入を増やすことを考えました。

藤左衛門は、まず、元禄の地震で、海岸に新しい湿地ができたことから、それを埋め立てて水田をつくりました。さらに水路を切り開くと、そこに滝川の水を引き入れて、国分の下の広い水田をうるおしました。こうして収入を増やそうとしましたが、これは時間がかかることでした。そのため、酒屋などが幕府から免除された税を勝手に取りたてたり、田植えの大切な時期に、村人の迷わくも考えないで、北条の鶴ヶ谷で大切にされてきた林の木をすべて切りたおさせたうえ、江戸に運んで売り払ってしまったのです。



三義民処刑場跡(菅野)



三義民の供養塔(国分寺)

そしてとうとう、正徳元年しょうとくがねんになると、これまでの2倍近い年貢ねんぐを払うように命じたのでした。農民は年貢をへらすように、北条の役所へ願い出ました。しかし役所ではいっこうに受けつけてくれないので、1万石の領地から600人の農民が、江戸の屋敷へおしかけました。すると藤左衛門は、代表者6人を牢屋におしこめて、3人を処刑してしまっただのです。



裁判のようすの図



館野の滝川用水たきがわようすい

悪政をした川井藤左衛門でしたが、滝川から国分の下まで水を引く用水を作ったことは、その後とても人々の役にたちました。用水の取り口は箱橋のところで、国道にそって滝川用水がつくられています。そして国分の郵便局のうしろに、水をためる堰があって、そこから水を広い水田に配ったのです。



残された村人がそのことを老中に越訴すると、訴えが聞き届けられて、藤左衛門は死刑になり、領主の屋代越中守は領地を没収されてしまいました。処刑された3人は三義民と呼ばれて、いつまでもたたえられました。3人の名は、湊の角左衛門、国分の長次郎、藺の五左衛門といいます。

忍足佐内 今富浦町になっていますが、忍足佐内は金尾谷村の名主でした。領主は勝山藩の酒井という殿様で、那古地区の小原も同じ領地になっていました。

明和と呼ばれた時代には、天災や凶作が続いて、全国で百姓一揆や打ちこわしがおこっていました。とくに1770(明和7)年の干ばつでは作物が実らず、農民はたいへん苦しみました。

勝山藩の村々でも被害がひどく、それぞれの村の名主たちは勝山の役所へうたて、年貢を少なくしてもらうことにしました。

奉行の稲葉重左衛門と代官の藤田嘉内が、被害のようすを調べにきましたが、金尾谷村と白坂村(どちらも富浦町)、そして小原村の三か村だけは、訴えが認めてもらえませんでした。それは奉行たちにワイロをおくらなかったからでした。

正義感の強い佐内は、小原村の名主平兵衛といっしょに、村人を救うために藩主の江戸屋敷にいき、村人が困っていることや、奉行の悪政を訴えたのです。奉行は、このことで佐内をうらみ、勝山の牢屋にとじこめておきましたが、悪政がばれることをおそれ、処刑してしまいました。岩井(富山町)の牢屋に入れた平兵衛も、何者かに連れさられて、行方不明になってしまいました。明和8年のことでした。

二人の遺族も追放になり、その後、佐内の遺族が江戸に出て、ねばり強くこの不正を訴えました。ようやく3年後に訴えが認められ、奉行たちは追放され、佐内と平兵衛の家は元どおりにされました。



忍足佐内の記念碑(富浦町)



処刑地跡の地蔵(富浦町)

元禄大地震

1703(元禄16)年11月23日午前2時ごろ、関東地方南部に大地震と大津波がおこりました。安房地方では地面が隆起して、北条地区の海岸は400メートルも遠くへのびたり、西岬地区では海岸の崖が5メートルも高くなったりして、地形が変わってしまうほどでした。

津波の被害も大きく、富崎地区の相浜では86人が犠牲になりました。流された家は67軒、船は76艘が流されました。相浜の蓮寿院にはそのときの犠牲者のための供養塔が建てられています。

また、人々の生活にも大きな影響を与えました。長須賀の海岸では塩をつくっていましたが、地形が変わってつくれなくなってしまうました。高の島の湊にあった船着場の土手もくずれて、船が着きにくくなりました。平砂浦では砂浜が広がり、山の上まで吹き上がる、砂との闘いははじまることになったのです。

その一方で、船形から那古・正木・湊・八幡・北条・館山、そして沼までの海岸では、広がった海岸をたがやして、田や畑をふやすことができました。船形地区の川名の町ができたのも、この地震のあとのことです。

元禄大地震後のようす





おもしろ探検隊

那古観音下の海岸

那古観音の崖の下は、この地震がおこるまでは、波が打ちつけていました。人が通ることはできず、那古寺を参けいた人が江戸へ向かうときには、那古山を越えて川名岡へ出て、富浦町の八束へいきました。そのときの波打ちぎわは、第一中学校近くの弁天様のところでした。那古寺から館山駅前に行く県道の西側は、道よりも低くなっています。この坂が元禄大地震までの

砂浜だったからです。館山駅はそのころ海の底だったのです。



1672年の那古海岸の古絵図

江戸時代の海上交通と江戸文化

江戸時代の、漁業は大型の網を引いて、大量の魚をつかまえる方法にかわりました。これには人手がいるので、漁村の人口がふえていきました。新しい漁法を伝えたのは、関西の漁師たちでした。外房ではイワシをとって干し、肥料として関西や江戸へ出荷し、内房では生魚のまま江戸の魚市場へ送りました。

生魚は新鮮なうちに送らなければならないので、運ぶ船は高速の押送船が使われました。ふつうの船が江戸に向かうときには、浦賀の番所で荷物の検査を受けなければなりませんでしたが、押送船は時間をあらそうので、浦賀をす通りする、特別の許可を受けていました。これには客を乗せてはいけなくなっていました。陸路で江戸へ行くには3泊4日もかかったため、10時間ほどで着いてしまう押送船には、ないしよで乗り込む人が大勢いました。

船を使えば江戸との距離が短いことから、江戸へでて仕事をする安房の人もたくさんいました。また江戸へ勉強に行く人もいて、学問をはじめ医学や絵画・彫刻などの知識や技術を身につけた人が安房で活躍しました。江戸と安房を行き来する商人や、江戸からくる学者や文化人も多く、江戸の文化が安房地方の文化に影響を与えていました。

江戸時代の船の航路





船形の港と防波堤

館山湾では船形地区と館山地区の新井で漁業が盛んでした。押送船もたくさんもっていて、船形では1808(文化5)年に33艘ありました。船の出入りがひんぱんになった船形では、1855(安政2)年、港の安全のために、港の西側に石を積んで、防波堤を築きました。1923(大正12)年の大地震で、陸の上にあがって使えなくなりましたが、昔の姿のまま今も残されています。



船形のむかしの防波堤

幕末の海岸警備

寛政年間(1790年頃)になると、外国の船が日本のまわりをくまわりようになりました。水や食料をもとめたり、貿易をもとめてくるのです。鎖国をしている日本では警戒して、老中の松平定信が東京湾の警備を強くしました。そして大名に命じて三浦半島や安房地方にお台場や警備の陣屋をつくりました。館山湾の北の大房岬や、北条の海岸、高の島、東京湾入口の洲崎、西岬の伊戸、富崎の布良にもお台場が築かれて、大砲がおかれま



異国船の図

した。はじめに白河藩(福島県)が西岬地区の波左間に陣屋をおいて、500人の武士が警備にあたりました。その後北条の鶴ヶ谷に陣屋が移されて、忍藩(埼玉県)や岡山藩(岡山県)の武士たちがきて警備をするようになりました。1853(嘉永6)年にペリーの艦隊が浦賀にきて大さわぎになると、館山からも漁船や漁師が警備にかりだされています。

外国船の見張りや警備の手伝い、荷物の運送、巡視する役人の接待などで、安房の人たちはとても迷わくしていました。大砲をつくるために、お寺の鐘を出すことを要求されたこともありま

した。しかし外国と条約を結んで、交流をはじめると、陣屋や砲台は取り払われました。



北条陣屋で使われた警備の陣鐘

かいがんけいび だいぼ じんやぶんぶす
海岸警備のお台場と陣屋分布図



おもしろ
探検隊

すのさき だいば
洲崎のお台場

とうきょうわん いりぐち すのさき じゅうよう ばしょ
東京湾の入口にある洲崎は重要な場所だった
ので、今の洲崎灯台より先の崖のきわにお台場
がつくられました。そこには大砲が5つ置かれて
いました。遠見番所と呼ばれる見張所もありま
した。昔は玉よけの土手が、石を積んでつくって
あったそうで、その石は今、近くの家の石垣に利
ようされています。



すのさき だいば
洲崎にあったお台場の絵

(9) 明治時代の館山

明治政府が、強力な国家をつくるため、特に力をそそいだことは、工業を発展させることでした。また、封建的な身分制度をやめ、皇族をのぞくすべての国民がほぼ平等となるようにあらためました。

このことで、誰でも名字を名乗れ、職業や住まいがほぼ自由に決められるようになりました。社会の急激な変化は、人びとの生活にどのような影響を与えたのでしょうか。

明治維新

1867(慶応3)年に、将軍の徳川慶喜が天皇に政治を返して、江戸時代は終わりました。しかし新政府軍は、年があげた1868(明治元)年、江戸をめざして進軍してきました。江戸にいて幕



箱根の戦いで死んだ人たちの供養塔 (館山・長福寺)



萱野の武家屋敷跡

館野地区の国分に、萱野と呼ばれる場所があります。明治のはじめに、長尾藩の武士が住むための住宅地がつけられたところです。外から見るとこんもりとした森のようですが、中はまっすぐの道で区画されています。計画的につくられた武家屋敷があったからです。中ほどにある稻荷神社は藩のお殿様がまつた神社です。



萱野の稲荷神社

府を支持する武士たちは、これを迎えようとします。館山からも参加して箱根で戦い、戦死した人たちがいました。館山仲町の長福寺には、その人たちの供養塔があります。

将軍をやめた徳川慶喜は、静岡に領地を与えられました。そこに前からいた大名たちは、房総半島に領地を移されました。安房には田中（静岡県藤枝市）というところから本多という大名が来ました。はじめ白浜に陣屋をつくりはじめて、長尾藩と呼ばれましたが、陣屋が台風でこわれてしまったので、北条につくりなおしました。そして北条やそのまわりに、田中から武士がたくさん移住してきました。

しかし、1871(明治4)年に、大名は領地を天皇に返して、新しくできた県の知事になりました。こうして武士の時代が終わり、武士たちは役所の役人や学校の先生になりました。新しい仕事をはじめようになりました。

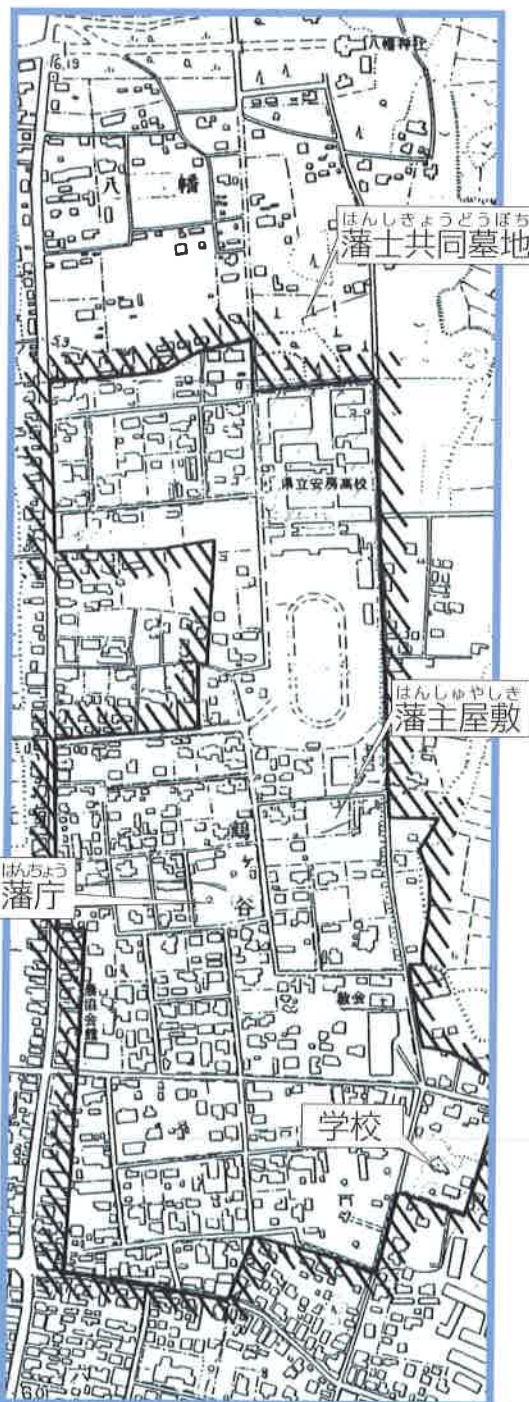
長尾藩の陣屋があった場所

陣屋のなかには、お殿様の屋敷や長尾藩の役所・学校・武士たちの屋敷などがありました。北条につくりなおした陣屋は、八幡から北条にかけての鶴ヶ谷と呼ばれる地域にありました。安房高校から北条六軒町の諏訪神社にかけての住宅地がそうで、横の生け垣や丁字路を多くして、敵が攻めてきたときに道がわかりにくいようにしてあります。

安房高校の東門近くにある神社は、お殿様がまつた神社で、その南側にお殿様の屋敷がありました。安房高校の北はずれには、いまもたくさんのお墓があります。



長尾藩士の墓地（八幡共同墓地）

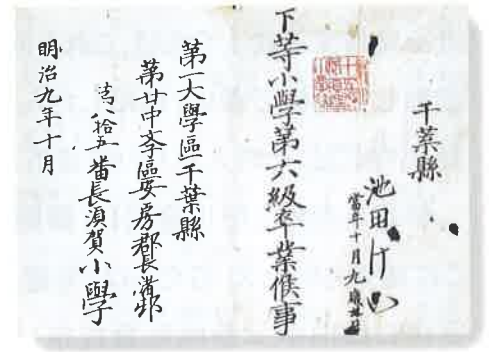


小学校のはじまり

明治維新で安房にきた長尾藩や、もともと館山にあった館山藩には、1871(明治4)年の廃藩まで、藩校がありました。そこでは武士や武士の子どもの教育をおこなっていました。庶民の子どもは、学問のある人やお寺が開いていた、塾や寺子屋で学んでいました。

1872(明治5)年に学校制度が定められると、はじめはお寺や民家を借りて、小学校が開かれました。子どもたちは、読書や習字・そろばんを勉強しました。そして、学校を整えたり、子どもが学校に入るよう親に説明するために、各学区に1名ずつ世話役がおかれました。

学制では、学校の経費は住民負担になっていたため、児童ひとりにつき、50銭から20銭の月謝を取りました。その頃としては高い金額だったうえに、子どもは、農家の大切な働き手だったので、子どもを入学させる親は少なく、半分くらいの子は学校に入りませんでした。山本小学校(館野)では、1873(明治6)年に学校へ行く年齢になった女子が46人もいたのに、入学した



卒業証書



むかしの運動会(豊津小学校)



むかしの教科書



がくようひんきょうきゅうじょ 学用品供給所

この写真は、富崎小学校のなかにあった学用品供給所のような、明治時代の写真です。学校でつかうノートや鉛筆、習字の筆などの学用品を子どもたちの必要なときにすぐに、しかも安く買うことができる場所が、学用品供給所です。先生の指導で六年生など上級生が販売や帳簿の記入をしていたそうです。



富崎小学校の学用品供給所

のは3人だけでした。

産業と交通の発達

明治時代になると、全国でさまざまな新しい産業がはじまりました。館山でも東京の生活をささえたり、新しい工業をささえる産業がはじまるようになりました。また新しい技術も入ってきました。

水産業では、遠洋漁業が発達して、館山港と汽船の棧橋に近い館山地区に、捕鯨の基地や魚の加工をする工場ができて、缶詰をつくったり、鯨の油をとっていました。また、館山地区の柏崎ではまぐりの養殖、宮城でのりの養殖も行われました。

農業では、稲作の技術が改良されて収穫を増やしたり、神戸地区を中心に、野菜の温室栽培が行われるようになりました。

畜産業では、牛の牧畜が盛んになって、北条にバターやアイスクリームをつくる工場ができた、房州の牛乳が東京まで運ばれるようになりました。



館山へ来た汽船



北条海岸の煮干づくり



棧橋と汽船



神戸の促成栽培

なすやきゅうりなどの野菜を、ガラス箱の中で早く育てる促成栽培は、館山市では明治時代にはじまりました。はじめは北条に住んでいた万里小路伯爵が、当時の先進技術者を招いて指導にあたり、神戸地区の寺田亀太郎たちが学んで、暖かい安房地方の特性をいかして神戸地区や北条地区に普及していきました。大正時代になると大規模な

温室栽培もはじまり、全国でもトップクラスの促成栽培地になりました。



神戸の温室栽培

ほかに、海草から薬をつくる工場や、落花生から油をつくる工場などもできました。

館山の産業をささえたのは、1878(明治11)年に航路ができた、蒸気船でした。人とたくさんの荷物をいっしょに乗せて、館山と東京の間を片道6時間から7時間で、1日5往復していました。船に乗るための棧橋は、館山、北条、那古、船形の海岸にありました。



明治時代の鏡ヶ浦絵図

観光地のはじまり

汽船ができて、東京との行き来が便利になると、鏡ヶ浦の海岸に都会の人たちの別荘ができるようになりました。冬に暖かく夏は涼しいことから、保養にきたり、病気の人が療養するために、潮風にあたりに来たのです。なかには館山に住みついてしまう人もいました。



大正時代の海水浴

明治30年代になると、東京の学生が水泳に来るようになって、鏡ヶ浦が海水浴場として有名になりました。海水浴などの旅行



むかしの幸田旅館



鏡ヶ浦の海水浴

日本の海水浴場は、1885(明治18)年に神奈川県の大磯にできました。はじめは病気を治したり、健康になるために行われました。館山でも明治20年代にはじまります。明治31年に、今の東京大学の水泳部が八幡の海岸で水泳をはじめると、東京の学校がつぎつぎと来るようになって、1906(明治39)年には、水泳の関東大会が鏡ヶ浦で行われました。鉄道が開通すると、

ますます海水浴客が増えて、昭和30年代には、毎年夏になると、70万人の人出がありました。



学生たちが参加する関東水泳大会(大正初め頃)

くひとふ くる人が増えてくると、北条や館山には旅館やみやげ物屋が
 増えてたり、館山を紹介する旅行案内書がつくられて、町の宣伝
 がされるようになりました。また、館山の北下台や柏崎の国司神
 社、那古寺や船形の崖観音など、ながめのよい場所が公園にな
 っていました。

あたらさんぎょう 新しい産業ができたり、旅行客が増えたりして、汽船場を
 ちゅうしん 中心に北条と館山は、ますます発展していきました。とくに北条
 は、1897(明治30)年に安房郡の郡役所もおかれて、安房地方
 の中心地となっていきました。今の安房高校や安房南高校、安
 わにしこうこう 房西高校が開校したのも、この頃でした。



たかしまの海水浴



なごやまかいがんののうようたい 館山海岸の納涼台

かがみがうらのはっけい
鏡が浦八景
 たいしやう たいしやう
 (大正6年『安房の伝説』より)



(10) 大正時代の館山

明治20～30年代を中心に、日本は「産業革命」を経験し、工業が発達しました。

しかし、人びとの生活がよくなったわけではありませんでした。なぜなら、台湾や韓国といった植民地を得たことが、新しい経済の発展のもとになったからです。

大正時代には、化学工業・交通通信・金融などの新しい産業が発展していきますが、1923（大正12）年、関東地方南部におこった大地震により、日本の経済は大きな打撃をうけます。

大正時代の館山の人たちに、大きな影響を与えたのは、鉄道の開通と関東大震災でした。

鉄道の開通

房総半島は山が多いので、東京へは人も荷物も船でいきましたが、道路を使って荷物を運ぶのは、とても不便でした。明治時代になって、とうげ道をトンネルにしたり、山越えの道を切り下げたりして、やっと荷車が通りやすくなりました。しかし、荷物をたくさん早く運ぶには、鉄道をひく必要がありました。

千葉県の鉄道開通は、1894（明治27）年の、市川～佐倉間が最初でした。安房地方までは、山が海岸までせまっっていて、たくさんのトンネルを掘らなければならないので、計画がなかなか進みませんでした。

館山までの鉄道建設は、1912（明治45）年にはじまりました。市内に駅ができたのは、那古船形駅が1918（大正7）年8月10日、館山駅（昔は安房北条駅）が大正8年5月2日、九重駅が大正10年6月1日でした。このおかげで、東京まで4時間くらいで行けるようになりました。



湊川鉄橋をいく汽車



安房北条駅構内



安房北条駅前の町設旅客案内所（大正頃）

そのかわり、汽船で東京へ行く人は少なくなってしまいました。
船形では駅の周辺に店がならぶようになって、人や荷物のにぎわいは港から駅前につりました。那古の町も、那古寺の門前町や棧橋には、丸山や三芳方面の人々が集まり、とてもにぎやかでしたが、駅が船形にできてしまったため、静かになってしまいました。

北条では、当時、駅をつくるのに、町の中心が神明町通りであったので、船形・正木から神明町という路線も考えられました。しかし、館山は将来、海を中心に発展する必要があるということから、今の場所につくられました。北条棧橋から汽船で東京へ行き来していた人は、雨の日も風の日も、安心して東京へ行けるようになったのです。汽船の方が運賃が安くても、汽車に乗



大正12年の駅前通り



むかしの館山駅前（安房北条駅）



おもしろ探検隊

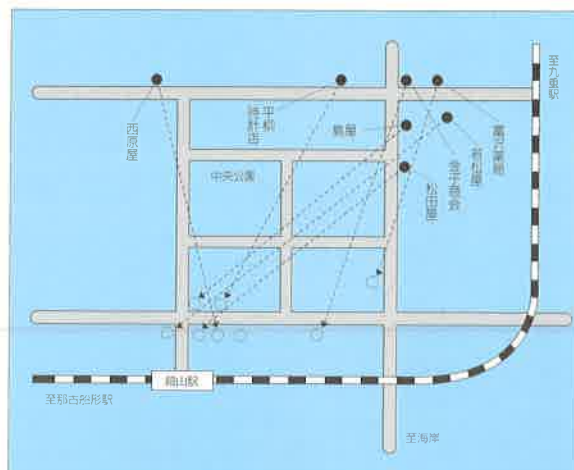
市街地の変化

駅ができたことで、北条の町がもっとも変わりました。北条は砂丘の上にある神明町の通りが古い町で、里見氏の時代から商人がたくさん住んでいました。

江戸時代には北条藩などの役所があり、明治時代には安房郡役所や裁判所、警察署などもできて、政治の中心でもありました。それは東西南北から道路が集まってきていたからでした。

駅ができて銀座通りに店がうつると、新しい商店街ができて、駅が中心の町に変化していきました。それは、鉄道がいちばん重要な道になったからです。

神明町の通りから駅前に移った店



っていきました。そして、^{しんめいちやう とお}神明町の通りにあった店は、^{みせ ひととお おお}人通りの多
 くなった駅前^{えきまえ}の銀座^{ぎんざ}通り^{どお}にうつっていきました。

関東大震災

1923(大正12)年9月1日、午前11時58分、多くの家庭で食事に
 にかかろうとしていたとき、大地震^{おお じしん}が occurred。学校は、ちょうど
 始業式^{しぎよしき}だけだったので、校舎^{こうしゃ}はつぶされましたが、子ども^{ひが}の被害
 はあまりありませんでした。

しかし町の中は、とても大きな被害^{ひが}でした。ほとんどの家はつぶ
 れ、下じきになった大ぜい^{おお ひと}の人が、けがをしたり、死んでしまいま
 した。船形^{ふねがた}では大火事^{おほい}がおこっています。被害^{ひが}が大きかったのは、
 館山^{へいや}平野^{ちくら}から千倉^{ちくら}にかけての低い平地^{ひく へいち}で、地盤^{じばん}がゆるいところ
 でした。

江戸時代^{えど じだい}の元禄地震^{げんろく じしん}と同じように、このときも土地^{とち}がもち上^あ
 りました。そのため港^{みなと}がこわれたり、海^{うみ}が遠浅^{とおあさ}になって、高^{たか}の島^{しま}ま
 で干^ひがたができて歩いてわたれるようになりました。那古^{なご}、船形^{ふねがた}、
 館山^{くわんざん}、北条^{きたじょう}での被害^{ひが}はとくに大きかったので、被害^{ひが}の少^{すく}なかつた
 近く^{ちか}の村^{むら}から救援^{きゆうえん}にきたり、全国^{ぜんこく}からは、お見舞^{みま}いの品物^{しなもの}がた
 くさん届^{とど}きました。

この災害^{さいがい}から立ちなおるために、安房郡^{あわぐん}の村^{むら}や町^{まち}は協^{きやう}力^{りき}し
 あいました。安房郡^{あわぐん}震災^{しんさい}復興^{ふっこう}会^{かい}をつくって、学校^{いっせ}や家^たを建てな
 おす大工^{だいこく}さんの賃金^{ちんぎん}を援助^{えんじよ}したり、産^{さん}業^{ぎやう}の被害^{ひが}も大きかつたの
 におお



地震でくずれた鉄橋(九重千倉間)



北条の地割れ

館山市の地震被害

地区	全戸数	全壊戸数	半壊戸数	焼失戸数	流失戸数	家屋の被害率	死亡者数	負傷者数
北条	1616	1502	47	18	—	97.0%	230	1040
館山	1678	1455	153	55	—	99.1%	116	152
那古	900	870	18	—	—	98.7%	125	300
船形	1178	625	139	340	—	93.7%	133	290
西岬	793	107	146	—	1	32.0%	10	12
神戸	563	197	81	1	—	49.6%	11	5
富崎	580	15	19	—	70	17.9%	1	6
豊房 (神余)	722	314 (内88)	204 (内40)	—	—	71.7%	31 (内12)	32 (内4)
館野	507	478	11	1	—	96.6%	50	28
九重	462	372	60	1	—	93.7%	20	40
合計	8999	5935	878	416	71	81.1%	727	1905

で、それを再開するための援助もしました。北条や館山では観光を盛んにして、新しい町づくりをしようしました。そのため旅館や貸間が増えていきました。



安房高等女学校（安房南高）の倒壊



那古の震災のようす



船形の焼跡



館山（新井）の焼跡



おもしろ
探検隊

富崎の津波被害

関東大震災のときには、津波もおこりました。洲崎の方向からやってきて、巴川を逆流し、犬石の巴橋を勢いよく越えていったそうです。富崎地区では70軒の家が、津波で流されました。漁船も119艘が流されたり、壊れたりしました。しかし、元禄大地震のときの被害の教訓から、海水が引いたあとに津波がくることを予測できたので、みんなが高台に逃げました。そのお

げで、津波の犠牲になった人はいませんでした。



津波の被害（布良）

(11) 昭和時代の館山

1929 (昭和4) 年、アメリカに大恐慌がおこると、その大波が日本にもおよびました。以後、日本は日中戦争から太平洋戦争へと15年にわたる戦争へと突入し、1945 (昭和20) 年の日本の敗戦により戦争は終わります。戦時中、人びとはどのような不自由な生活をしていたのでしょうか。また終戦後、日本はどのように生まれ変わったのでしょうか。

戦前の館山

昭和になると全国的に観光旅行が盛んになりました。日本の美しい風景を大切にしようという関心も高まります。昭和2年に新聞社が行った日本八景の全国投票では、鏡ヶ浦が海岸の部で第5位になっています。こうして自分たちが住む郷土の美しさを見直すようになりました。

この頃から鏡ヶ浦で花火大会が始まりました。砂浜での宝さがしなどのイベントもおこなわれます。脱衣所や休憩所、納涼台などもつくって海水浴場を整備し、町をあげて観光客を迎えるようになりました。観光客が来ることで町が発展するからでした。館山北条や那古では観光協会をつくって町の宣伝をしたり、北条海岸には町営の「渚の家」という宿泊施設もできました。

夏になると毎日鉄道の臨時列車や汽船の直通便があり、昭和10年から「橘丸」という大型客船も来るようになると、館山の海岸はとてにぎやかになりました。鏡ヶ浦の人出は昭和11年が戦前のピークで、ひと夏で30万人の人が泳ぎにきています。

戦争と館山

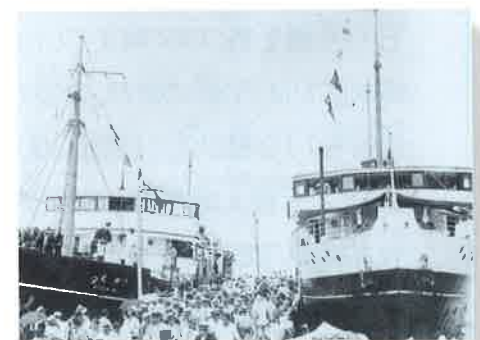
1941 (昭和16) 年12月8日、太平洋戦争が始まり、1945 (昭和20) 年8月15日に終戦になりました。



北条海岸の海水浴 (昭和の初め頃)



昭和のはじめの銀座通り



館山棧橋におりる人たち (昭和の初め頃)



おもしろ探検隊

思い出の房州航路

鉄道ができる前、館山から東京までは歩くと4日もかかりましたが、手漕ぎの船なら1日あれば行けました。明治11年、館山の辰野安五郎は、それを「通快丸」という汽船を運行して5時間で結びました。船形の正木貞蔵も仲間を集めて汽船会社をつくり、明治15年に「房州丸」を運行しました。そして、館山・北条・那古・船形に発着場ができ、東京霊岸島から横浜・横須賀・浦賀に寄りながら、大勢の観光客を館山につれてきました。明治22年に東京湾を行き来する汽船会社が合併して「東京湾汽船会社」ができると、「通快丸」や「房州丸」「安房丸」など21艘の汽船が行き来しています。

大正12年に初代の「橘丸」ができ、花の房州航路に登場しました。そのすぐあとに関東大震災がおり、陸路の交通がとだえると、汽船が救援物資を運んで房州の人々を救いました。



昭和10年にできた橘丸

「橘丸」は昭和10年に大型客船として生まれ変わり、戦後も多くの観光客を運びました。昭和38年には水中翼船の東京湾高速船が、東京竹芝と館山の間を1時間半で結びました。

しかし、鉄道の電化や道路網の整備などで航路は縮小していき、房州の人々に親しまれ観光客を運んでくれた房州航路は、昭和46年を最後に廃止になりました。

館山市は昭和になって、観光地として注目されるようになっていましたが、その一方で、東京湾の入口にあることから、江戸時代から首都防衛の重要地点として、大切な役割をはたしてきた場所でもありました。

昭和5年には海軍の航空隊の基地ができ、やがて兵隊の学校もできました。町には軍人があふれて、基地のまちとしても栄えました。しかし、要さい地帯と呼ばれて、軍の秘密を守るために、写真撮影や写生が禁止されたりしました。太平洋戦争（第2次世界大戦）の頃には、汽車の海側の窓は、外が見えないようにふさがれるほどでした。



館山海軍航空隊

戦争も終わりの頃になると、各地で爆弾が落とされました。館山市でも犠牲になった人がいました。アメリカ軍の上陸にそなえて、安房地方には7万人の兵隊がやってきました。兵士たちは食べ物を確保するために、農家や漁師の手伝いもしていました。また、山に穴をほって、ひなんする場所もつくりました。

海軍航空隊は、海上自衛隊の館山航空隊の基地になっていますが、今でもその近くの山には、たくさんの穴があります。それらは、太平洋戦争のときに、航空隊の本部や倉庫としてつくられた要さいの跡です。

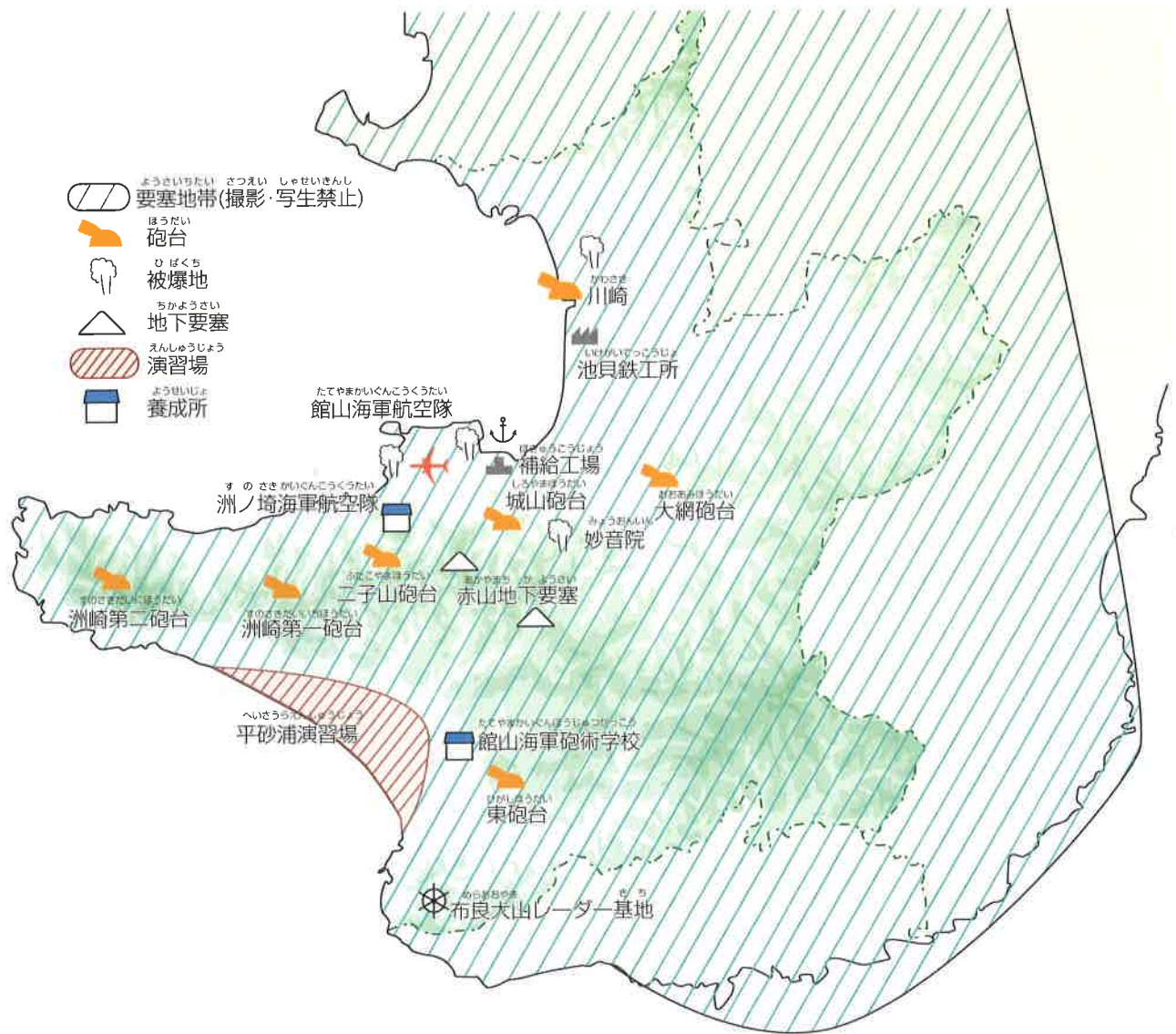


飛行機をかくすえん体壕 (宮城)



戦死者の供養塔 (鶴谷八幡宮)

たいへいようせんそう
大太平洋戦争と館山





おもしろ探検隊

ウミホタルの採取

館山湾は、ウミホタルがたくさん生息する海として有名です。太平洋戦争のとき、安房高校や安房水産高校の学生は、勤労奉仕といって、ウミホタルの採取作業をおこなっていました。ウミホタルは、夜になると活発に動いて、光りながら泳ぐことから、軍部はその明かりを、照明に使う研究をしていたのです。



ウミホタルの光り

戦後の館山

終戦とともに館山市は生まれ変わりました。戦前は基地の町になりましたが、戦後はまた、観光地として発展をはじめます。

1954(昭和29)年に今の館山市ができると、観光都市館山の町づくりがすすめられました。1958(昭和33)年に南房総が国定公園になってからは、広い道路や新しい道路がつくられ、城山公園や平砂浦がきれいになっていきました。

そして夏の海水浴だけでなく、戦前から花の名所として知られていましたから、冬になって房州各地で花の便りが聞かれると、大ぜいの観光客が押し寄せようになりました。そして、花つみやいちご狩りなどのレジャーを増やしたり、高速道路や東京湾横断道路ができて便利になると、都会に近いことをいかして、気軽に遊べる観光地になっていきました。気候が温暖な館山に引越しをしてくる人も増えてきました。

しかし、だんだん若い人が都会へ出ていってしまったり、観光客の遊び方が変わって館山へ来る人が少なくなったりして、町の元気がなくなるという問題もでてきました。そこで、文化や福祉に力をいれた町づくりがおこなわれ、これからは郷土を大切に、自分たちが住む町の歴史をいかした町づくりがすすんでいきます。



昭和40年代の銀座通り



今の平砂浦



きれいになった城山公園



平砂浦の砂防と国定公園

西岬地区から神戸地区にかけての平砂浦は、太平洋に面しています。花畑やきれいな松林があつて風や砂をふせいでいますが、太平洋戦争の頃は広い広い砂丘でした。平砂浦に面したところでは、昔から風に飛ばされる砂に苦労していました。田や畑が砂で埋まってしまうからです。砂は山の上にもまで吹き上がっていました。今のようになったのは、昭和24年から9年間かけて行った、植林のおかげです。昭和33年には南

房総の海岸が国定公園になり、観光客がどんどん増えていくことになりました。



むかしの平砂浦



館山駅前の特設展示板で、対面交通宣伝標語・ポスター展覧会（昭和26年頃）



空から見た館山駅附近（昭和30年頃）



南房州有料道路（フラワーライン）起工を祝う
鼓笛隊パレード（昭和39年）



第1回若潮マラソン大会（昭和59年）



2 ^{でんとう} ^う ^っ 伝統を受け継ぐ



(1) 暮らしの中に生きる伝統



相浜の正月飾 (カケノイ)

むかしから続いてきた
伝統と歴史について調
べてみよう。



1 伝統と歴史を守る

未来へ伝える知恵と技術

私たちがくらしていくなかで、つねに新しい技術や文化、価値観が生まれて、生活のなかに取り入れられています。それは現代だけのことではなく、大むかしから行われてきたことです。何世代にもわたって、私たちの先祖の生活は変化を続けてきました。こうした変化の積み重ねが歴史だといえます。

しかし、そうした生活の変化は、古いものを捨てて新しいものを取り入れるのではなく、古いものに新しいものを加えて、生活に必要なかたちに変えていくということでした。ところが、現代は変化があまりにも大きくそして早いため、古い生活のスタイルは未来に何も残さずに消え去ろうとしています。

未来にいかせるむかしの知恵や技術、あるいは、私たちの郷土を理解するために必要な、むかしから続いてきた伝統などは、私たちの次の世代にも伝えていくために、大切にしていけることが必要です。



カラハシを使って大豆の実をとる



神余のジュズマワシ

生活のなかに息づく伝統と歴史

私たちの生活のなかには、さまざまな伝統が息づいています。気候や生活スタイルのなかから生まれた土地独特の方言も、そのひとつです。家の建て方にしても、母屋と炊き場を別の建物にする分棟型という家の建て方が、この暖かい地方独特のスタイルです。サバ節やハバノリ、自然薯などの食材や、サンガなどのような調理にみられる地方色も、地域の個性を映し出す伝統の味といえます。

山や海にたいする恐れや感謝、願望の気持ちから生まれた信仰にも、地理的な環境や生活スタイルの影響があります。また、唐棧織や金切鋏、房州うちわ、里見焼きなどの技術は、日本の伝統を受け継いでいる伝統工芸なのです。



畑の石井家住宅



ハバノリとりのようす

2 方言

安房地方の方言は、漁村を中心にした海辺の集落と、国なかと呼ばれる山辺の集落とでは違いがあります。テレビなどをおして標準語が浸透してきても、方言と呼ばれる独特の表現や訛りは簡単にはなくなりません。

方言は自然環境や生活環境などをもにする人たちが、お互いを理解しあう方法でもあるようです。方言は単純に標準語にはおきかえることができない、生活語としての重要な役割もあるのではないのでしょうか。



房州にはどんな方言があるのかな。調べてみよう。



3 富士講

大きくて姿のきれいな富士山は、むかしから多くの人々が、神聖な山と考えてきました。とりわけ館山をはじめ安房地方からはよく富士山が見えて、とても身近な存在です。

今ではだれもが気軽な観光で富士山に登るようになっていますが、むかしは修業のために富士山に登りました。館山の先人のなかにも、何度も富士山に登って修業をする人がいました。江戸時代から明治時代にかけては、地区ごとに富士講というグループがたくさんでき、先達というリーダーの案内で歩いてお参りにしていました。

洲崎や香、神余などでは講の活動がいまも続いています。



鏡ヶ浦と富士山



洲崎の富士講

4 金切鋏

北条地区の長須賀で、金属の板などを切るはさみが作られています。鍛冶をする職人は矢矧幸一郎さんで、大正2年にお父さんが館山で開業しました。おじいさんが東京の秋葉原で明治15年にはじめたので、3代目になります。

日本の金切鋏の草分け的な存在で、日露戦争のときに、敵の鉄条網を切るのに使われ、抜群の功績があつて有名になりました。そのため「君万歳久光(きみばんざいひさみつ)」という銘をはさみに刻んでいます。

安房で作られた鋸は房州鋸といわれて、むかしから有名でした。安房には刃物の鍛冶の伝統があるということです。



金切鋏の伝統を伝える矢矧幸一郎さん



金切鋏



おもしろ探検隊

豊かな自然が生んだ伝統の味

春を告げるヒジキ、正月にはなくてはならないハバノリなどの海の幸、キノコや自然薯などの山の幸。豊かな自然に囲まれた館山市では、数多くの農海産物があります。海の幸、山の幸を取り入れた郷土料理は、昔ながらに、また、現代風にアレンジされて伝えられています。館山の自然の恵みを味わうことができる郷土料理。みんなも挑戦してみてください。

海の幸・水なます

富崎地区の漁師さんの料理です。船上でおひつこのふたに味噌を入れ、水でといて汁をつくり、氷を浮かし、釣りたてのイサキやアジをおろしてたたいたものを加えて、ごはんにかけて食べます。舌触りがよくて食欲をそそるため、暑い時期にはもってこいの郷土料理です。



水なます

- 材料（4人分）
- アジ・・・大4尾
 - ショウガ・・・40グラム
 - 青ジソ・・・4枚
 - 味噌・・・大さじ4
 - 湯ざまし・・・600グラム

- 作り方
- 湯ざましをどんぶりに入れ、味噌をとき、冷蔵庫で冷やしておく。
 - ショウガはみじん切り、青ジソは細い千切りにする。
 - アジは三枚におろし、細かくたたく。

- 深い鉢に味噌汁のどんぶりを入れてまわりに氷を入れ、味噌汁にアジと②を加える。
- ごはん④をかけて食べるか、冷やし味噌汁として食べる。

山の幸・自然薯どんぶり

自然薯は、九重地区で盛んに栽培されています。直売所もつくられ、秋の味覚として人気があります。自然薯は山のイモの中でも一番ねばりが強く、風味もよいので、いろいろな料理に使えます。



自然薯どんぶり

- 材料（4人分）
- 白飯・・・どんぶり8分目4杯
 - 自然薯・・・300グラム
 - とり肉・・・200グラム
 - 砂糖・・・大さじ1
 - しょうゆ・・・大さじ2
 - A みりん・・・大さじ1
 - 青菜（セリ）・・・200グラム
 - みりん・・・小さじ1
 - しょうゆ・・・小さじ2
 - B 酒・・・小さじ1
 - 万能ネギ・・・4本
 - 白ゴマ・・・小さじ2
 - きざみ海苔・・・適宜

- 練りわさび・・・適宜
 - 澄まし汁
 - だし汁・・・カップ3
 - 塩・・・小さじ1
 - しょうゆ・・・大さじ2
 - みりん・・・小さじ1
- 作り方
- 自然薯は皮をむき、酢水に30分ほどつけ、アクぬきしてからすりおろす。ネギは小口切り、ゴマは煎ってきざんでおく。
 - とり肉は繊維を切るように1センチ幅に切って、Aの調味料で煮、ほくしておく。青菜は湯通しし、適当な長さに切って、

- Bの調味料をからめる。あまからく煮たシイタケはそぎ切りにしておく。
- だし汁に調味料を加え、澄まし汁を作り、どんぶりのごはんをのせ、その上にとりそぼろ、青菜、自然薯、シイタケをのせる。
- とり肉の上にネギ、青菜の上にゴマ、自然薯の上にわさびをそえて中央にきざみ海苔をもって出し、まげて食べる。

5 唐棧織とうざんおり

北条地区の長須賀で、唐棧織という木綿の織物が作られています。齊藤顕さんと光司さんの兄弟が、日本で唯一その技術を受け継いでいるのです。

唐棧織は、江戸時代のはじめにポルトガル人が伝えた技術で、江戸時代に流行しました。館山ではお二人のおじさんが明治時代に仕事をはじめました。

細い糸で薄手に織り、たて縞の模様にしたもので、光沢があって品がよく、渋みのあるところから、通のあいだで愛用されています。着物のほか、財布やネクタイにもなっています。

この技術は、光司さんの息子さんに受け継がれていきます。

唐棧織のできるまで



唐棧織の作り方を
みよう。



1 アク抜きめ
問屋からかってきた糸を煮て、アク抜きをします。



3 整経せいけい
のりづけされたたて糸は、縞割りされます。それを整経といいます。



5 箴通しさおとお
1本1本綜統に通されたたて糸は、今度は箴に通されます。箴とは、たて糸によこ糸が織り込まれたら、その都度これをしめつける役をするものです。



8 砧打ちきめたう
布をやわらかくするために、木槌でまんべんなくたたきます。



糸を染める

植物性染料で糸を染めます。色の調合は、計量によらず、染液を口にふくみ味覚により配合します。口にふくみしぼいほど色はこく、ほんのりとしたしぼさ、あまさの時はうすい色になります。

染めは、染料をまんべんなく染み込ませた糸をしぼり、さらに手のひらの上でかるくもむようにして空気によくあわせます。

染料をすった糸は、次に媒染剤（おもに石灰水）の中に入れられます。染料～媒染剤～染料～媒染剤をくり返しながらかえしながら、糸を染めこんでいきます。くり返すほど色はこくなります。



4 綜統

整経されたたて糸は、1本1本綜統（よ糸を通すひ道をつくるためにたて糸を上げさせる道具）に通されます。ろくろ、またはそのほかの開口装置により動かされる数枚の綜統枠に、綜統子をおさめたもの全体を綜統とよび、綜統子の中央に3ミリほどの穴（綜目）があり、そこに糸を通します。綜統子は1,000本から1,500本使われます。

この仕事は、とても根気のいる仕事で、2人がかりで行われます。

6 お織る

高機とよばれる種類の織機で織ります。よこ糸は、1センチに30本くらい入れていきます。



7 のりをおとす

織りあがった布は、のりをおとすためにぬるま湯に通されます。

9 つやをとる

砧打ちをし、ひかってしまった布のつやをとるために、ふたたびぬるま湯に通されます。

このようにして、反物としてできあがります。



でんとうげいのう (2) 伝統芸能



つるぎでばかまんとくろはしい
鶴谷八幡宮祭礼

ちいきのこげいのう ① 地域に残る芸能

毎年7月になると、市内のあちこちから、笛や太鼓の音が聞こえはじめます。館山に祭りの季節がやってきたのです。現在は地区ごとに祭りの日がだいたい一しょですが、むかしは区ごとにそれぞれの祭りの日があって、その祭りが区にとってはいちばん大切な行事でした。区を守ってくれる神様をお迎えして、もてなさなければならぬからです。

日本人は大むかしから、姿の見えない神様をもてなすときに、音を出したり踊ったりすることがよいと信じてきました。祭りのときに神楽が上演されたり、お囃子を演奏したりするのはそのため、館山市内にはそうした区ごとに行っていたむかしからの芸能が、お囃子もふくめて、現在43件以上も伝えられています。



各地区に伝わる芸能について調べてみよう。



オハヤシのけい舌



オハヤシのけい舌

各地区の芸能のようす

芸能は、目的やかたちによって、いくつかに分けることができます。たとえば、豊房地区の古茂口や神戸地区の藤原で上演される獅子神楽は、神様や精霊などの魂をしずめるための芸能です。

また、同じように獅子をかぶって踊るものでも、西岬地区の浜田や見物、館山地区の下真倉区青柳、豊房地区の神余で演じられるかっこ舞は、どちらかといえば盆踊りと同じように、疫病よけや雨乞いなどのために行う、「風流」とよばれる芸能です。

西岬地区の洲崎や波左間では、少女たちによるミノコオドリという、ゆったりとした節まわしの踊りが伝えられています。これも同じ風流です。また、神戸地区洲宮で毎年元旦に行われる御田植祭は、区の人が作男や牛にふんして田植えのまねごとをしながら、稲の豊作を願うもので、「田楽」とよばれる芸能です。



古茂口の獅子神楽



神余のかっこ舞

時代とともに変わる芸能

現在のように、テレビやゲームが普及している時代とはちがって、むかしは区のお祭りで演じられる芸能が、いちばんの楽しみでした。祭りの日にはよその地区からも人が集まり、踊り手のなかから結婚相手を見つけるなど、出会いの場にもなっていました。

古茂口や藤原では、昭和30年代まで、青年たちによる歌舞伎がさかんでした。祭りになると、芝居小屋をつくって得意の出し物を披露するだけでなく、よその地区から頼まれて上演にでかけることもよくあったそうです。

時代の移り変わりによって、伝統芸能も変わっていきます。戦争が終わって生活が豊かになっていくなかで、それまでの地区や家族のあり方が大きく変わってしまい、芸能をする人が少なくなり、数多くの芸能が消えていきました。

現在市内に伝えられている芸能は、そうした変化をくぐりぬけ、かたちを少しずつ変えながらも、現代社会の中で生きつづけているのです。



古茂口にあった芝居小屋



② 洲崎・波左間のミロクオドリ

西岬地区の洲崎と波左間には、ミノコオドリという少女たちによる踊りが伝えられています。洲崎では2月の初午の日と8月の洲崎神社例祭のとき、波左間では7月の諏訪神社例祭のときに行われます。どちらも、浴衣を着た小学生の女の子が輪になって、手には「オンベ」という幣束（ギザギザした紙）がついた棒と扇子をもち、長老たちの歌と太鼓にあわせて踊ります。

歌はとてもゆったりとした節まわしで、よく聞いてみると、「ありがたや、鹿島浦では、みろくの船がつづいた」という歌詞ができます。これは、海の守り神である鹿島の神がいる浜に、宝物をいっぱい積んだ弥勒菩薩の船がやってきて、人々を救ってくれる、という意味です。これは海の神様への信仰と、世の中を救ってくれる仏様への信仰が合わさって、この歌と踊りになっているということです。

日本ではむかしから海の遠いかなたに、理想的なあの世があると信じられていましたが、西岬のミノコオドリは、そのようなむかしの人たちの考えや気持ちを表現しているといえるものです。

このような芸能は、太平洋に面した海岸地域で多く行われていて、とくに安房地方のものは、伊豆半島に伝わっているものと、踊り方や歌がよく似ているそうです。市内ではほかに、西岬地区の小沼に同じ踊りがありましたが、1990年頃にとだえてしまいました。



洲崎のミロクオドリ



洲崎のミロクオドリ



波左間のミロクオドリ

③ 見物・浜田のかつこ舞

見物の海南刀切神社と浜田の船越鉦切神社では、7月の例祭のときにそれぞれかつこ舞が演じられます。獅子頭をかぶった踊り手が、腰に小さな太鼓（羯鼓）をつけ、これを打ち鳴らして舞うことから、かつこ舞とよばれます。

この踊りは、ふつう三匹獅子舞といって、東日本でよく行われている芸能です。たいてい、農業生活をする人たちの祭りとし



浜田のかつこ舞

ねが ごと き おこな あわちほう つた
て、願い事を決めて行われています。安房地方に伝わるかっこ
まい
舞は、ほとんどが雨乞いのために行っているところに特徴があり
ます。富山町の富山や鴨川市の大山では、江戸時代に大規模
な雨乞い祭りを行った記録が残されていて、周辺のたくさんの
ちく
地区の人たちが、かっこ舞を行っていたことが書いてあります。
また、市内の神戸地区布沼には、江戸時代の1722(享保7)年
につく
に作られた獅子頭が残っています。つまり江戸時代には雨乞
いをするために、ちく
地区ごとに組織だっがかっこ舞を行っていたこ
とがわかります。

けんぶつ はまだ
見物や浜田のかっこ舞では、幼い少女たちが色紙をたらした
かさ
笠をかぶり、竹でつくったササラをすりならして、踊りに参加して
います。かさ
からたれる色紙は雨つぶで、ササラの音は雨の音を
あらわ
表しているのだそうです。

あわ
むかしは安房のあちらこちらで行われていましたが、戦後多く
のかっこ舞が姿を消してしまいました。市内ではほかに館山地
区の下真倉区青柳と豊房地区の神余で、現代ふうにかたちを
か
変えながら今なお伝えられています。

4 やわたのまつり 八幡の祭

まいとし
毎年9月14日と15日に行われる安房地方最大のお祭りが
「やわたのマチ」です。安房地方で由緒ある古い神社の神様が、
みこし
神輿に乗ってあつ
集まってきます。北条地区のつるがや はちまんぐう
鶴谷八幡宮のほか
あわじんじゃ すのみやじんじゃ しらはままち しもたてまつばらじんじゃ
に、神戸地区の安房神社と洲宮神社、白浜町の下立松原神社、
やまみやじんじゃ やもおぎじんじゃ こはたじんじゃ
豊房地区の山宮神社と山萩神社、館野地区の木幡神社、九重
地区のたちからお じんじゃ まるやままちくつ み なこしやまじんじゃ ふる
手力雄神社、丸山町沓見の莫越山神社が古くからの
じんじゃ
神社で、北条地区のたかみむすびじんじゃ こやすじんじゃ くわ
高皇産霊神社と子安神社があとから加わ
りました。

へいあん
平安時代に安房国の役所があった三芳村の府中で、国司
そうじゃ まつり
が総社の祭としてはじめてのものだといわれています。この2日間
に北条の祭もいっしょに行われていますが、八幡の祭とは別の
もので、江戸時代には付け祭と呼んでいました。



けんぶつ
見物のかっこ舞



かさ
ササラ役の女の子



つるがやはちまんぐう
鶴谷八幡宮



つるがやはちまんぐうさいらい
鶴谷八幡宮祭礼

(3) 私たちの学校の校歌

わたしの学校の校歌には、地域の自然や歴史などがうたわれています。調べてみましょう。

みんなの学校の歴史や校歌を調べてみよう。





船形小学校の校歌

船形小学校は明治5年に、船形の西行寺と川名の長勝寺を校舎に開校しました。その後現在の場所に移り、明治33年に船形小学校になりました。校歌ができたのは昭和29年12月で、翌年の1月に、木造2階建ての校舎が新しくできるのを記念して作ったのだらうということです。

作詞をした土岐善磨さんは有名な歌人です。明治45年に詩人石川啄木の未亡人が八幡の海岸で静養するのを助けていたことから、館山とは縁がありました。ローマ字の普及にも努力した人で、宣伝のために館山へ来て、よく講演をしていました。作曲は東京芸術大学の信時潔さんです。

校歌の歌詞にある「輝く波に 浮かぶ富士」や「櫓拍子そろえ 進む船」などに、館山湾に面して漁業がさかんな船形の郷土の様子が表れています。



船形小学校



ほくもわたしもみんなが主演



板をつかって楽しい図工

船形小学校校歌

作詞 土岐 善磨
作曲 信時 潔

鏡が浦の 風晴れて

輝く波に 浮かぶ富士よ

みなごぞれ いざ共に

希望の雲を 仰ぐとき

はるかに広き 世界あり

港をいでて 音高く

櫓拍子そろえ 進む船よ

潮満ちぬ 今ここに

たゆまず強く 新しく

我等は朝の岸に立つ

船形 船形

よき名を伝えて

力を合わせ

はげむべし



那古小学校の校歌

那古小学校は明治7年に、正木の大泉寺と亀が原の秀満寺、那古の西校・東校の4か所にできました。明治36年に那古地区にあった学校をすべて統合し、那古小学校になりました。校歌ができたのは統合があった明治36年頃のこと、作詞をしたのはそのときの校長先生です。

「己が力を尽くしなば」や「他人の上をも思いなば」などには、明治時代の教育の香がたちこめています。その趣旨は現在にも受け継がれています。

また「富士の高嶺」や「鏡が浦の波白し」などには、古人も眺めた那古寺からの風景がうたわれています。



那古小学校



運動会ようす



運動会ようす

那古小学校校歌

作詞 宮本 敬義
編曲 高橋 正夫

富士の高嶺の 雪清く
鏡が浦の 波白し
自ずからなる 誠こそ
われらが心の 鑑なれ

誠の心 常に持ち
己が力を 尽くしなば
いかなることも なりぬべし
富士の高嶺の 安らかに
誠の心 常に持ち
他人の上をも 思いなば
交わり変わる 事あらじ
鏡が浦の 永遠に



北条こうか小学校の校歌

北条では、明治6年から7年にかけて、北条・八幡・高井・長須賀に学校ができました。明治21年に統合されて、現在の中央公園に北条小学校ができます。今の場所に学校が移ったのは昭和45年でした。

校歌ができたのは、終戦直後の昭和21年です。一般募集されたもので、当時那古小学校の先生だった湯本芳子さんが作詞作曲し、恩師石黒一郎さんが編曲した作品が採用されました。

「房総は先ず夜の明ける国 波に砕くる旭光に」や「明日の日本の建設へ」などの歌詞には、戦後教育が始まろうとしていた時期の明るさや希望があふれています。



北条小学校



プール開き



1年生と6年生のひらがな学習交流会

北条小学校校歌

作詞作曲 湯本 芳子
補修編曲 石黒 一郎

太平洋の波洗う

房総は先ず夜の明ける国

波に砕くる旭光に

北条校は輝ける

北条校は輝ける

鏡が浦にゆあみして

南の風に育ちたる

我等二千の友どちの

心は一つの玉のごと

心は一つの玉のごと

西にそびゆる富士が嶺の

姿の如く清らかに

明日の日本の建設へ

進まん我等手をとりて

進まん我等手をとりて



館山小学校の校歌

館山地区では、明治6年から7年にかけて、はじめ館山・上真倉・沼・笠名に学校ができました。その後館山小学校と豊津小学校のふたつになり、それが大正3年に統合して、現在の学区になりました。でも校舎はそれまでの館山と豊津の校舎をつかいつつ、みんなが同じ校舎で勉強できるようになったのは大正11年でした。そのときに今の場所に学校がつけられました。

校歌ができたのはこの頃で、みんなが一緒に勉強できるようになったことを記念したのでしょうか。大正時代は民主化がすすんだ時代で、「新しき道…歩まん」や「美わしき園…育てん」などの歌詞は、大きく変わっていく社会を反映しています。

また、郷土館山のシンボルとして城山・鏡が浦・富士山がうたわれています。



館山小学校



1年生をむかえる会



城山オリエンテーリング

館山小学校校歌

作詞 石森 延男
作曲 下総 皖一

夕映えうつる富士山の
姿に匂う大いなる
まことをもちて種々の
新しき道いざやいざや
歩まん吾等

朝に映ゆる鏡浦
清く深きを鑑とし
溢るる愛をことごとくに
美わしき園ここにここに
育てん吾等

親しき友よ城山の
峰ゆ見渡す房州の
明るき力胸にこめ
ああ日の本のその名その名
拳げばや吾等



西岬小学校の校歌

西岬地区では、明治6年から7年にかけて、塩見・波左間・洲崎・伊戸に学校ができました。明治39年に塩見と波左間の学校が統合して、東小学校になり見物に移りました。明治42年には洲崎と伊戸の学校が統合して、西小学校になります。ふたつの学校が統合して、今の西岬小学校になったのは昭和57年です。

その翌年に現在の校歌ができました。「岬」という題があり、「夢の岬」「未来の岬」「光の岬」「尖端」ということばで、房総半島の先端にある西岬を象徴しています。

作詞は詩人として有名な宗左近さんで、独自の現代詩の世界をつくりあげています。作曲は桐朋音楽大学の学長三善晃さんです。



西岬小学校



西岬一周駅伝



名郷浦海岸磯遊び

西岬小学校校歌「岬」

作詞 宗左近
作曲 三善晃

悲しまないよね きみ ぼく
涙のなからから明る、虹ははじけてて
ここは西岬小学校
夢を突きぬけてゆく 夢の岬
日本の若さの尖端だから
いつまでも水平線
青さの炎の 青さの炎の
空の瞳がかがやくよ

あきらめないよね きみ わたし
嵐のなからから勇ましい鳥は飛びたつて
ここは西岬小学校
未来を突きぬけていく 未来の岬
地球の希望の尖端だから
どこまでも 太平洋
祈りの炎の 祈りの炎の
海の鏡が かがやくよ
見あげようね みんなで
闇のなからから 美しい星はきらめきでて
ここは西岬小学校
光を突きぬけていく 光の岬
宇宙の夜明けの先端だから
どうしても朝やけああ
燃える炎の 燃える炎の
わたしたちの ぼくたちの
生命の音楽が 噴きあがるよ



神戸小学校の校歌

神戸地区では、明治7年に犬石・佐野・布沼に学校ができました。明治22年に犬石と佐野の学校が統合して、大成尋常小学校という名前になりました。布沼の学校はその後洲宮に移り、大正2年に統合して神戸小学校になりました。

現在の校歌は昭和49年の開校100年を前にしてつくられたようです。「広野」「緑の風」という歌詞に象徴されるのは、成長した平砂浦の防砂林の姿です。大きく変わった神戸地区の環境のなかで、健康やかに成長する児童の姿が歌われています。

それ以前には「二本松の歌」と呼ばれる校歌がありました。校庭に樹齢200年以上という老松が2本あって、学校と地域のシンボルでした。その校歌では、「佐野原」「平砂浦」「竜の道」など地域の情景をうたっていました。昭和40年代にマツクイムシの被害にあって二本松が切られてしまったため、校歌も現在のものになったようです。



神戸小学校



音楽集会



大田区立館山養護学校との交流会

神戸小学校校歌

作詞 真田 巖
作曲 白井 威彦

広野によんでいる 若い声
緑の風に のつてくる
わがふるさとよ われらの神戸
みんなすこやか 明るくのびて
明日をになつて 学びゆく

雲によんでる はずむ声
青空とおく こたまする
若いまみあげ われらはちかう
強く正しく くじけずすみ
理想かかげて はげみゆく
海によんでる すんだ声
太平洋は こたえてる
そびゆる富士よ われらはのぞむ
清くすやかに いきいき育ち
せいきに平和を 築きゆく



富崎小学校の校歌

富崎小学校は明治7年に、布良の龍樹院と相浜の蓮寿院を校舎に開校しました。明治20年に統合して富崎小学校になり、明治27年に現在の場所に移りました。校歌は昭和27年に、7月1日が開校記念日と定められたとき、記念に発表されました。

作詞は館山市歌や全国「公民館の歌」を作詞した、那古地区小原の山口晋一さんです。

「海原はるか」や「潮の香」「黒潮けむる大洋」「磯うつ波」「荒波しぶく布良崎」「ゆるがぬいわお」など、太平洋に面した富崎の特徴が歌い込まれ、戦後の飛躍期ならではの明るさがあります。昭和62年に合併から100年を記念して、校庭に校歌の記念碑ができました。



富崎小学校



「やってんべえ富崎」発表会



プールで楽しむ1、2年生

富崎小学校校歌

作詞 山口 晋一
作曲 小谷 肇

海原はるか のぼる日に

希望の朝を むかえつつ

楽しきつどい かがやくひとみ

潮の香におう 富崎の

学びの窓の 明るさよ

黒潮けむる 大洋の

生命をうけて すこやかに

心とからだ のびゆくすがた

磯うつ波も 富崎の

健児の意気を 高くよぶ

荒波しぶく 布良崎の

ゆるがぬいわお その心

うつして常に たゆまぬちから

つちかうところ 富崎の

平和の園に 花かおる



神余小学校の校歌

神余小学校は明治7年に、神余の安楽院を校舎
 に開校しました。現在の場所に学校が建ったのは
 大正13年です。校歌は開校100年を記念して、昭
 和42年につくられました。

歌詞には「山々のほさまの里」という郷土の環境
 と、「塩井の川」という郷土の史跡をおりこんで地域
 性を出し、現代感覚のなかに歴史の薫りがただよう
 風格あるものになっています。



神余小学校(新校舎2002年3月～)



運動会のようす



神余小学校(旧校舎)



青空市のようす

神余小学校校歌

作詞 田中 正
 作曲 岡本 敏明

紫けぶる 山々の

ほさまの里の 学び舎は

歴史に栄える 神余小

眉あげ瞳 かがやかせ

誇れよその名 声高く

塩井の川の 水清く

緑さやかな 山の木々

父祖のきずいた この里に

高い文化を 興そうよ

友よ手をとれ 腕をくめ

心ゆたかに すこやかに

朝夕鍛え 励みあい

花咲くあすを 夢みては

学びの道を さあ進もう

神余小に 栄えあれ



豊房小学校の校歌

豊房地区では明治7年に、大戸と山萩・畑に学校ができました。明治40年に大戸と山萩の学校が統合して豊房小学校になり、2年後に現在の場所に学校が建ちました。昭和47年に畑小学校が統合して今の学区ができました。

校歌は、もともと「豊房小学校同友会のうた」として歌われていたものです。いつできたものかわからないようですが、音楽教諭の遠田先生が譜面をおこし、校歌として歌われています。



豊房小学校



運動会のようす



みんなで作ったお米でおもち作り



学校田・稲刈り

豊房小学校校歌

作詞 山本 徳久
採譜 遠田 先生

緑の風に すみわたる
豊房校の きょうの空
心のびのび すこやかに
学ばわれらの 楽しさよ

清い心で 力をあわせ
はりきる意気で 勉強し
おこすわれらの 豊房よ
望み輝く うれしきよ



館野小学校の校歌

館野地区では、明治6年から7年にかけて、山本と国分・安布里に学校ができました。その後統合して、明治21年に現在の場所に学校が移りました。館野小学校の名前になったのは昭和5年で、それまでは山本小学校と呼んでいました。

校歌は大正7年につくられたようです。「かの城山のしろあとの…むかしの人のほまれをぞ」や「館野の里はその昔 孝子のいでし…義人のいでし…」などと、一番と二番で郷土の輝かしい歴史をたたえ、三番で「名誉の歴史ある館野のおさな子」に、歩むべき道を説くという構成になっています。

ちなみに「城山」は里見氏がいた稲村城、「孝子」は萱野に塚がある奈良時代の伴直家主、「義人」は江戸時代の三義民のひとり国分の飯田長次郎のことです。



館野小学校



1年生をむかえる会



みんなでゴミひろい

館野小学校校歌

作詞 不詳
作曲 不詳

かの城山のしろあとの
草木なびかす風の音
むかしの人のほまれをぞ
今もわれ等に語るなり
わが学び舎の建てられし
館野の里はその昔
孝子のいでしところなり
義人のいでしところなり
かかる名誉の歴史ある
館野のおさな子よ
学びのわざをいそしみて
みくのためにつとめよ



九重小学校の校歌

九重地区では、明治6年から7年にかけて、安東・二子・竹原・水玉に学校ができました。明治24年に統合して九重小学校になり、明治30年に現在の場所に校舎が新築されました。

校歌は昭和34年につくられました。安房郡内や君津郡内の校歌を数多くつくっている作詞の真田巖さんと作曲の白井威彦さんのコンビの作品です。

郷土九重の自然と豊かさのなかに育つ児童にむけて、「進んでいこう」「励んでいこう」「磨いていこう」と呼びかける校歌になっています。



九重小学校



さつまいもの苗うえ



地域ふれあい特別クラブ

九重小学校校歌

作詞 真田 巖
作曲 白井 威彦

風は緑に 輝く野山
純朴風なす われらの郷土
古き歴史を うけつぎて
いつでも心 新しく
進んでいこう
九重の
のぞみは果てなき 空かける

稲は黄金に 波なすみのり
めぐみ豊かに われらの郷土
勇気と若さの 誇りもち
いつでもからだ 健やかに
励んでいこう
九重の

理想は四海に 燃えあがる

星はまたたき 楽しき灯影
人の和堅き われらの郷土
土の香におう 喜びに
いつでも心 朗らかに
磨いていこう
九重の

勤勉胸に 血はたぎる



館山第一中学校の校歌

一中は、昭和22年に創立した那古中学校と船形
 中学校が、昭和24年に統合して現在の市民運動
 場の場所に開校しました。現在の場所に移ったの
 は昭和52年です。

校歌は昭和25年につくられました。まだ市民運動
 場にあったときなので、一番では「鏡が浦」の海岸風
 景、二番では「湊川」のせせらぎや「磯馴れの松」と
 いう歌詞で、郷土を歌い上げています。

作詞は詩人として有名な白鳥省吾さん、作曲は
 東京の森儀八郎さんです。



館山第一中学校



インドのアシュトシさんとの交流



運動会・応援合戦

館山第一中学校校歌

作詞 白鳥 省吾
 作曲 森 儀八郎

鏡が浦に影映す
 永遠なる富士を望みつつ
 学びも楽し館山の
 わが一中に誉れあれ
 わが一中に誉れあれ

磯馴れの松に昇る日に
 せせらぎ歌う湊川
 海幸ゆたか野の幸も
 平和を讃う良きところ
 平和を讃う良きところ

希望の空のあきみどり
 敬い愛し真心に
 力をあわせ伸びて行く
 輝く道に栄えあれ
 輝く道に栄えあれ



館山第二中学校の校歌

二中は、昭和22年に創立した館山中学校と北条中学校が、昭和24年に統合してできました。その後昭和55年に北条学区が三中になり、昭和22年に創立していた豊房中学校と神余中学校が館山学区と統合して、新しい二中がうまれました。昭和57年には西岬中学校（昭和22年創立）も統合して、現在の二中になりました。

校歌は、二中の一期生が卒業する直前の昭和26年につくられました。作詞は歌人の土岐善麿さん、作曲は東京芸術大学の信時潔さんで、船形小学校の校歌も同じコンビでつくられました。土岐さんは、新井の海岸ホテルから見た鏡ヶ浦の姿を詩にしました。



館山第二中学校



朝の読書



職場体験学習

館山第二中学校校歌

作詞 土岐 善麿
作曲 信時 潔

富士の嶺 はるか 空は晴れて
輝きわたるよ 鏡が浦
真理のひかり 高くひろく
明るき希望の 浪とわけば
友情相呼ぶ 声も若し

松の香清く 緑さえて
底澄む真砂の 汐入川
世界の動き 新たなるに
絶えざる満千の 時を知れば
文化の流れを さして進む

自律の意気に 眉をあげて
心も 身体も 皆健やか
社会と共に 常に立ちて
敬あり 信あり 愛あるところ
我等の 館山第二中学



館山第三中学校の校歌

三中は、昭和22年に創立した館野中学校と九重
 中学校が、昭和30年に統合して館山第四中学校
 になったあと、昭和55年に二中の北条学区と四中
 が統合してできました。四中は館野の安房
 医師会病院の場所にあります。

校歌は、開校した昭和55年、開校式典で発表さ
 れました。作詞・作曲は、西岬小学校の校歌でもコ
 ンビを組んだ、詩人の宗左近さんと桐朋音楽大学
 学長の三善晃さん。「透明光体」という題がある、と
 ても長い校歌です。房総半島の南端にある館山を
 「尖端」という言葉に象徴させて、勇気がわきおこる
 校歌になっています。



館山第三中学校



校内ロードレース大会



寒中水泳大会

館山第三中学校校歌「透明光体」

作詞 宗左近
 作曲 三善晃

見つめよう みんな 朝焼けだ
 瞳のなかから 燃えてくる
 ともだち 先生 朱い空
 ああ熱い愛の 同心円
 沸りたて 光の渦 渦巻け 光
 暗い悲しみの雲までも
 美しい地球の音符となって
 太平洋 日本のきらめきの尖端
 館山 ぼくたちの わたしたちの
 館山第三中学校

信じよう みんな 太陽だ
 胸のなかから はじけでる
 希望 勇気 高い空
 ああ明日の青さの 懸垂線
 吹きおこれ 光の風 風となれ 光
 重い苦しみの岩までも
 明るい真昼の楽器となって
 ふるさと 祈りのきらめきの尖端
 館山 海の子の 山の子の
 館山第三中学校

歌おうよ みんな 未来だ
 心のなかから あふれでる
 宝石 虹 遠い空
 ああ夢の天体 望遠鏡
 舞いあがれ 光の翼 はばたけ 光
 激しい閃の嵐までも
 新しい銀河の音楽となって
 館山 生れてくる ひろがってくる
 おお宇宙 生命のきらめきの尖端
 館山第三中学校



房南中学校の校歌

房南中学校は、旧館山海軍砲術学校の跡地に、昭和22年、当時の神戸村と富崎村が協同で創立しました。そのため学校の名前に村名がつかえず、安房の南部にあるという意味の房南中学校と名付けられました。

校歌は、開校の頃につくられたようです。学校の正面に見える伊豆大島の三原山が、歌詞にでてくるのが房南中らしいところです。

「黒潮」の力強さ、「佐野川」の清々しさに、美しい郷土の長い歴史に対する自信と誇りが歌い込まれています。



房南中学校



田うえ体験



房州再発見・せんべえ焼き

房南中学校校歌

作詞 鈴木 喜一
作曲 鈴木 和臣

たなびく煙 三原山
流れ絶えなき 黒汐の
命と力 とこしなえ
求むる真理 高らかに
集いてむつぶ 房南中

緑に映える 平砂浦
水の瀬清き 佐野の川
長き歴史と 伝統の
文化は香る この里に
不滅を継ぎて 立つ我ら

自主と協同 我が誓い
心身ともに 健やかに
進む社会に つくすべく
敬と愛との 信義から
誇りを胸に ゆくわれら



館山市歌 わがまち館山

館山市が県下で5番目の市として誕生したのは、昭和14年11月3日でした。当時の館山北条町と那古町・船形町が合併して館山市になりました。これに西岬村・神戸村・富崎村・豊房村・館野村・九重村が合併して、現在の市域になったのは、昭和29年5月3日です。

昭和34年に市制20周年を迎えた館山市は、それを記念して、翌年の4月に「わがまち館山」という市歌をつくりました。現在の市庁舎が完成して、お披露目の記念式典にあわせての発表です。作詞は富崎小学校の校歌も作詞した北条小学校教員の山口晋一さんと、当時の田村市長から依頼されました。

山口さんが館山市を象徴するものとして詠んだのは、まちをおおう「潮の香」、山野と海に「あふれる幸」、常春がはぐくんだ郷土の「歴史」でした。

館山市歌 わがまち館山

さやかに澄める 鏡が浦の
 潮の香におう わがまちよ
 かもめのうたに 希望をのせて
 七つの海を とぶ夢の
 花咲くみなど
 おうおうおう 館山市
 やまなみめぐる ひろのはみどり
 豊かにそだつ わがまちよ
 海山こめて あふれる幸に
 人の和そえて たくましく
 のびゆくすがた
 おうおうおう 館山市



冬なき空に 富士のね晴れて
 常春つれし わがまちよ
 城山ざくら 歴史を秘めて
 ゆかりの安房の 詩どころ
 麗しその名
 おうおうおう 館山市

作詞 山口 晋一
 作曲 明本 京静



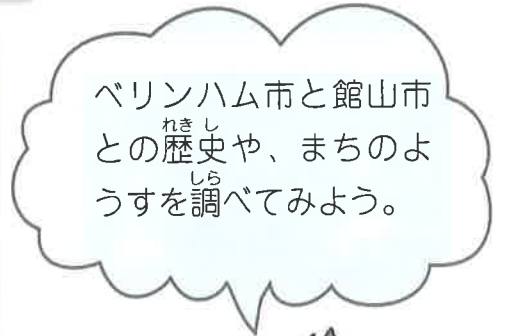
3 しまい 姉妹・ゆうこうとし 友好都市とのこうりゅう 交流



(1) ベリンハム市との交流



マウントジャクソン



ベリンハム市と館山市との歴史や、まちのようすを調べてみよう。



ベリンハム市のようす

ベリンハム市は、アメリカ合衆国ワシントン州の北西部にあります。カナダとの国境から南方約32キロメートル、シアトル市から北方約136キロメートルに位置しています。面積は57.5平方キロメートル、人口は約6万7千人です。一年を通じて気候も安定していて、暮らしやすく、アメリカの中でもとても人気のあるまちです。



ベリンハム市役所

おもな産業は商業で、カナダとの交易や人の行き来もたくさんあります。林業や農業などの第1次産業もさかんで、木材やキングサーモンなどが日本にも多く輸出されています。第2次産業では、パルプ工場、アルミニウム工場、石油精製工場など多くの従業者をかかえる産業も立地しています。第3次産業では、海に面した地形を利用した港湾運輸などの産業のほか、豊かな自然環境を利用した観光産業もさかんです。

ベリンハム市から約86.4キロメートルの距離に、マウントバーカー国立公園があります。スキーやキャン





ウエスタン・ワシントン大学から望むペリンハム湾



マウントベーカー



イベント用のステージがある港近くの公園



海岸沿いの公園



ワッカム博物館 (旧市役所庁舎)

地として有名で、多くの景勝地に恵まれています。ペリンハム市街は、自然の丘陵にあり、坂道の多いまちでもあります。市内には多くの公園があり、市民のいこいの場としてパーティーやピクニックなどに利用されています。ペリンハム湾では、アシカやカワウソなど、自然の動物を間近にみることができます。

ペリンハム市は、大学のまちとしても知られています。州立ウエスタン・ワシントン大学という総合大学があり、学生と教職員をあわせて約1万人の人たちがアメリカ各地や外国から集まってきます。また、市内には高速道路が走り、まちの北部にはペリンハム国際空港もあります。



ペリンハム高校



ペリンハム高校の授業のようす

ペリンハム市と館山市

ペリンハム市と館山市が姉妹都市提携をしたのは1958(昭和33)年のことです。日米間の姉妹都市としては国内で9番目とたいへん古く、また、海外との姉妹都市提携順では、国内で



東京工業クラブで行われた姉妹都市縁組式



姉妹都市40周年記念で来日したベリンハム市長



来日したウェストフォード市長(昭和37年頃)



スキー・タワー・シーレースのスタート



リバーカヌー

11番目、千葉県内では最初のものでした。

1958(昭和33)年5月、ベリンハム市長から日本の都市と姉妹都市の縁組を結ぶ全権を委任されたベリンハム市のポート・オブ・ベリンハム社長が来日し、世界友の会などを通じて館山市に都市縁組の申し出がありました。同年6月、館山市議会全員協議会の承認を得て、世界友の会を通じて承諾の連絡をしました。同年7月には、館山市・ベリンハム市都市縁組委員会が結成され、7月11日、東京工業クラブで姉妹都市縁組式典がおこなわれ、正式に姉妹都市の縁組が成立しました。

以来、市内の学校やボランティア団体などがベリンハム市との交流をささえ、中学生、高校生の交換やスポーツ、音楽、伝統文化などを通じて交友を深めていきました。

1970(昭和45)年8月には、日本で行なわれた万国博覧会に訪れたベリンハム市民6人が館山市へ親善視察のため来訪しました。同年10月には、万国博覧会終了後、ベリンハム市より万国博覧会会場のワシントン館に出品されたトーテムポールが館山市に贈られ、交流の証として市役所玄関前に設置されました。



ベリンハム市民・親善訪問(昭和37年頃)



ベリンハム市から贈られたトーテムポール



スキー・トゥー・シーレース



スキー・トゥー・シーパレードのようす

スキー・トゥー・シーフェスティバル

館山市とベリンハム市との交流の中でも、毎年ベリンハム市でおこなわれている「スキー・トゥー・シーレース」も大きな交流事業のひとつです。

このレースは、ベリンハム市最大のイベント「スキー・トゥー・シーフェスティバル」のフィナーレを飾る大会で、当日はアメリカ各州からはもちろんのこと、カナダ、オーストラリアなどからオリンピック候補選手をふくむ1,000人以上の選手が参加しておこなわれています。標高3,300メートルのマウントベーカーからベリンハム湾までの7区間約130キロメートルのコースを、クロスカンリースキー、ダウンヒルスキー、マラソン、自転車、カヌー、マウンテンバイク、シーカヤックで継走するレースで、ベリンハム市では80年以上もの伝統をほこるイベントです。

館山市がこのレースにはじめて選手を派遣したのは、1988(昭和63)年のこと。このときはベリンハム市民との混成チームでしたが、2回目からは館山市民単独チームを編成して出場しています。

現在でも、こうしたスポーツ交流のほか、学生交換や職員交換、子どもたちの絵画、グリーティング(あいさつ)カードの交換など、さまざまな交流がおこなわれています。



パレード・ベリンハム市民との交流



ベリンハム市職員と中学生の交流



ベリンハム市から届いたグリーティングカード

(2) ポートステイブンス市との交流



ポートステイブンス湾

あお うみ くに
 青い海の国ともよばれている
 ポートステイブンス市。
 まちのようすや館山市との
 こうりゅう
 交流のようすを調べてみよ
 う。



ポートステイブンス市のようす

ポートステイブンス市は、オーストラリアの東海岸、ニューサウスウェールズ州にあります。シドニーの北約200キロメートルに位置するタスマン海に面した半島にある港町です。

面積は979平方キロメートルで、人口は館山市とほぼ同じ約5万3千人です。おもな産業は観光のほか、カキの養殖、漁業、アルミ製錬、軽工業などがさかんです。

シドニーから車で2時間半、そしてニューカッスルからは北へ20分ほど走ると自然の美しさが保護されている三角形の地域があります。ポートステイブンス市はこの三角地の南にあたり、そこから北へはマイル湖、フォースターへと続いています。

これらの海岸地帯から内陸へ入ったところにバリントントップスがあります。バリントントップスは、世界的レベルの国立公園で、たくさんの自然が残されています。そこから流れてくる川は自然の中にすばらしい景観をつくり出し、沿岸の河口まで続いています。バリントン地域は



トマリ岬とポートステイブンス湾





ストックトン海岸に座礁（1974年）した船・シグナ



カンガルー



海辺のまちなみ



港のようす



クルージングのようす

世界遺産条約で保護されていて、高山植物であるスノーガム（ユーカリ樹の一種）などを見ることができます。

美しい海にかこまれたポートステーブンス市は、自然が作った港で、「青い海の国」ともよばれています。1年を通じて温暖な気候にめぐまれ、約35キロメートルにおよぶ美しい海岸線が続いています。沿岸地域ではイルカが泳ぎ、クジラの移動も見られます。ユーカリ樹でおおわれた岬の下には白い砂浜や岩場があり、青緑にすみきった海では、サンゴやきれいな色の魚などを見ることができます。

テニスやゴルフ、スキューバダイビング、サーフィン、セーリングなど、ほとんどのスポーツを楽しむことができる人気のリゾート地でもあります。



イルカウォッチング



ポートステーブンスにはコアラの好む生息地がたくさんあります



環太平洋国際ヨットレース大会 (ポートステイブンス市で)



館山外洋ヨットクラブのメンバー



海辺の夜景



港の夜景

ポートステイブンス市と館山市

館山市とポートステイブンス市の交流は、ともにアメリカ・ベリン
ンハム市と姉妹都市関係にあったことがきっかけです。ベリンハ
ム市が両市の出会いのきっかけをあたえてくれました。

1990(平成2)年にベリンハム市でおこなわれた環太平洋国
際ヨットレース大会へ、館山市とポートステイブンス市のヨットチ
ームが招待をうけました。このとき、館山市から参加したのが館
山外洋ヨットクラブのメンバーです。ヨットのクルーたちの友情が
ベリンハム市で生まれました。

これを機に、両市ともに環太平洋ヨットレースのチャレンジがは
じまり、1992(平成4)年にはポートステイブンス市で、1994
(平成6)年には館山市でこのヨットレースがおこなわれました。

さらに、1996(平成8)年のニュージーランド・タウランガ、1998
(平成12)年にはカナダ・ビクトリア市などでレースをおこなうた
びに両市の友好は深まってきました。



友好都市協定署名式 (2000年)



アボリジニーの歓迎の踊り (2000年)



ウイングのメンバー（1998年）



民謡やオーストラリア国歌を歌い上げるウイングのメンバー（1998年）

小さな親善大使による文化交流

両市民による親善訪問が続けられるなかで、1997（平成9）年12月にはポートステイブンス市長をはじめ、18人の青少年をふくむ総勢41人のポートステイブンス市民が館山市を訪問。第一中学校や第三中学校の体験入学や市内を視察見学しました。

この年には、市民ボランティアグループ「ポートステイブンス市民と交流する会」が発足しました。また、千葉県南総文化ホールのオープンを機に、安房地域の小・中学生や高校生で編成された南総少年少女合唱団「WING（ウイング）」が誕生。翌年の1998（平成10）年には、交流する会の全面的なバックアップで結成2年目にして、初の海外演奏が実現しました。

現地では、団員がおそろいのはんてんを着て、日本の心をつたえる民謡やオーストラリア国歌などを歌い上げるなど、滞在期間中、十数回にもおよぶ演奏会をおこないました。ポートステイブンス市長をはじめ、多くの市民から歓迎され、子どもたちによる文化交流は大成功をおさめました。

こうした文化・スポーツ交流が深まる中で、2000（平成12）年2月には、ポートステイブンス市で開催された環太平洋国際ヨットレース大会とともに、現地で友好都市協定署名式がおこなわれました。多くの市民が見守るなか、両市長が「友好都市協定宣言書」に署名し、末永い市民同士の交流と両市の発展を誓い合いました。



ポートステイブンス市の学生との交流



なかよく習字の授業（2001年）

か しつ おん せん さと いさ わ まち ごう りゆう (3) 果実と温泉の郷・石和町との交流



果実と温泉の郷・石和町

海のまち館山と山のま
ち石和との交流のよう
すを調べてみよう



いさ わ ちやう 石和町のようす

石和町は、山梨県のほぼ中央に位置し、ブドウと温泉で知られる有名な町です。特に、1961（昭和36）年にブドウ畑の中から1日500万リットルという大量で、高温のお湯が出たという話は有名です。面積は14.92平方キロメートル、人口は約2万7千6百人です。

石和町では、「スコレー都市石和」をスローガンに、まちの人たちの自由で主体的な営みを可能なかぎり支援し、保障するというまちづくりを進めています。「スコレー」とは、古代ギリシャ語で、個人がいかようにも自由に、主体的に使うことがゆるされた時間という意味です。

また、「果実と温泉の郷」をキャッチフレーズに発展している石和町は、甲斐の中世を数百年にわたって支配した武田氏のふるさとでもあります。石和温泉郷は、ブドウ狩り、昇仙峡、富士五湖、身延山をたずねるコースの拠点として利用する人が多く、温泉郷沿いに流れる笛吹川は、小説や伝説でも有名で、釣りの名所としても人気を集めています。

石和町の春は祭りからはじまります。2月21日には甲府盆地



スコレーセンターとスコレー精神を象徴するモニュメント





美りの秋はおいしさ一杯・ブドウ狩り



笛吹川・川に沿ってサイクリングロードがのびる



満開の桜並木



ひと足お先に春を満喫・桃のハウス花見園
(2月初旬～3月下旬)



石和温泉駅前の彩甲斐橋通り

に春の訪れを告げる北山山麓の「お天狗さん」のお祭りがおこなわれます。笛吹川に雪どけ水が流れる4月には、桃の花祭りが盛大にひらかれます。八幡神社のミコシをかつぐ若衆を先頭に、戦国武者800人が史実にもとづき繰り広げる川中島合戦・戦国絵巻は石和町の一大イベントで、この時季の石和町は祭り一色になります。

夏には、笛吹川におどる若鮎が解禁になります。夜になると鵜飼いのかがり火が川面をてらします。8月21日には花火大会もおこなわれ、石和町の夏の風物詩を一目見ようと、たくさんの方が訪れています。

秋になると、あたり一面の畑では、たんせいこめて育てたブドウや桃、柿、リンゴなどがたわわに実ります。笛吹川では産卵のため河口に向かう落ち鮎を見ることができます。山々が紅葉で色づきはじめるころ、石和町ではブドウ狩りや温泉観光客でにぎわい、一段と活気をおびます。



川中島合戦・戦国絵巻 (4月中旬)



夏の夜空を彩る花火大会 (8月21日)



ほろ いざわちやう まつり いっしょく
春、石和町は祭り一色になります



ゆうげん ほかい さま うか ちやうじん ちやうじん
幽玄の世界へ誘う鶴飼い (7月中旬～8月中旬)

いざ わちやう
石和町のホームページアドレス

<http://www.town.isawa.yamanashi.jp/>

海のまち館山と山のまち石和

館山市と石和町が姉妹都市の締結をしたのは、1973(昭和48)年のことです。石和町との姉妹都市縁組のきっかけは、昭和47年ごろに石和町の八田地区老人会から、海のあるところで活動している老人会を紹介してほしいという申し入れがあり、館山市で西岬地区の老人会を紹介したのが、交流のはじまりです。

1973(昭和48)年2月、石和町観光協会の人たちが正式な姉妹都市縁組の申し入れをするために館山市を訪れ、翌月には姉妹縁組委員会を結成、5月10日に館山市役所で締結文が交換され、姉妹縁組が成立しました。

姉妹都市縁組がむすばれた初年度の館山観光まつりに、石和町のみこしが参加したのをかわきりに、さまざまな交流が続けてきました。なかでも出野尾の十二社神社のみこしが参加した1975(昭和50)年8月の石和温泉まつりと1980(昭和55)年4月の石和町桃の花祭り・川中島合戦・戦国絵巻は、石和町のみなさんにたいへんよろこばれたそうです。

1981(昭和56)年には、館山市から市民号をしたてて、450人が石和町を訪問。翌年には、南総里見まつりに、石和町から武田甲州軍団として武者50人が参加したほか、毎年のように、お互いの祭りに特産品を出品するなど、さまざまな文化・産業の交流が続けています。



もも はな まつり ・ 芸妓みこし (4月初旬)



かんたん せひ まごう は、りつぱな 柿を育てます



たけのこ 温泉まつり ・ サマーカーニバル (8月19日)



4 館山市の自然しぜん



(1) 高ノ島と沖ノ島



沖ノ島

高ノ島や沖ノ島の自然を
みんなで調べてみよう。



1 高ノ島の自然

高ノ島のようすを見てみよう

北条海岸や館山海岸から西方にうっそうと茂った森が見えます。この森が高ノ島公園をおおうタブノキ林です。

高ノ島は、かつては館山湾にうかぶ島でしたが、昭和2年から昭和5年にかけて埋め立ててつくられた館山海軍航空隊の一角になり、当時の面影をわずかに伝えていきます。

高ノ島のタブノキ林

高ノ島は、高さ16.7メートル、面積約2.7ヘクタールの小さな丘で、照葉樹におおわれています。森の中にはいると、高さ20メートル、目の高さの直径約1メートル50センチのタブノキをはじめ、約1メートル以上のものが数本見られます。

その下にはヤブニッケイ、シロダモ、さらにその下にはヤブツバキ、アオキが見られます。林床はアスカイノデ、フウトウカズラなどにおおわれています。



タブノキ林



タブノキの開花と新葉



イシカグマ



高ノ島公園



キケマン

最大のタブノキは、樹齢300年ともいわれています。その白っぽい樹幹には老木の気品がうかがえます。

高ノ島のタブノキ林は、館山市が誇るすぐれた自然林です。林の縁の崖でイシカグマというシダ類のなかまが生えていたり、春に黄色の花が咲くキケマンも見られます。



沖ノ島と高ノ島 (大正頃)

② 沖ノ島の自然

沖ノ島のようすを見てみよう

沖ノ島は、高さ12.8メートル、面積約4.6ヘクタール、周囲約1キロメートルの陸続きの小島です。高ノ島と同様にそのむかしは館山湾にうかぶ島でしたが、現在は砂州によってつながれたり陸繋島になっています。

この砂州は、大正12年の関東大地震のときに沖ノ島の地盤が隆起し、さらに館山海軍航空隊の埋立で島が陸に近づき、その間を流れる潮の流れが漂砂を運んで堆積し、長い年月の間



砂州によってつながれた沖ノ島



ハマゴウ



トベラ



トベラ (め花)



トベラ (お花)



トベラの果実

にだんだん浅くなり、昭和28年頃に陸続きになりました。現在では、長さ200メートル、幅30メートルから80メートルという砂州になっています。

沖ノ島の植物

沖ノ島の植物の数は、シダ類以上約240種あまりを数えることができ、千葉県南部の海岸で見られる多くの植物を、この小さな島で観察することができます。

島の北西部の海岸から、中央広場に向かう道を歩くと、ハマゴウ、オオバグミ、トベラなどの小さな低木から、しだいにヒメユズリハ、ヤビニッケイ、タブノキなどの大きな高木林に変わっていくという、海岸林の移り変わるようすを見ることができます。

宇賀明神のわきには、沖ノ島最大のタブノキ(樹高約18メートル、目の高さの直径約1メートル)の老木があります。

沖ノ島のもう一つの見どころは、ハマオモト、ハマナタマメ、インギクなどが見られることです。

ハマオモト、ハマナタマメは南方系の植物で、南房総を北限



オオバグミ



沖ノ島最大のタブノキ



ハマオモトの花



ハマナタマメの花と実



イソギク



ヒゲスゲ



ソナレムグラ



ハマナデシコ

とする^{かいがんしょくぶつ}海岸植物です。秋に岩場^{いわば}に咲くイソギクは、銚子^{ちょうし}から御前崎^{おまえざき}、伊豆七島^{いずしちとう}などの限られた海岸^{かいがん}に自生する海岸植物^{しせい}です。

南東部^{なんとうぶ}の海岸崖地^{かいがながけち}では、ハチジョウススキやハマナタマメ、ハマオモト、ヒゲスゲ、ソナレムグラ、ハマナデシコ、タイトゴメ、ガクアジサイ、イソギク、ツワブキなどが見^みられます。

北西部^{ほくせいぶ}の砂浜^{すなはま}では、ハマダイコン、ネコノシタ、タイトゴメなどの海岸植物^{かいがんしょくぶつ}が見^みられます。無人灯台^{むじんとうだい}のまわりには、春にはトベラ^{はる}の花^{はな}が咲き、秋にはハマゴウ^{あき}が咲^さきます。

島^{しま}の中の林^{なかに}に入^{はい}ると東部^{とうぶ}と南部^{なんぶ}はタブノキ、ヤブニッケイなど^{しょうようじゆりん}照葉樹林^{した}で、その下^{おと}にはフウトウカズラやアスカイノデ^{おおみ}が多く見^みられます。

展望台^{てんぼうだい}への道^{みち}にはヤブツバキ^{おお}が多く、中央広場^{ちゅうおうひろば}周辺^{しゅうへん}にはアカメガシワ、クサギ、カラスザンショウなどの落葉樹^{らくようじゆ}が茂^{しげ}っています。

北東部^{ほくとうぶ}の林^{はやし}の下^{した}には、春^{はる}になるとウラシマソウ^{ぐんせい}の花^{はな}が群生^{ぐんせい}して咲^さきます。紫色^{むらさきいろ}の花^{はな}が仏炎苞^{ぶつえんほう}に包^{つつ}まれ、中^{なか}の肉穂^{にくすい}の先^{さき}が長く伸^{のび}びています。釣り糸^{つりいと}のように垂^たれ下^さがる姿^{すがた}を浦島太郎^{うらしまたろう}の釣り糸^{つりいと}に見^みたて、この名^ながつけました。



タイトゴメ



ガクアジサイ



ハマダイコン



かいがんりん
海岸林のうつりかわりのようす



ツワブキ



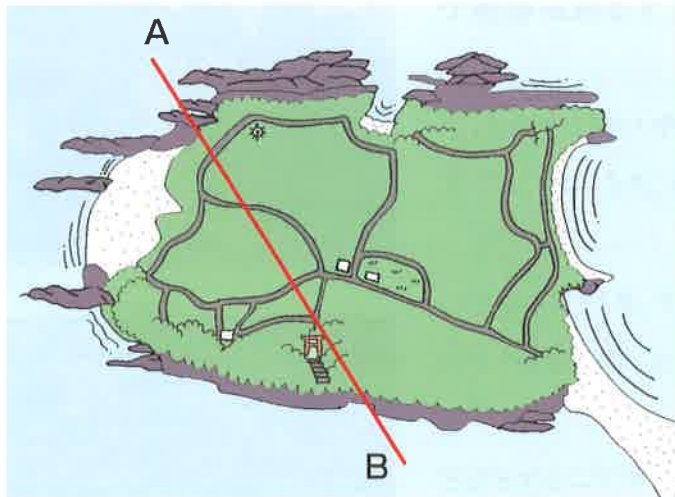
ぐんせいするネコノシタ
群生するネコノシタ



アスカイノデ



ツワブキの花

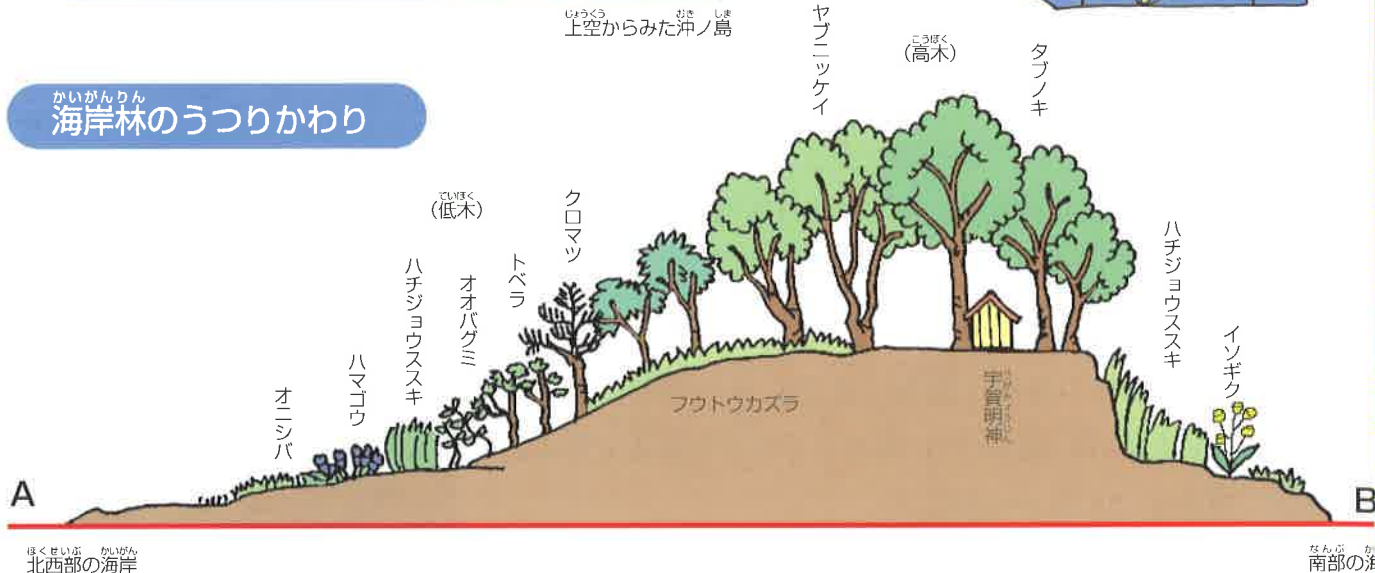


じゆうくう
上空からみた沖ノ島



かいがんりん
海岸林のうつりかわり
をイラストでみてみよう。

かいがんりん
海岸林のうつりかわり



ほくせいふん
北西部の海岸

なんぶの海



ヤブツバキ



フウトウカズラ



ウラシマソウの群生



群生するカラスガンショウ



フウトウカズラの果実



ウラシマソウの花



おもしろ探検隊

おきしまちそう 沖ノ島の地層

おきしま 沖ノ島では、ふだん目にするのできない地層を見たり、さわったりすることができます。

おきしまちそう 沖ノ島の地層のほとんどは、れきすなねんどが海底で積み重なってできた地層で、なんそうにもなっています。

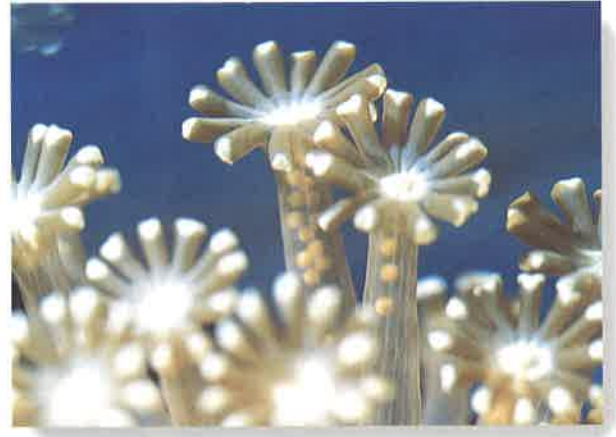
ところどころにかざんからでかざんれきやかざんばい、なみによってまるくなったものや、かくばったままのものがふくまれています。



それぞれのちそうがどんなものでできているのか、調べてスケッチしてみましょう。



ニホンアワサンゴ



ニホンアワサンゴのポリプ



ベルベットサンゴ



トゲイボサンゴ



フタマタハマサンゴ

沖ノ島のサンゴと海中のお花畑

海に目を移すと、水深5メートルほどの沖合いにエダミドリイシ、ニホンアワサンゴ、キクメイシなど20種以上の造礁サンゴを見ることができます。

これらイシサンゴ類の群生は、学術的にも貴重な存在で、海洋学者から貴重な研究材料として注目されています。研究者による潜水調査では、沖ノ島をはじめ、坂田から波左間周辺、大房岬から雀島周辺、さらには鋸南町岩井袋沖の岩礁などでも観察され、このあたりといったいは、北限に近いサンゴの海として世界的にも知られています。

館山湾周辺のイシサンゴ類は、オーストラリアの海洋学者らによって、現在25種が報告されています。今後の調査により、その数は増加すると考えられています。またこれらの岩礁では、イシサンゴ類に限らずソフトコーラルと呼ばれるウミトサカやヤギ類を見ることができます。その群生のようなすは海中のお花畑にたとえられ、ダイバーたちの人気をよんでいます。



オオトゲトサカ



ウミイチゴ



チョウチョウウオ



ウメボシイソギンチャク



砂洲の流れ藻



アラメ



カジメ

いその生き物

沖ノ島に続く砂洲には、3月にアオサ、ワカメ、5月にはアラメやカジメ、ナガミル、ミル、ミリンなどの流れ藻が打ち上げられます。

南東部のいそでは、アオサやヒジキ、ウミウチワ、ウミトラノオなど海そうのほか、潮だまり(タイドプール)ではドロメ、イソスジエビ、オオヘビガイ、クロイソカイメンなど小さな生き物が見られます。

北西部のいそでは、岩にあなをあけてすむイシマテガイやカサガイのなかまのカモガイも見られます。北東のいそのまわりでは、巻貝のタマキビ、アラレタマキビが見られ、岩棚にはウメボシイソギンチャクがへばりついています。

また、8月中旬をすぎると南方からの使者ともいえる色あざやかな小さな魚たちが見られるようになります。チョウチョウウオやスズメダイ、ツノダシ、キンチャクダイ、ベラなどのなかまで、沿岸の岩場や潮だまり(タイドプール)でも見ることができます。

東の砂浜では、いその石を動かすとアマオブネ、マツバガイ、バフウニ、クモヒトデ、イソクズガニなどの小動物が見つかります。



ミル

いその生き物も季節によっていろいろみることができるね。





おきしまの南端部
沖ノ島南部のいそ



いその生き物をさがしてみよう

かんさつ 観察してみよう

おきしまには、岩がむき出しになっているいそがあります。いそは、直射日光、気温の変化、雨などの影響で生き物が住みつくにはきびしい環境です。

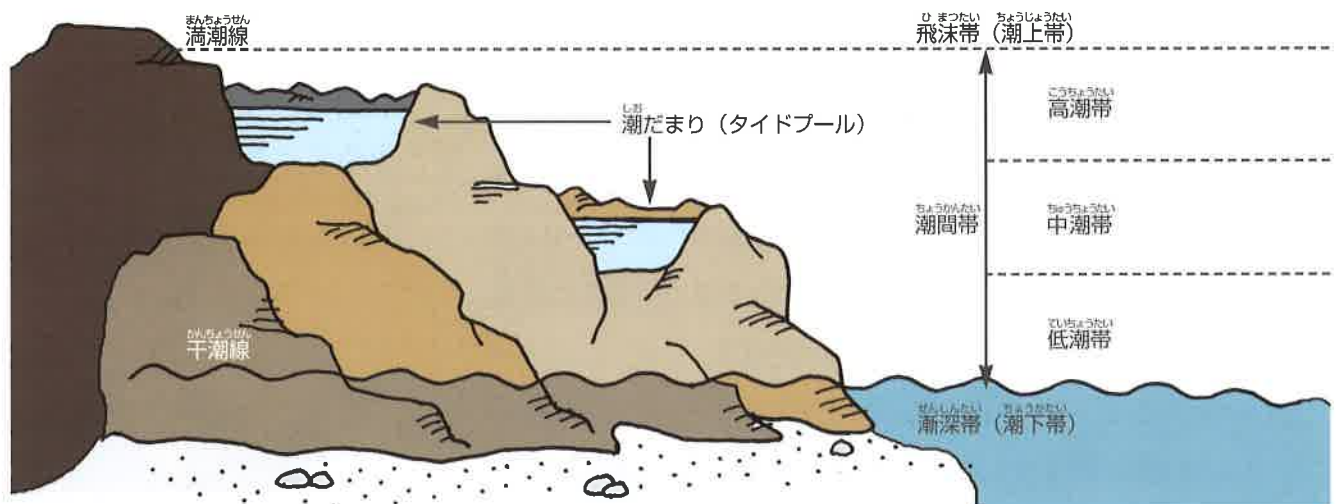
しおが引くといそが干しあがったり、しおだまり(タイドプール)という水たまりができたりして、いろいろな生き物がかくれているようすを観察することができます。

いわの下や岩のすきまを観察して、いその生き物をさがしてみましよう。



しおだまり(タイドプール)では、いろいろな生き物を観察することができます。

ちけい いその地形





手づくりののぞきめがね



ゆっくり、しずかに観察しよう



そっと見ていると、一度かくれた生き物が、また出てきます

ふくそう ももの
服装や持ち物

- ぼうし
- 底の厚いくつ
(岩でけがをしないように注意)
- 作業手袋
さきょうてぶくろ
- ピンセットやスプーン
- ポリ袋など
ぶくろ



ちゅうい
注意!

ウニのトゲにさされないように気を
つけよう。
特にガンガゼのトゲは、ささると折
れやすく、毒があるので要注意!

かんさつ
観察のしかた

- ① 石をひっくり返してみよう
岩をもちあげると、うらにいろいろな生き物がある。観察したら、岩をそっともとにもどそう。
- ② 潮だまり(タイドプール)を見る
ゆっくりしずかに、観察しよう。そっと見ていると、一度かくれた生き物が、また出てくる。
- ③ 岩の穴・すきまをのぞく
岩のわれめはカニのすみか。しずかに、そっとのぞこう。



4 生き物の名前を調べよう

海辺の生き物をもっとよく知るためには、その名前を知ることが第一歩。図鑑で調べてみよう。

いろいろな生き物があるね。図鑑で名前を調べてみよう。



イシガニ



インクスガニ



おもしろ探検隊

水のきれいなタマキビガイ

磯を歩いてみると、波しぶきがかからない高いところに、小さな巻貝を見つけることができます。タマキビガイとそのなかまたちです。1センチほどの小さなこの巻貝は、海辺の生物なのに、海水がきれいという少しかわった貝です。

タマキビガイをとってきて、海水の入ったバケツや潮だまりに入れてみると、すぐに水からはい出してきます。一度ためしてみてください。

潮の引きたいそであそぶときに、このタマキビガイがいる場所より高いところに着替えなど



の荷物をおけば、ぬれる心配もないというわけです。

なみ 波しぶきをうけるあたりによく見られる生き物



イシマテガイ



アマオブネガイ



イシダタミガイ



イワガニ



ウノアシガイ



イボニシ



オオヘビガイ



カメノテとムラサキインコガイ



カモガイ



クロフジツボ



ケガキ



ヒズラガイ

しお 潮だまりあたりによく見られる生き物



アオウミウシ



イソバナ



クマノミ



オオカメノコキクメイシ



クロイソカイメン



ソラスズメダイ



イソスジエビ



ツノダシ



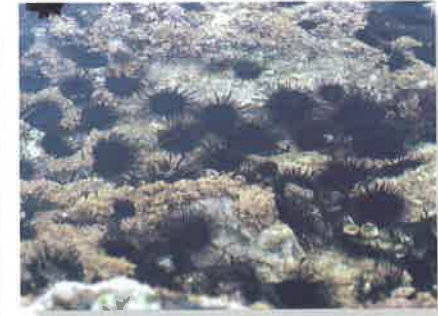
バフンウニ



アメフラシ



ムカデミノウミウシ



ムラサキウニ群生

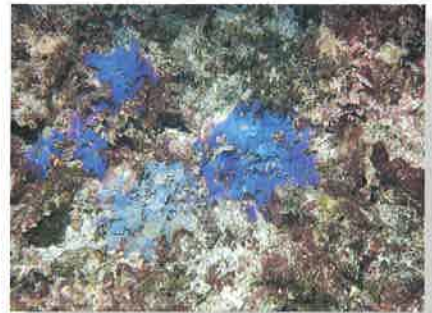
いそで^み見られる^{がい}海そう



イボツノマタ



ウスバツナギソウ



アヤニシキ



ウミトラノオ



ヒジキ



ウミトラノオ



フクロノリ



アラメ



フクロフノリ



ヘライワスタ



イロ (左) とイシゲ (右)



ウミウチワ



イワヒゲ



カジメ

(2) 南房パラダイスと館山野鳥の森



マーライオン

南房パラダイスでは、たくさんの植物や動物を観察できます。みんなで、でかけてみよう。



1 南房パラダイスに出かけてみよう

南房総フラワーライン沿いに、南房パラダイスはあります。南房パラダイスは、シンガポール国立植物園と姉妹園を結んでいます。園内に入ると、シンガポールから贈られたマーライオン像が私たちを出迎えてくれます。園内には大きな温室がならび、アナナス、ブーゲンビレア、ハイビスカス、熱帯果樹、熱帯花木など5,000種もの熱帯・亜熱帯の植物が観察できます。

蝶館では、10種ほどの蝶が飛びかき、羽化のようすも見られ、シンガポールらん館では、バンダ・ミス・ジョッキム(シンガポールの国花)やカトレアなど、豪華な花が楽しめます。

また、ふれあい動物広場では、ポニーの乗馬やラマ、インコ、モルモット、ウサギなどとのふれあいも楽しめます。高さ23.5メートルの展望台からは、平砂浦海岸や遠くは富士山、伊豆諸島を眺めることができます。



エントランスホール



サボテンコーナー



館山市周辺で見られるおもな野鳥の看板



ふれあい野鳥館 (ジオラマ)

2 館山野鳥の森に出かけてみよう

館山野鳥の森は日本列島のほぼ中央にあり、渡り鳥の休息をはじめ、えさや水を補給する地点として、古くから野鳥たちに親しまれてきた森です。

森林浴の森百選のひとつにもなっている園内には、3つの観察コースが整備され、野鳥観察や森林浴を楽しむことができます。

急傾斜の多い変化に富んだ地形で、標高の低いところは25メートル、一番高いところは天神山で146.4メートルあります。観察コースの途中にある展望台からは、日本の道百選のひとつ房総フラワーライン、白砂青松百選のひとつ平砂浦海岸などが一望できます。

谷間にはスギ林が見られ、尾根沿いにはマテバシイ、ヤブニッケイ、ヤブツバキなどのほか、コナラ、オオバヤシャブシ、オオシマザクラなどが見られます。また、モミの大木が2本見られます。そのほかには、ニリンソウ、ウラシマソウ、スマレなども見ることができます。

森林では60種ほどの野鳥が見られ、ウグイス、エナガ、キジ、ホオジロ、ムクドリ、メジロのほか、夏鳥はサシバ、ツバメ、オオルリ、ホトギスなどが、冬鳥ではアオジ、アカハラ、オオタカなどが見られます。



野鳥観察会のようす



モミの大木



球根^{きゅうこん}ベゴニア



アラマンタ・ネリフォリア



エクメア・ファスキアタ



デンドロビウム・ファレノプシス^{ひい}系



マンゴー



アニリー



スジクロカバマダラ



ナガサキアゲハ



ツマムラサキマダラのサナギ



オオオオハシ



アオメキバタン



カムリバト



コツメカワウソの赤ちゃん



ポニー



シロガオマーモセット



平砂浦展望台



富士見展望台から見た平砂浦海岸と富士山



大島展望台



コゲラ



メジロ



カワセミ



森林浴も楽しめます



ハクセキレイ



西沢の池



ジョウビタキ



遊歩道のようにす

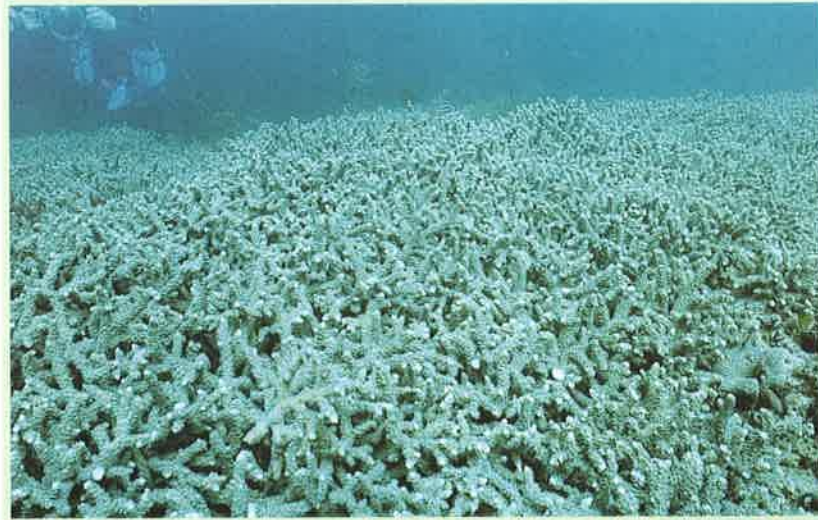




5 ゆたかな自然を楽しむ



(1) サンゴの世界に魅せられて



エダミドリイシの群落 (鑑南町沖)

沖ノ島サンゴを見守る会



代表 三瓶雅延さん

「沖ノ島の豊かな自然を、多くの人に伝えたい」と、沖ノ島のサンゴの生態を調査しながら、海辺の清掃をかねたサンゴ観察会や講演活動を行っている三瓶さん。はじめて沖ノ島のサンゴと出会ったのが1987年の夏。以来、サンゴの世界に魅せられ、10年以上にわたって沖ノ島のサンゴを見守っています。



沖ノ島のサンゴとの出会い

三瓶さんと沖ノ島のサンゴとの出会いは、安房博物館

で行われた講演会に参加したことがきっかけです。子どものころからなれ親しんできた館山の海に、サンゴが生きていることをこの講演会で知りました。

それから約1か月後、沖ノ島で素もぐりを楽しんでいたときに、水深約7メートルの海底にゆらぐ赤紫色のサンゴを見つけたのが、沖ノ島のサンゴとの最初の出会い。「あの時の感動は、今でも忘れられない」といいます。

それ以来、「この海を大切にしたい」との思いから、週末になると沖ノ島の海にもぐったり、本でサンゴの生態を調べたりと、海通いがライフワークになりました。



サンゴの北限域として知られる沖ノ島の海



沖ノ島(南側)の磯



トゲイボサンゴ



エダミドリイシの群落 (左) とココメノコキクメイシ (右)



エダミドリイシ



干潮帯に生きているキクメイシモドキ



沖ノ島のサンゴたち

「サンゴは、西岬地区の坂田や波左間周辺から富津岬にいたる内房に広く分布しています。沖ノ島の海は、北限に近いサンゴの海として世界的にも知られています。たくさんのサンゴが深い海底だけでなく、浅瀬にも生息していて、海にもぐらなくても見ることができます。一部の人だけの世界でないのが魅力」という三瓶さん。

今までに確認したサンゴは、沖ノ島周辺で32種、315個体にのぼるといいます。三瓶さんによると、沖ノ島の南側の浅瀬では、キクメイシモドキを見ることができるそうです。うすくドロをかぶっていることが多く、いその中に溶け込むように生きています。一番大きいのは直径40センチで、色はピンクがかかった橙色です。

沖ノ島周辺の浅瀬は冬の間、北風によって表層水が冷やされ、10度まで下がる時があります。大潮のとき、キクメイシモドキは、夜間約3時間ほど海面から出て外気にさらされるなど、きびしい環境のなかで生きています。



沖ノ島の自然を紹介する三瓶さん



浅瀬でもサンゴを見ることができます

また、暖かい黒潮が流れる沖ノ島の北側から西側では、直径1メートルほどのサンゴがいくつも生きています。主に、キクメイシ、エダミドリイシ、イボサンゴ、ベルベットサンゴ、アミメサンゴ、ニホンアワサンゴなどです。「こうしたサンゴたちが生きていけるのは、黒潮のおかげです」と三瓶さん。

1995年8月には、沖ノ島近くの水深4メートルの浅瀬で生きている、エダミドリイシとキクメイシの産卵（卵と精子が入ったバンドルを放出）を素もぐりで確認。30分続いたサンゴの一斉産卵に、「生命の営みのすばらしさに感動した」といいます。



沖ノ島は鏡ヶ浦の宝物

時間ができると、沖ノ島に足をはこぶという三瓶さん。海が荒れると、サンゴがはがれていることも。「はがれたサンゴの破片を浅いところへ持って行って、岩にくくりつけて移植をします。2か月ぐらいで着床します。子どもたちがすぐ近くで見られるようにするため」と三瓶さん。

サンゴ保護の輪を広げ、1997年には「沖ノ島サンゴを見守る会」を結成。夏休みには、毎年のようにサンゴ観察会を行い、たくさんの人に沖ノ島の自然を紹介し続けています。

「海辺を歩いていると、きれいな貝がらといっしょに、サメの歯やカニの化石のほか、イルカの耳の骨などを見つけることができます。イルカの耳の骨は、化石図鑑ではホテイ石と紹介されています。七福神の布袋和尚で、ふっくらとした両肩と和尚の頭に似ているからで、観察会では一番人気があります」と三瓶さん。観察会では、海岸を歩く楽しみ方も紹介しています。集められたサンゴの化石などは、自宅の物置を改造した「珊瑚館」にならべられ、公開もしています。

「サンゴを守るためには、沖ノ島の植物など、島全体を守っていかなくてははいけません。沖ノ島の浅瀬で生きているサンゴは、鏡ヶ浦の宝物です。サンゴを育てている沖ノ島は、鏡ヶ浦の宝の島でもあります。きれいで豊かな海、そして、緑の山々に囲まれた館山の自然をみんなで守っていききたいですね」



エダミドリイシの卵 (0.4mm~0.6mm)



夏休みに行われるサンゴ観察会



自宅の物置を改造した「珊瑚館」



集められたサンゴの化石

(2) 南房総の花畑を彩るストックの花々



黒川さんが手がけている色あざやかなストック

ストックの新品種創造にける花農家



黒川 浩さん

西岬地区伊戸に住む花農家の黒川浩さんは、50年以上にわたってストックの栽培を手がけています。品種改良をかさね、これまでに作り出した品種は60種以上にもなります。これら一連のストックは「黒川ストック」ともよばれ、日本の切り花生産に使用されているストックの種子の70パーセント以上が黒川さんの採取したものです。西岬の自然の中で育まれたストックの花々。今でも南房総をはじめ、全国の花畑で黒川さんのストックの花が誇らしげに咲いています。



ストック栽培への挑戦

黒川さんの家では、大正のころから花の栽培を家業にしていました。子どものころから、花の出荷作業の手伝いをしていたといいます。戦争中は、イモや麦、米など食べものをつくるようにいわれ、花をつくってはいけないといわれた時代もあったといいます。

「近所の人に聞いた話なんですが、当時は、安房北条駅(今の館山駅)から汽車に乗って、東京へ花を売りにいったこともあったそうです。ほかの農産物とは比較にならないくらい、市場ではとぶように売れたそうです」



ハウスの中ではさまざまな色のストックが咲いています

しょうわ 25年、こうこうをそつぎょうご卒業後、かぎょう家業をつぎ、はなさいばいとくく
 昭25年、高校を卒業後、家業をつぎ、花の栽培に取り組み
 はじめたくろかわさん。「とうきょうではながよく売れる」というはなししげきもあ
 った。「おなじはなをさいばいするなら、ろじばななかさいばい
 露地花を栽培するなら、露地花の中でも栽培がむずかしい
 ストックをそだててみようと思った。あえてむずかしいことにちょうせん
 挑したかった」といいます。とうじ18さい。くろかわさんのストックさいばい
 研究がはじまりました。



ストックが栽培されているハウス



失敗と工夫のくりかえし

ストックは、もともとあめすくちほうでうまれたはなで、ヨーロッパがげんさんちいなえなえあめ
 原産。「小さい苗のうちにあめると、すぐにかれて
 しまいます。さいしょのころは失敗のれんぞくでしたね」とくろかわさん。

「ほんとうにうまいのか」というふあんなかくろかわさんげんき
 づけてくれたのが、子どものころからなれたしんできたしぜん
 西岬の自然だったそうです。「山がきたかぜをふせぎ、みなみあたかぜ
 南からは暖かい風がふく。このしぜんがはなさいばいみかたおもなん
 西岬の自然が花の栽培に味方してくれていると思ひ、何
 のしんぱいけんきゅうつづ
 心配もなく研究を続けられた」といいます。

とうじ
 当時はじんにールもなく、ちいさななえをおおうそざいなにじだい
 素材が何もない時代。
 「さいしょのきしたそだ
 最初は軒下で育てていましたね。そのかずがふえてくると、たいふう
 からなえまもえんがわなえそだばんがさしょうじがみ
 苗を守るために縁側で苗を育てたり、番傘のように障子紙
 にあぶらきわく
 油をぬって木枠のフレームをつくったこともありました。これは
 せいこう
 成功しましたね。たいりょうさいばい
 大量栽培のはじまりでもあります。失敗しても、
 かいけつ
 それを解決していかなければ、まえへすすめない。失敗をのりこえ
 るためのくふうたの
 工夫をするのが楽しい」といいます。



苗の手入れ



1本1本でいねいに育てます



ハウスの中のようす



黒川ストックの誕生

さいしょのころは、じょうひろせい一杯
 「最初のころは、8畳ほどの広さが精一杯でしたね。
 ちいめんせき
 小さな面積ではじめた1年目は、めじゅんちようう
 花も順調でよく売れました。それ
 めびょうきはっせい
 でも、2年目には病気が発生して、ほとんどぜんめつじょうたい
 3年目には、
 びょうきつよひんしゅさいばい
 病気に強い品種を栽培するのと同時に、自分でもひんしゅかいりよう
 品種改良をく
 わえていきました」



洲崎灯台のあたり一面に咲くストック

試行錯誤をくりかえす中で、昭和31年に最初の品種「黒川早生」を発表。黒川さんが24才の時のことでした。以後、次々と新しい品種を発表し、その中でも昭和60年の「高波」、61年の「早麗」、62年の「雪波」、平成元年の「朝波」、平成5年の「カルテットシリーズ」などは特に人気があり、そのほか、昭和50年に発表した「彼岸王」は今でも露地栽培用として重用されています。

「最初のころ、遠方に旅行にいったとき、旅館などに自分が育てたストックが飾ってあるのを見て、感動しましたね」

黒川さんの育成品種には、サーモンピンク系の花が多く見られるのが特徴のひとつ。「花づくりは、作曲家と同じで、ヒット曲をどれだけ出すか。みんなにどれだけ長く愛されるかが大切です。最初の黒川早生は忘れられない品種のひとつ。昭和62年の雪波は、品種改良の中で偶然に生まれた作品。市場でも一番の人気で、人生最大のヒット作品でもありますね」と黒川さん。



育種の仕事は縁の下の力持ち

黒川さんは現在、息子の幹さんと2人でストック栽培を手がけています。幹さんが作り出したアイアンシリーズは、茎がじょうぶで水揚げがよく、ボリュームのある花として人気があります。

「私たちの仕事は、多くの花農家に栽培しやすい品種の種を提供して、花が咲き、それぞれの花農家が利益をあげることで始めて成功します。育種という仕事は、縁の下の力持ちでもあります」と黒川さん。

何かをおぼえることよりも、新しいことを考え出すことが大好きという黒川さん。「むずかしいことから逃げているのはだめ。失敗してもいい。いろいろなことに挑戦することが大切だと思います。みんなによろこばれる花をこれからもつくっていききたいですね」



ピンクアイアン(幹さんが手がけたアイアンシリーズ)



ファンタジー (カルテットシリーズ)



息子の幹さんと



「みんなに喜ばれる花をつくっていききたい」と黒川さん



みなみ花房 南房総の花畑

(3)ウミホタルの神秘的な光に魅せられて



ウミホタルの神秘的な光

うみ かんさつくら ぶがいちよう
館山海ほたる観察倶楽部会長



おおたけ くにあき
大竹 邦明さん

夏休み、週末になると館山栈橋にたくさんの観光客や子どもたちが集まってきます。おめあては、青白い神秘的な光を放つウミホタルです。毎回100人ほどの人が集まる観察会で講師をつとめる大竹さん。「ウミホタルは館山の自然そのもの。このウミホタルが光り続けるように、自然を守ることの大切さを多くの人に伝えていきたい」。そんな思いから、ウミホタルの保護活動を続けています。



ウミホタルとの出会い

旅行会社に勤めながら、観光協会の会員としても活躍している大竹さん。ウミホタルとの出会いは、小学生のときのこと。「子どものころから海が大好きで、館山栈橋や北条栈橋にはよく釣りにでかけていました。夜釣りをしていると、青く光るウミホタルをよくみかけていた」といいます。

子どものころに出会ったウミホタルとの再会は、1994年の夏のことでした。幼なじみでもある「沖ノ島サンゴを見守る会」代表の三瓶雅延さんが、市内の宿泊施設で開催したウミホタル鑑賞会にさそわれ、その神秘的な光をあらためて間近でみて「感動した」といいます。



神秘的な光を放つウミホタル

「多くの人にこの感動を伝えたい」との思いから、この日をきっかけに大竹さんのウミホタルの研究がはじまりました。



ウミホタルの研究

翌年には、ウミホタル研究の第一人者でもある千葉県立磯辺高校の田原豊先生の指導を受けながら、観光協会のメンバーとともに本格的な研究をはじめた大竹さん。その年には観光協会主催によるウミホタル観察会『光る海を見てみないか』というツアーを企画。約700人もの方が集まったといいます。

「ウミホタルをコップに入れて、みんなで放流したんです。みんな感動していましたね。自分でも涙が出るほど感動した」という大竹さん。「ウミホタルのことを多くの人に紹介すれば、観光客もたくさんやってくるという手ごたえを感じた。でも、その一方でウミホタルを保護するなど、ウミホタルとうまくつきあっていかなければいけないと思った」といいます。

1996年には、三瓶さんとともにボランティアグループ「館山海ほたる観察倶楽部」を設立。その年の秋には、東京湾アクアライン完成記念イベントでもウミホタル観察会を開催しました。

「アクアラインが完成する1年前、担当の職員が館山のウミホタルのことをききつけ、ぜひ見せてほしいとやってきたんです。アクアラインの人工島『海ほたる』は、館山のウミホタルから名づけられたと言われています」

その後も、市内をはじめ、千葉県内の小学校などから依頼を受け、県内各地でウミホタル観察会を開催。2000年にはその数も70日をこえたほどです。



ウミホタルを守る

ウミホタルが有名になる一方で、「遊び心で、たくさんのウミホタルをとってってしまう人がいる。乱獲が一番の問題」と大竹さんはいいます。

「ウミホタルは、だいたい5月から6月にかけて一斉に産卵をし



館山湾(鏡ヶ浦)



北条棧橋のまわりでは、たくさんのウミホタルが生息しています



アクアラインの人工島「海ほたる」



北条棧橋で行われるウミホタル観察会

ます。家の水槽でかって、ある程度大きくなったら海に放流を
 するなど、その数をふやす工夫もしていますが、やはり海で育ったウ
 ミホタルの方が大きいですね。館山湾の自然の中で育つことが
 何よりも大切」と大竹さん。

観察会が終わると、ウミホタルが残っていないように栈橋の上
 に海水をかけるなど、かならずウミホタルたちを海にかえすことを
 心がけ、「一匹を一匹を大切にしている」といいます。

「ウミホタルは、海水でしか生きられません。ですから、よほど
 設備をそろえないと家に持ち帰ってもすぐに死んでしまいます。
 たとえ小さなウミホタルでも、ひとつの命です。観察が終わったら、
 その場で海にかえしてあげてください」と大竹さん。

「ウミホタルは、きれいで静かな海に住んでいます。その神秘
 的な光は、ふだん私たちが忘れていた自然の不思議やそのす
 ばらしさを教えてくれています。ウミホタルに限らず、館山には私
 たちが守っていかなければならない自然がたくさんあります。ウミ
 ホタルが光り続けることができるように、自然を守るための大切さ
 を多くの人に伝えていきたいですね」



捕獲器の手入れをする大竹さん



ウミホタル観察会は、室内でも行われます

ウミホタルを観察してみよう



館山湾に住むウミホタル

ウミホタルはミジンコの仲間で、体に透明な2枚の貝を
 もっています。おとなで3ミリくらい、米粒ほどの大きさです。水深
 5メートル前後の海底を活動域として、昼は砂地にもぐり、夜に
 なる砂から出て活動する夜行性です。

北は青森から南は沖縄まで、おもに太平洋側の岸で見つか
 っていますが、環境汚染や海辺のライトアップなどによって、首都
 圏からはしだいに姿を消し、関東地方では、茨城県や千葉県の
 一部でしか見られなくなっていました。その数少ない関東の
 生息域の中でも、特に館山湾は密度の高い場所として研究家
 の中でもよく知られています。



メス



オス

(4)少年の日の星への思いを持ちつづけて



ヘール・ポップすい星

てんもん かいちょう
館山天文クラブ会長



あんどう さとる
安藤 智さん

あんどうさとるの星への思いは、小学生のときに国語の教科書で『星をみつめて』という話に出会ったのがはじまりです。以来、安藤さんは手づくり望遠鏡を数多くつくったり、真倉から人工の光の少ない畑地区にうつり住み、手づくり観測所を建てたり、文字どおり星をみつめるための生活スタイルを築いてきました。県内各地で開催される天体観察教室にまねかれ、子どもたちに館山の豊かな自然と星空のロマンを語りつづけています。



手づくりの天体観測所と望遠鏡

てんもん かいちょう あんどうさとる ちくはた
館山天文クラブの会長・安藤智さんは、豊房地区畑の山中に、手づくりの天体観測所を建て、手づくりの望遠鏡で星の観察をしています。

わたしたちの目には見えない無数の星の中から、だれよりも早く新しい星を見つけるために、時間のゆるすかぎり望遠鏡をのぞいているという安藤さん。休みの日には、県内各地で開催される天体観察教室へまねかれ、講演にも出かけています。

「はじめての講演のときはもうパニックでしたね。自分で何を言っているのかわからない。星の写真をみせるだけで精一杯でした。だから、ひとりで海や駅、公園へ望遠鏡を持って行って、近



みんなに「星の先生」としてしまわれている安藤さん

ウミホタルの捕獲器の作り方

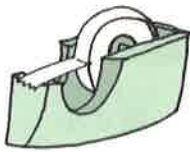
用意するもの



● ふたがプラスチックのビン

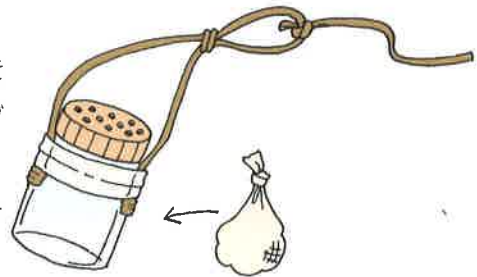
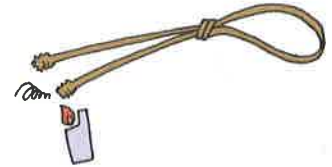
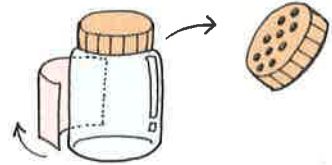


● ロープ
(3ミリほどのものを5メートル)



● ビニールテープ

- ① ビンのラベルをはがします。
- ② ふたをはずしてうらぶたをとり、直径5ミリくらいのあなをたくさんあけます。電気ドリルかキリを使用します。
- ③ 40～50センチに切ったロープの両端をライターなどの火であぶって右図のようにまんなかで輪をつくりまわす。
- ④ つくったロープをビニールテープでビンにとりつけます。
- ⑤ のこったロープをビンにとりつけたロープの輪とむすびます。
- ⑥ えさは魚や肉の切り落としをビンにいれます。ストッキングやガーゼでつつんでいれると、えさがビンの中であらばりませぬ。



ウミホタルをつかまえる



捕獲器をついたら、いよいよウミホタルをつかまえにいきましょう。ウミホタルは、水深5メートルほどの砂地で波のしずかな、そして暗い海辺にすんでいます。夜行性なので、捕獲は夕暮れをまっておこないます。

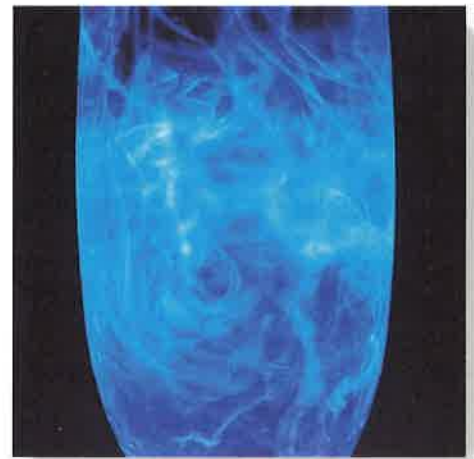
捕獲器の中にえさをいれて、ビンをしずめます。このとき、海底でビンが立ってしまわないように、底についたら、少しだけひもをひっぱってたおすと、ウミホタルがはいりやすくなります。15分から30分ほどでひきあげると、なかに20～30匹、多いときには100匹以上のウミホタルがはいっています。

ウミホタルは観察したら海へかえします



つかまえたウミホタルは、水をかきまぜたり、取り出してそっとふれたりすると青白く発光します。よく観察すると、ウミホタルではなく、そのまわりの水が光っているのがわかります。

観察が終わったら、その場で海にかえしてあげましょう。



ウミホタルはふだんはあまり光りません。おもにびっくりしたときに、青紫色の発光液をはきだします。求愛のために光るとも考えられていますが、まだよくわかっていません。

ちゅうい 注意!

ウミホタルの捕獲は、夜間の暗いところなので、子どもだけの作業は危険です。大人の人といきましょう。



すばる星



オリオン座大星雲

よ寄ってくる人を相手に、話し方の練習もしました。今では、外国へ行ったときにもとめた隕石や、海岸でひろい集めた化石などをさわらせてたりして楽しく話しています」という安藤さん。

そのやさしい笑顔と子どもたちをあきさせない名調子は、天体観察に集まる子どもたちから「星の先生」とよばれ、親しまれています。

安藤さんが星に興味を持ったのは、小学5年生のときに『星をみつめて』とう本を読んだのがはじまりです。

「竹の筒で望遠鏡をはじめてつくったのもこのころですね。おじいさんの老眼鏡を拝借して、虫めがねとくみあわせてレンズにしたんです。船の丸窓のガラスをわけをいってもらってきて、2〜3か月かかってみがきあげ、レンズもつくりました」

空き缶や配水管のきれはし、ラップの芯などでつくるという手づくり望遠鏡。今までにつくった望遠鏡は100台以上になるそうです。



美しいすい星に魅せられて

畑の山中にある手づくりの天体観察所には、夏になるとたくさんの方が安藤さんをたずねてやってきます。「畑は星を観測するのに最適な場所です」と安藤さん。

ほうき星ともよばれているすい星の美しさに魅せられて、星空の観測を続けています。



天の川



土星



手づくりの天体観測所

「すい星は1年に何個か発見されているんですが、その新しいすい星を探すのが楽しみでもあります。1975年の7月7日でしたね。新しいすい星を発見したんです。届け出順に3番目で発見者の名前がそのすい星につくんです。でも、そのときは残念ながら4番目。いつかは、すい星に自分の名前をつけてみたいですね」

近い将来、「新しいすい星発見！安藤すい星」という記事を見ることができるともかもしれません。



波が運ぶ自然からのメッセージ

自然が大好きという安藤さんは、星空観察のかたわら、ビーチコーミングも楽しんでます。海岸に流れ着いたものをひろって楽しむことを、海岸(ビーチ)を櫛(コム)ですいたようにひろい集めるようすから、ビーチコーミングといいます。

「だれでも幼いころに、海に行くとききれいな貝がらをひろい、耳にあて遠い海風を聞いたり、机の引き出しに宝物としてしまっておいた経験があると思います。海岸に流れ着くのは貝だけでなく、化石のはりついた石ころや、外国語の書かれたガラスビン、クジラやイルカなどの動物の骨など、たくさんあります」

安藤さんの手にかかる、砂浜に落ちている小さな石も宝物になります。天体望遠鏡のレンズみがきの技術が役に立っているという「勾玉づくり」です。

「勾玉をつくるには、砂浜で材料になる丸まった石を探します。水晶やメノウがよいのですが、探すのはむずかしいですね。半月状にけずり、穴をあけてひもをとおします。穴あけはとても時間がかかるのですが、古代のロマンを感じたいなら、なるべく手づくりで。きっと愛着が出てきますよ」

夏休みになると、仕事のあいまをぬって、朝は海辺で宝物さがし、夜は天体観察教室といそがしい毎日。「それがまた楽しい」という安藤さん。



星空観察会



スライドで星座を説明する安藤さん



こんなきれいな石がひろえるよ



安藤さんの宝物、中央が勾玉

「打ち上げられた貝がらなどは、いずれも浜辺にたどりつくまでの物語があります。ひろったものを注意深く観察することで、漂着物は私たちに何かを語りかけ、ときには訴えかけてきます。みなさんも海へ行ったら、波が運ぶメッセージを探してみませんか」



何が発見できるかな。みんなも海岸へ出かけてみよう



おもしろ 探検隊

布良星の輝き

富崎地区の布良海岸で、澄んだ真冬の夜、真南の水平線すれすれに、赤く光る星「カノーブス」を見ることができます。

北関東から東北地方の一部では、布良でマグロ漁のため遭難した漁師の魂が成仏できずに漂っているとして「布良星」とよばれています。地元では布良星が見えると、翌日季節風が吹き荒れるといわれています。

布良星(カノーブス)は地球から200光年(光の速さで200年)の距離にあります。この星の光の強さは太陽の2万倍、質量は1万倍という想像もできない超巨星です。星が赤く見えるのは、夕陽が赤く見えるのと同じ原理です。真南にあるためか竜骨(船底の重要な材料)座にあってギリシャ神話でも航海や戦の物語に出てきます。

中国では古くから「南極老人星」とよばれています。洛陽、長安などの昔の都からは、南のほかに低く見えるからです。中国ではこの星が見



真南の地平線すれすれに赤く光る「カノーブス」

ると、その年は天下泰平であると祝ったそうです。そして、現在は人工衛星打上げの目標・道案内もしてくれています。

ぼうえんきょう 望遠鏡をつくろう

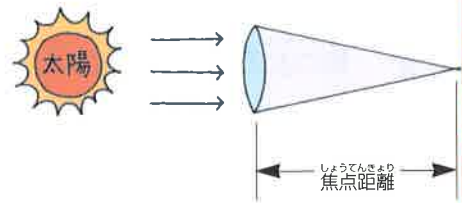
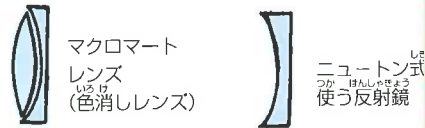


① レンズを入手する

ぼうえんきょう 望遠鏡にはかならず2枚以上のレンズが必要（ひつよう）です。望遠鏡（ぼうえんきょう）の前方（ぜんぽう）のレンズを対物（たいぶつ）レンズ、のぞく方（ほう）のレンズを接眼（せつがん）レンズとよびます。レンズは右（みぎ）のようなもの（ぼうえんきょう）があって、つくる望遠鏡（しゅるい）の種類（く）によって、その組み合わせ（あ）がかわります。

接眼（せつがん）レンズは小さい（ちい）ので、たとえば使い捨て（つかす）カメラ（かめら）などのレンズ（れんず）でも代用（だいよう）できます。対物（たいぶつ）レンズは、使わなくなった（つか）一眼レフ（いちがん）カメラ（かめら）など特別（とくべつ）なものがないとなかなか（にゅうしゅ）入手（こう）がむずかしい（むずかしい）です。購入（かう）する（場合）（ばあい）は、およそ3センチ（さん）のもので1,000円（えん）程度（ていど）、5センチ（ご）で3,500円（さんご）くらい（くらい）で入手（こう）できます。

レンズ（れんず）が入手（こう）できたら、まず口径（こうけい）と焦点距離（しやうてんきょり）を調べて（しら）みよう。口径（こうけい）は定規（じやうぎ）で直径（ちやうけい）をはかれば（ちやうけい）すぐに（すぐ）わかります（わかります）。焦点距離（しやうてんきょり）は、太陽（たいよう）を使って（つか）虫めがね（むし）で紙（かみ）を燃（も）やす（とき）時の（とき）レンズ（れんず）と紙（かみ）の距離（きょり）です。対物（たいぶつ）レンズ（れんず）で白い紙（しろ）に太陽（たいよう）の光（ひかり）を写（うつ）して、光（ひかり）が一番（いちばん）小さ（ちい）くなった（ところ）の距離（きょり）を測（はか）れば、これがその（しやうてんきょり）レンズ（れんず）の焦点距離（しやうてんきょり）です。



② 本体の筒をつくってレンズを取りつける

筒（つつ）はいろいろなもの（だいよう）を代用（だいよう）してみよう。

- レンズ（れんず）の口径（こうけい）が3センチ（さん）ならば水道管（すいどうかん）
- 4センチ（し）ならばラップ（らっぷ）の芯（しん）
- 5センチ（ご）ならばジュース（じゅうす）の空き缶（あかん）
- 6センチ（ろく）ならば水道排水パイプ（すいどうはいすい）
- 7センチ（しち）ならばお茶（ちや）やのり（のり）の缶（かん）

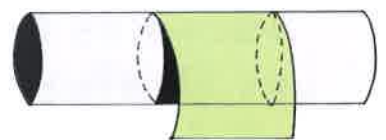
などが利用（りよう）できます。

筒（つつ）は対物（たいぶつ）レンズ（れんず）の焦点距離（しやうてんきょり）より5センチ（ご）ほど短（みじか）めの長（なが）さで切（せつ）断（だん）します。ジュース（じゅうす）の空き缶（あかん）などは長（なが）さが足（た）りないので、缶（かん）きり（そこ）で底（そこ）をぬい（なんぼん）て何（なんぼん）本（ほん）か（か）をテープ（ていぷ）でつな（つな）ぎます。



お菓子の缶で作った望遠鏡

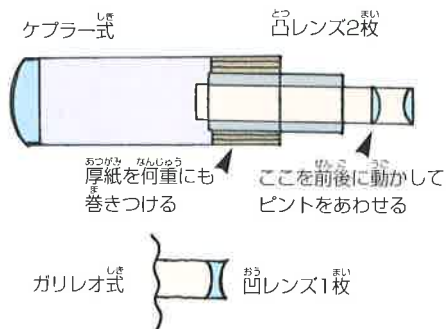
ここをあわせてマジックで線（せん）を引く



最後に、筒の内側は光の反射をふせぐため、黒いつや消しのスプレーでぬります。かわかしたら、対物レンズの凸面を上にして平らな方を筒にのせてテープを巻きつけてしっかり止めます。



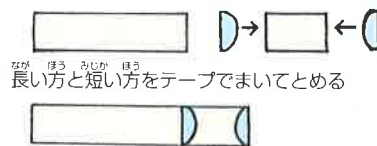
3 接眼部と接眼レンズをつくる
接眼部とは、のぞく方の小さな筒で、ここに接眼レンズをさしこんで、伸び縮みさせてピントをあわせます。もし、パイプをさしこんだとき、ガタガタするようなら細い方のパイプに紙を巻きつけて調節してください。



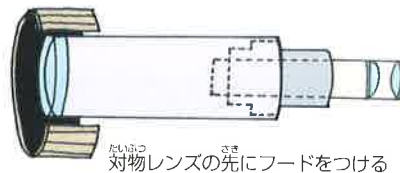
つぎに、細い方のパイプを接眼レンズにするためにレンズを取りつけます。

4 仕上げをしよう
最後の仕上げです。見たいもの以外のじまな光がなるべく入らないように、対物レンズの先にフードをつけます。フードは、内側を黒いつや消しでぬった厚紙を巻くのが一番かんたんです。長さは5～8センチぐらいです。最後に、筒の外側に好きな色をぬって完成です。

細いパイプの長い方は5センチ、短い方は2センチ
短いパイプに両面から片凸レンズをテープでとめる



望遠鏡の倍率
倍率は、対物レンズと接眼レンズの焦点距離で決まります。たとえば、焦点距離500ミリの対物レンズに焦点距離20ミリの接眼レンズをつけると、 $500 \div 20 = 25$ 倍になります。望遠鏡を固定せずに手で持って星を追えるのはせいぜい10～30倍ぐらいまで。50倍、100倍という高い倍率では三脚が必要です。



ちゅうい 注意!

望遠鏡で太陽は絶対に見えないこと。とても危険です。

(5) 海からの贈り物に秘められたメッセージ



小さなガラスから作られるランプシェード

ダイバー



なりた ひとし
成田 均さん

西岬地区の坂田港の近くでダイビングスクールを運営している成田均さん。秋田県生まれ。坂田の海の魅力にひかれて、館山へ移り住んだという成田さんは、ダイビングの指導のかたわら、坂田沖に生息するサンゴを30年以上にわたって見守っています。海辺に打ち上げられるごみの山。「この海をきれいにするにはどうしたらいいのか」。その答えを海辺で見つけた一つのガラスの破片、ビーチグラスが教えてくれていると成田さんはいいます。



坂田の海に魅せられて

成田さんが生まれ故郷の秋田から館山へ移り住んだのが、昭和46年のこと。成田さんは館山へ移り住む前から、潜水作業やスポーツダイビングであちこちの海にもぐっていたといます。1969年には、スピアフィッシングという素潜りで魚をとる魚突きを競う世界選手権で日本代表として活躍。日本ダイバー界の草分け的存在でもあります。

坂田沖での初ダイビング。「とてもきれいな海というのが第一印象でしたね」と成田さん。以来、その魅力にひかれて、坂田港



坂田沖のサンゴ礁

の近くでダイビングスクールをひらき、体験ダイビングの指導をしています。

「フォト・デ・ポアソンといって、北は北海道、南は沖縄まで全国70か所で、4人のダイバーが1日で何種類の魚をカウントし、写真に撮影できるかというコンテストがあります。館山の坂田沖は全国第2位で、203種類も確認しています。アイゴは1989年から1992年にかけて、毎年カウントしている。アイナメは1989年にはいたけど、その後は見られていない、などという5年間のデータがあります。それは、単純に魚の種類を知っている、知識が豊富であるということの裏づけにもなりますが、それだけ館山の海はすごい価値がある海なんです」



サンゴを守る・海を守る

年間4,000人もダイバーがやってくるという館山の海。坂田沖を潜ると、青い海の中で花畑のような色とりどりのサンゴがダイバーたちを迎えてくれます。坂田沖は、条件がよければ10メートルから20メートルぐらいの透明度があるといえます。

「私が潜っている坂田港の近くでは、新しいサンゴが次々に確認されているんです。はじめて潜ったところから比べると、そのころよりも確実にサンゴは増えているし、大きくなっています。キクメイシ、ハナガササンゴ、キッカサンゴなど、20種以上ものサンゴが1か所に集中しているのは、坂田ならではの、坂田の海水がとてきれいな証明でもあります」

成田さんは、ダイビングスクールを運営するかわら、海洋資源の保護や研究にも取り組んでいます。

「ダイビングスクールでは、体験ダイビングの初歩的な練習を海辺でやるんだけど、せっかくきれいな海を見に来ているお客さんの横をごみが流れていく。サンゴにもビニールなどのごみがかかっていることがあり、ヘドロなどの堆積物などといっしょに取り払ってあげています」



ダイビングの指導をする成田さん



たくさん魚が生息する坂田沖



サンゴが生息する美しい海



ダイビングのようす



海からの贈り物・ビーチグラスとの出会い

気分転換に歩く浜辺でも、必ず1個か2個ごみを拾って帰ることを心がけているという成田さん。あまりにも多いごみを見て「いったいどうやったら海をきれいにできるのか、来る日も来る日も海をきれいにする方法を考えてきた」といいます。

そんなある日、浜辺を歩いているときにキラキラ光るガラスに気づき、「アイデアが浮んだ」という成田さん。多くのごみとっしよに落ちていたガラスは、角が砂できれいにみがかれ、「宝石のようにみえた」といいます。

自宅にもどり、さっそくガラス細工のオブジェづくりに取り組んだという成田さん。おはじき大のガラスを1片1片積み上げていくランプシェードが完成しました。

「海から拾ったもので、また新たな別のものをつくることができる。こういうものも海からできるんだということを多くの人に伝えたい。浜辺では、全国でもめずらしい貝が見つかったり、とにかくすごい発見がある」と成田さんはいいます。

この小さなガラス、ビーチグラスを成田さんは「海の贈り物」とよんでいます。「浜辺でビーチグラスを拾う人たちが、もう一方の手で彼らの仲間のごみを1個でもいいから拾って、そっにごみ箱にすててくれるような、やさしい人たちであってほしいと願っています。いつかビーチグラスでつくった作品を、たくさんの人と自慢しあえるような機会がおとずれることを夢見ています」

海に捨てられたビンが海の中で割れて、中には1センチぐらいのかけらになるまでには何十年もかかるというビーチグラス。直径約20センチ、高さ30センチのランプシェードで、約3,000個のビーチグラスを使い、根気よく1片1片積み重ねても、1日2段しか積み重ねないといっています。

「海のようにゆったり、ゆっくりと積み重ねていくことがコツです」と成田さん。



坂田沖は魚の宝庫



砂浜にはたくさんの宝物がおちています



「館山の海はすごい価値がある海なんです」と成田さん。テーブルには、全国でもめずらしい貝がならべられています

ランプシェードの作り方

最初はビーチガラスの粒の大きなものからつくることをおすすめします。小さなビーチガラスの粒を使うと仕上がりが美しいのですが、積み上げるのにかなり根気が必要です。

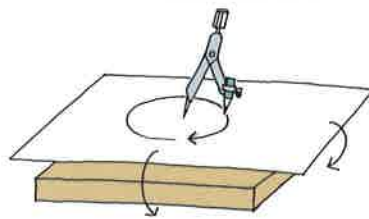
粒の大きなものであれば、直径約20センチ、高さ約30センチのランプシェードが約2か月で完成できます。



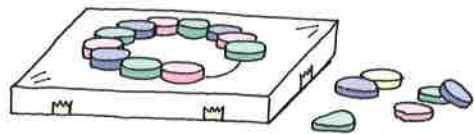
① まずは1周目

平らな板の上に、習字で習う半紙、障子紙など液切りのよい紙をしき、テープで固定します。次に、コンパスなどで円をかきます。比較的厚さのそろったビーチガラスで基礎となるはじめの1周をならべます。

コンパスなどで円をかきます



はじめの1周をならべます

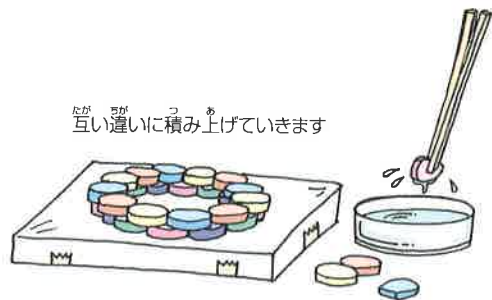


② 2周目を積み上げます

割りばしなどを使って、ビーチガラスを接着液にひたし、液だれしないように、しっかり液切りをし、2周目をならべます。

レンガを積むように、互い違いに積み上げていきます。

互い違いに積み上げていきます



③ のんびりとつくっていこう

接着液が固まるのには時間がかかります。

1、2周分が固まるのに天気の良い日で2～3時間、湿度の高い日はまる1日くらいかかります。

1日に積み上げるのは1周か2周にして、のんびりとつくってください。完成した後は、ブルーやクリアーのランプを入れたり、けむりの出ないロウソクを入れるとやさしい光が生まれます。



ランプなどを入れるとやさしい光が生まれます

(6) 平砂浦の自然を再発見



ハマヒルガオ（春）

ホームページで植物園を開設



難波昭一さん

神戸地区犬石に住む難波昭一さんは、平砂浦海岸の植物を紹介するホームページ「平砂浦海岸植物園」を開設しています。「平砂浦海岸を歩いていると、遠くの景色や打ち寄せの波などに目がいってしまいがちですが、ちょっと足元に目をむけると、かれんに咲く小さな花を見つけることができます」と難波さん。「多くの人にこの豊かな自然を紹介したい」との思いから、3年もの月日をかけてホームページを作り上げました。「生まれ育ったふるさとに、こんなにいいところがあるとは知らなかった」という難波さんにとって、平砂浦の自然観察はふるさとを再発見するきっかけにもなったといいます。



平砂浦の植物との出会い

「平砂浦海岸は、子どものころに何度か釣りに来たことがあります。そのころは道も良くないし、バスもなかったので、平砂浦に簡単には行けなかった」といいます。

難波さんが東京都内の郵便局を退職し、生まれ故郷の館山市へもどったのが1991年のこと。奥さんと一っしょに、平砂浦海岸にほど近い神戸地区の犬石に転居してきました。

もともと、高山植物などに興味があったという難波さん。「退職



空からみた平砂浦海岸



イワタイゲキ (春)



コウボウムギ (春)



キケマン (春)



コウボウシバ (春)



コマツヨイグサ (春)

後、退屈しのぎにパソコンを買ったんです。デジタルカメラも買って、ホームページ作りにも挑戦してみようかと思ったけど、何を題材にしているのかわからない。そんなときに、平砂浦海岸の植物のことを知り、自分でも探してみようと思った」といいます。

以来、時間ができるとカメラを片手に平砂浦海岸へ散策に出かけるようになったという難波さん。本格的にデジタルカメラでの写真撮影がはじまりました。

「植物を調べるのも、ホームページを作るのもすべてはじめて。パソコンの解説書と植物図鑑はかかせなかったですね。どうしてもパソコンがうまく動かない。最初のころはパソコンの画面とにらめっここの連続だった」という難波さん。パソコンへの入力には、遊びに来た小学生の孫に手伝ってもらったこともあったそうです。

「海岸に行っても、おめあての植物を見つけないのが大変なんです。それでも、林の中を歩いていて、偶然にめずらしい花を見つけた時はうれしいですね」



ハマウツボ (春)



ツルチ (春)



ハマエンドウ (春)



ハマダイコン (春)



ハマニガナ (春)



ハマニンニク (春)



ハマハタザオ (春)



ミヤコグサ (春)



ハマボウフウ (春)



ハマボス (春)



四季折々の平砂浦の植物

「平砂浦海岸をゆっくりと歩いていると、四季折々の花々が私たちを出迎えてくれます。ちょっと足元に目をやれば、かれんな花を見つけることができます」と難波さん。

ホームページでは、春のハマヒルガオやイワタイゲキ、夏のイワダレソウ、スカシユリ、秋はイソギクなど、季節ごとに計25種類をカラー写真付きで紹介しています。

「北海道や鳥取県などから、ホームページを見たという連絡がきたんです。鳥取の人から日本海側の海岸植物の写真が送られてきたり、北海道からはホームページを授業に使わせてほしいと、学校の先生からも連絡がありました。おばあさんが神戸出身という、アメリカに住んでいる人からも電子メールが届いたこともありましたね」



コンピュータを操作する難波さん



イワダレソウ (夏)



スカシユリ (夏)



イソギク (秋)



ハマグルマ (夏)



ハマナデシコ (夏)



ダンチク (秋)



タイトゴメ (夏)



ハマユウ (夏)



ワダン (秋)

「反響が広がる一方で、「何度も見てももらうためには、写真の入れ替えはかせない」という難波さん。「天気がいいと、カメラを片手に海岸のようすを見にいくんです。いい写真が撮れると、去年の写真と入れ替えます。去年咲いていた花が同じように咲いているのを見ると、ほっとしますね」と難波さん。

「何気なくはじめたホームページ作り。まだまだ自分自身も知らないことがたくさんあります。

平砂浦海岸のまわりには、たくさんの自然が残っています。夏になると、山あいではホタルも見ることができます。もっと外に出かけていって、じっくりと観察すれば、もっと何かを発見することができるかもしれません。みんなも、カメラと植物図鑑を片手に自然の中に出かけてみませんか」

難波さんのホームページ

を訪ねてみよう。

平砂浦海岸植物園

<http://www1.ocn.ne.jp/~syo/>





館山市民憲章

(昭和44年11月32日 制定)

あお うみ
青い海。

あざやかな緑。

すなおな人から。

わたくしたちは、この恵まれた郷土を愛し、
清新な希望とたくましい発展を求めて、ここに、
市民憲章を定めます。



わたくしたち館山市民は

- 1 みんなで体力づくりにはげみましょう。
- 1 なごやかで明るい家庭をつくりましょう。
- 1 たがいにきまりを守りましょう。
- 1 力をあわせて豊かな郷土を築きましょう。



6 かわる館山・館山市^{そうごうけいかく}総合計画



(1) 館山市の未来



なみしや わがみ うら
波静かな鏡ヶ浦

館山市の未来をみんなで
考えてみよう。



これまで、館山市の「現在」と「過去」を学んできました。では、館山市の「未来」はどうなるのでしょうか。私たちのまちは、どのような課題をかかえ、どのように発展しているのでしょうか。平成13年4月からスタートした「館山市総合計画」をもとに、私たちのまちの将来を考えてみましょう。

1 キャッチボール作戦と総合計画

館山市では、みなさんが大人になる15年後の平成27年を目標に、市の課題やあるべき姿をしめた「館山市総合計画」をつくりました。

この総合計画は、市民一人ひとりの声を大切にしながら、多くの市民の意見をもとに2年間かけてつくられました。「キャッチボール作戦」と名づけられた市民との意見交換は、市民の代表からなる「館山市総合計画審議会」を中心に、市民アンケート調査や地区懇談会、提案箱の設置などさまざまな取り組みがなされました。結果、300件以上の意見・提案が出され、これらをもとに計画がつけられました。



市の木・ツバキ



地区懇談会のようす

総合計画の特徴は、市民一人ひとりがまちづくりの主演であると位置付けたことにあります。また、情報化、少子高齢化、環境問題などへの対応とともに、今後重点的に取り組むべき施策として、経済活性化、館山湾の活用、開かれた市政の推進などを位置付けています。



フラワーライン（日本の道100選）

② 市民の願いとまちづくりの課題

今後の館山市のあり方

それでは、市民のみなさんは、今後どのようなまちにしたいと思っているのでしょうか。また、どのようなことが市の課題となっているのでしょうか。

市民アンケート調査の結果を見ると、今後の館山市のあり方として、多くの人が「医療・福祉機能の充実した健康・福祉都市」を希望しています。また、若い人たちは「海外や首都圏などから多くの観光客が訪れ、にぎわう観光都市」を希望しています。



館山市役所

今後の館山市のあり方

将来像
(市民全体)

「医療・福祉機能の充実した健康・福祉都市」を希望

20歳代
若年層

「海外や首都圏などから多くの観光客が来訪し、賑わう観光都市」を希望



館山市の住心地についての質問に対しては、約8割の人が「これからも住みつづけたい」と答えています。(グラフ1・2)

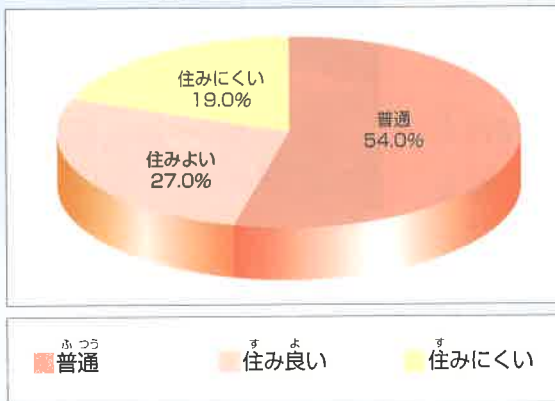
日常生活においては、ふだんの買い物の便や図書館などの公共施設の状況などには満足しているものの、せまい道路や川や海のごれ、病院などの医療施設の状況などにはやや不満があるとしています。(表1・2)



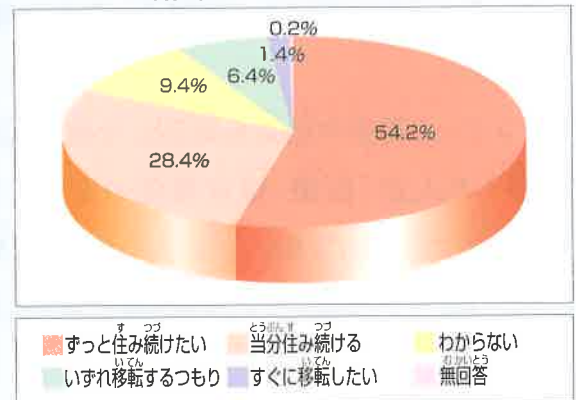
平砂浦海岸に咲くハマヒルガオ(6月)

館山市の住心地

<グラフ1> 館山市の住み良さ



<グラフ2> 館山市への定住意向



満足度・不満足度順位

<表1> 満足度順位

分類	順位	項目	比率
生活環境	1	日常生活の買い物の便	59%
	2	街並の美しさや景観	41%
防災環境	1	ごみやし尿の収集状況	60%
	2	火災に対する消防体制	49%
健康福祉	1	検診や予防などの保健活動	69%
	2	スポーツ・レクリエーション活動	41%
教育文化	1	図書館・文化ホール等の公共施設	66%
	2	各種講座などの生涯学習活動	50%

<表2> 不満足度順位

分類	順位	項目	比率
生活環境	1	道路の舗装状況や広さ	71%
	2	道路側溝や排水溝等の整備状況	69%
防災環境	1	河川や海域等の浄化	70%
	2	近所の道路の交通安全	65%
健康福祉	1	病院・診療所等の医療施設	66%
	2	高齢者に対する福祉	43%
教育文化	1	青少年の非行防止や健全育成	42%
	2	幼・小・中学校等の教育環境	25%

資料：館山市市民意識調査(平成11年度)

まちづくりの課題

館山市では、**少子高齢化**、**環境問題**、**産業の振興**などが大きな課題になっています。

市民アンケート調査では、館山市の産業をさかんにするためには、**道路の整備**が重要であるとともに、**住みよいまち**にするためには、**保健と福祉の充実**が大切であるという意見が多くなっています。(グラフ3)

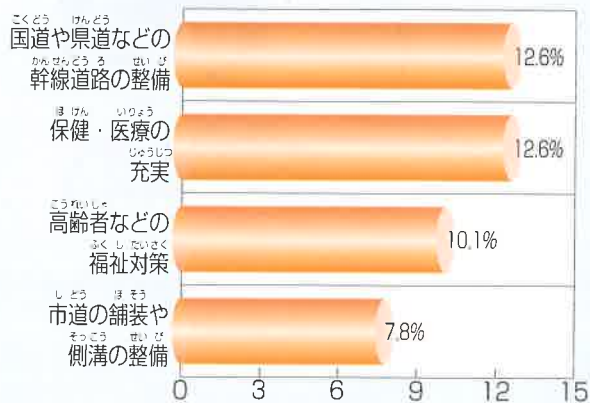
また、それぞれの課題に対しては、「**介護サービス体制の整備・充実**」「**ごみの分別やリサイクルの推進**」「**農水産業と観光の一体化**」などを望む声が高くなっています。(グラフ4～6)



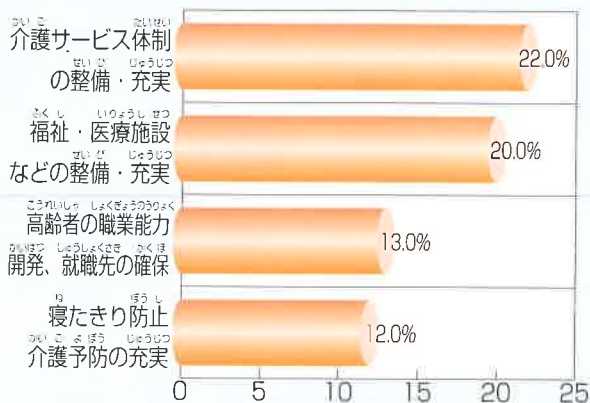
大きなひょうたんだね

希望する今後の重点施策及び課題への対応

<グラフ3> 希望する今後の重点施策



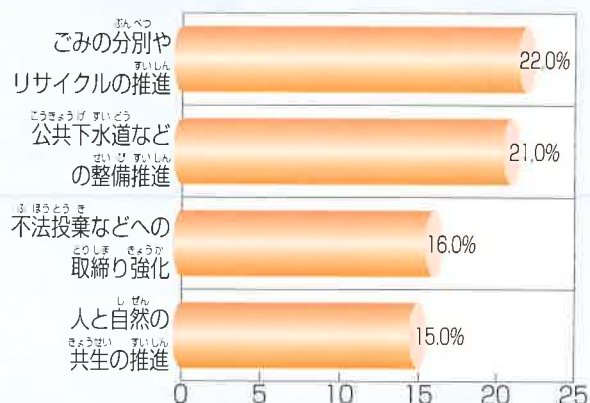
<グラフ5> 重点施策「高齢社会」への対応



<グラフ4> 重点施策「産業の振興」



<グラフ6> 重点施策「環境問題」への対応



館山市の人口の推移

次に館山市の人口の推移を見てみましょう。館山市の人口は、昭和25年の59,000人をピークに、昭和60年代以降、減少傾向が進んでいます。平成12年の国勢調査では、51,412人になっています。

このまま推移すると、今後15年間で子どもの数は約2,000人、全体で約7,000人も減ってしまうと予想されています。

館山市では、総合計画にかかげた施策を進め、産業の活性化や福祉の施策を充実させることで人口を増やし、15年後の将来人口を54,000人としています。



ししほん舎 たいねんがくしゅう
思春期のふれあい体験学習

館山市では、どんなことが課題になっているのか、まとめてみよう。

また、館山市が将来どうあったらいいのか、みんなで話し合ってみよう。



館山市の人口の推移



資料：館山市統計（国勢調査）



しるやまこゝろ館山公園山頂 ぼくぶつかん・がんかん
城山公園山頂・博物館分館



しるやまこゝろえん
城山公園のツツジ (5月)



うちほろせん
JR内房線「ビューさざなみ」とひまわり畑



かがや うら ゆうや
鏡ヶ浦の夕焼け



あむらさいせい
安房最大の「八幡まち」

3 館山市の将来像

そうごうけいかく
総合計画では、市民一人ひとりが心の中に思う「ふるさと」を
基本理念にしています。豊かな海や野山の自然、ゆったりとして
身近なひとびと、そして歴史と伝統につちかわれた「ふるさと」にだ
れもが愛情を持ち、ほこりに思うことがまちづくりの出発点として
います。

そして、館山市の将来像を「輝く人・美しい自然 元気なまち
館山」とうたっています。



スポーツ少年団の駅伝大会



げんき 元気なまちに…

館山市には観光客をはじめ、南房総の近隣からも多くの人々が仕事や通学、買い物、お祭りなどで館山を訪れます。これらの人々に魅力のある生活や文化を創造して提供する、活気にあふれるまちでありたいと考えます。

多くの観光客が館山市を訪れたり、大きな工場ができるためには、観光をはじめ、農水産業の活性化、新しい産業の育成を図っていく必要があります。

館山市では、こうした産業が発展するための基盤となる高速道路の整備を進めるとともに、館山の自然、歴史・文化などを活用した魅力ある観光地づくりを進めています。



オープン・ウォーター・スイムレース (7月)



南総里見まつり (10月)



うつく 美しいまちに…

館山の海や花、夕日、新鮮な魚など自然の恵みを求めて、東京・神奈川などから多くの人々が訪れます。館山の魅力にさらに磨きをかけて、多くの来訪者に愛されるまちでありたいと考えます。

東京湾の入口に位置する館山市は、波静かな鏡ヶ浦をはじめ、31.5キロメートルにおよぶ長い海岸線を持っています。その特性を活かしたマリンスポーツの絶好のプレイスポットにもなっています。また、黒潮の恩恵を受ける館山湾内の坂田、沖ノ島海域には色鮮やかなサンゴが生息し、美しい海中景観をつくりだしています。

こうした館山市の豊かな自然を大切に守りながら、21世紀の観光や海洋レクリエーションの拠点として館山港やその周辺を整備を進めています。



波静かな鏡ヶ浦



坂田沖のサンゴ礁



笑顔あふれるまちに…

私たちは、このまちに住む子どもからお年よりまですべての人々が、温かい心を持ち、いきいきとした笑顔にあふれるまち、これからも住み続けたいまちでありたいと考えます。

そのためには、だれもが安心して暮らしていけるように、介護・福祉を充実し、人にやさしいまちづくりを進めていく必要があります。お年寄りがいつまでも元気で、生きがいを持った生活を送ることができるように、保健、医療、福祉の充実を図るとともに、子育てへの支援を充実し、笑顔があふれるまちづくりを進めています。



人が輝くまちに…

ここに住んでいる人が自慢できるまち、ここを離れた人にはなつかしいまち、そして、これらの人々が楽しさ、やさしさ、美しさを声高く語ってくれるまちでありたいと考えます。

そこで、郷土の歴史や伝統文化を次代の子どもたちに引き継いでいくための施策を推進するとともに、各地域との文化、スポーツの交流を進めています。

また、一人ひとりの市民がまちづくりの主役になるように、ボランティア活動を支援するなど、市民と行政が一体となったまちづくりを進めています。



おもちゃ図書館で遊ぶ子どもたち



乳児健診



県指定無形民俗文化財「洲崎踊り」



花のボランティア

(2) 館山市のまちづくり Q & A



花火とフラメンコ (8月)

市ではどのようなまちづくりを進めているのかな。みんなで調べてみよう。



1 元気なまち館山

Q

館山市は房総半島の先端にあり、これまで道路の整備が遅れていました。東京などから「近くて遠い」というイメージをなくすためにも、高速道路を早く作る必要があると思いますが、どうなっていますか。

A

時間距離が縮まる、ゆとりが広がる

現在、東関東自動車道館山線や富津館山道路の建設が進められています。この道路が開通すれば、東京圏と館山市を結ぶ高速道路ができ、近い将来、千葉まで車で約1時間、東京まで約1時間半で結ばれることになります。

このほかに、館山市と鴨川市を結ぶ高速道路も計画されています。



東京湾アクアライン



工事中の富津館山道路 (富浦町)



若い人たちがずっと館山で暮らせるようにするために、どんなことが考えられていますか。



市民アンケート調査で「これからも住み続けたいか」との質問に、全体では約8割の人が「住み続けた」と答えたのに対し、中学・高校生は約6割の人が「住み続けたくない」と答えています。働く場所が少ないことが大きな理由になっています。

そのため、若い人たちが住みたくなるように、観光振興などによる経済の活性化や雇用の確保を図っていくことが大切です。



サンゴが生息する美しい海

新しい産業の誘致と育成

地域経済をさかんにするため、将来的に成長が期待でき、館山市の産業をリードしていく食品、介護・医療・福祉、環境関連産業などの新しい産業の誘致に努めていきます。

また、首都圏で活躍している南房総出身者など、企業人や文化人とのネットワークをつくり、マリンスポーツなど、地域資源を活用した新しい産業の開発を支援していきます。



マリンスポーツ

自然環境と調和した工業団地の整備

館山工業団地は、千葉県企業庁が事業主体となりオーダーメイド型の工業団地として、館野・九重地区に整備を進めています。工業の活性化と雇用の場として期待されています。

館山市では、企業が進出しやすいように、千葉県企業庁に対し早期着工、早期完成を要請したり、進入道路の整備などを進めています。



館山工業団地建設予定地



南房パラダイス



ポピー花つみ



館山市の産業は観光が主なものだと思いますが、観光客にたくさん来てもらうにはどうしたら良いと考えていますか。



平成9年に東京湾アクアラインが開通し、平成10年には観光客は増えたものの、その後再び減少しています。これは、これまでの団体旅行に変わって、個人や家族・小グループの旅行が主流になり、旅行ニーズも多様になっているからです。

歴史・文化、産業など館山市の魅力ある地域資源を活用し、旅行ニーズにあった観光地づくりと、来訪者をもてなす人づくりが求められています。

そこで、東関東自動車道館山線の全線開通を契機に、来訪者の倍増(350万人/年)を目標に、にぎわいといやしの観光地づくりをめざして、ソフト・ハードの両面にわたって施策を展開します。

グリーン・ブルーツーリズムの拠点づくり

館野地区のいちご狩りセンターと富崎地区の自然休養村施設に、新しくみやげを販売したり観光情報を提供する、郊外型の情報物産センターをつくります。

また、西岬地区周辺の自然環境や地域の資源を活かし、伊戸漁港を中心に水産物の販売や磯遊び、花つみなどが楽しめる、グリーン・ブルーツーリズムの拠点を整備します。



観光いちご狩り



観光定置網



海水浴



えきまえ しょうてんがい みせ し か
 駅前の商店街は、お店が閉まっていたり、買
 ものきやく すく しょうてんがい
 い物客が少なくなっています。商店街をにぎや
 たいさく
 かにするためどんな対策がありますか。



ちいき けいざい さぎ しょうてんがい
 安房地域の経済を支えてきた館山市の商店街も、
 おおがたてん しんしゅつ けいき ていめい
 大型店の進出、景気の低迷などで、たいへんきびしい
 しょうきょう
 状況です。そこで、館山市と商店街では、大型店には
 ちいきみっちやくがた つと
 できない地域密着型の手づくりのサービスに努めるとともに、館
 しょうひん かいぱつ すず
 山にしかない商品の開発を進めています。

えきしゅうへんどうろ ある か もの たの かんきょう
 また、駅周辺道路を歩いて買い物を楽しめる環境づくりや、
 ねんかん つう ひろば
 年間を通じてイベントができる広場をつくるなど、人がにぎわい、
 つど みりよく しょうてんがい つと
 集う魅力ある商店街づくりに努めています。



なんそうさとろ にぎ しょうてんがい
 南総里見まつりで賑わうJR館山駅東口



しょうてんがい
 商店街のイルミネーション



かくめい すず わたし じゆう
 I T革命が進み、私たちがパソコンを自由に
 つか じだい しょうほうか と
 使える時代になりました。館山市の情報化の取
 く おし
 り組みを教えてください。



館山の魅力ある情報を全国へ発信

けいざいかつどう しゃかい ぶん や しょうほう
 経済活動をはじめ、社会のあらゆる分野で情報の
 か すず きぎょう きょうせい いっぱん か
 ネットワーク化が進み、企業や行政だけでなく、一般家
 てい じゆう しょうほう しゅうしゅう ほんしん
 庭でも自由にさまざまな情報を収集、発信できるようになってき
 ました。

しょうほうかしゃかい しえん かつよう しみん
 館山市では、こうした情報化社会を支援・活用するため、市民、
 きぎょう がっこう れんけい ちいき しょうほうか すず しみんさん かがた
 企業、学校などと連携して、地域の情報化を進める市民参加型
 すいしん そしき しみん かつよう
 の推進組織をつくりました。また、市民がインターネットを活用して
 しょうほうこうかん たいけん ちいきしょうほう きよてん
 情報交換やインターネットを体験できる地域情報の拠点づくりな
 しょうほうきばん せいび すず
 ど、情報基盤の整備を進めています。

さらに、館山市の自然、歴史・文化などの情報をデジタル化し、
 せっきよくてき しょうほう ほんしん
 積極的に情報を発信するとともに、公共施設に端末機器を置き、
 こうきょうしせつ たんまつき き お
 市民や観光客が身近な所で生活情報、行政情報、観光情報な
 う
 どを受けられるように整備を進めます。



こうしゅうかい
 IT講習会



インターネットに挑戦

2 美しいまち館山

館山市では、波静かな海域という有利な条件と、温暖な気候と豊かな自然を活用した「海洋性リゾートタウン」のまちをめざし、これまでも館山駅橋上駅舎建設、駅西口の土地区画整理事業、ビーチ利用促進モデル事業、南欧風のまちづくりなどを進めてきました。

現在、国や県と協力しながら、海の環境保全とともに、館山湾を観光・レクリエーションの拠点として整備し、出会いと交流の場となる海辺のまちづくりを進めています。



南欧風のJR館山駅舎

Q 館山湾など海を活用したまちづくりとして、どのような計画がありますか。

A 個性と魅力ある「みなとづくり」

平成12年5月に館山港が、観光・レクリエーションのための港湾として、国から「特定地域振興重要港湾」に全国12か所のひとつに選ばれました。

館山湾の温暖な気候や、恵まれた自然環境を活かし、21世紀の観光や海洋レクリエーションの拠点として、港の整備を進めます。

海上交通の開設と海辺の交通・情報拠点の整備

館山湾の活用や海辺のまちづくりと合わせ、東京湾内や伊豆諸島などとの海上交通の開設をめざしています。

また、館山湾の地理的条件を活かし、館山湾に停泊している船舶が寄港しやすい「船のサービスステーション」として港を整備します。あわせて、旅客船着岸施設などの受け入れ態勢をつくるとともに、海の玄関口として情報発信、みやげなどの販売をする拠点をつくります。



JR館山駅西口・夕映え通り



館山湾



マリンスポーツ



都市計画道路船形館山港線・イメージ図

多くの人でにぎわう海辺のまちづくり

ビーチ利用促進モデル地区の指定を受けた北条海岸一帯を、海と陸からの来訪者を温かく迎え、多くの人でにぎわう快適で安全な海辺として整備を進めています。

また、街並み景観に合ったシンボリックな道路として、海岸道路（都市計画道路船形館山港線）の整備を進めます。



海水浴で賑わう北条海岸



Q 海辺を開発すると自然破壊などが心配です。自然を守るためにどのような対策を考えていますか。



A 美しい自然を守る・自然との共生

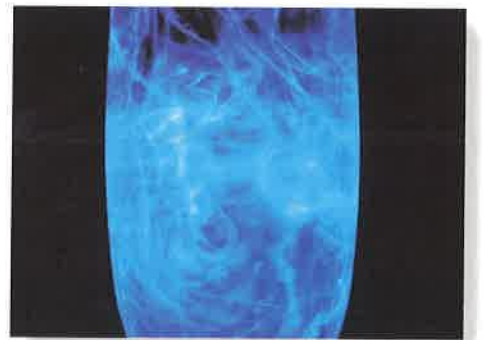
館山湾に生息するサンゴや海ホタルなどの貴重な海生生物の保全に努めるとともに、鏡ヶ浦クリーン作戦の実施など、市民ぐるみで海岸美化活動に取り組みます。

また、公共下水道整備の推進、生活排水処理施設の設置など、流入する河川の浄化対策を図り、館山湾の水質浄化に努めます。

さらに、ごみの減量化やリサイクルの推進、ごみ処理施設の改修や広域ごみ処理施設の建設を進め、ダイオキシン類の排出を抑制するなど、人と自然が共生する環境づくりを進めていきます。



坂田沖のサンゴ礁



神秘的な光を放つ海ホタル

3 笑顔あふれるまち館山

館山市では、すでに高齢化率(総人口に占める65歳以上の人口比)は、25.8%に達しています(平成14年1月現在)。そのうち介護を必要とする人は約9%、1,200人です。つまり、市民の4人に1人が65歳以上の高齢者であると同時に、高齢者のうち9割の人たちは、元気な高齢者ということです。

高齢者の福祉・介護制度の拡充、生活環境のバリアフリー化が必要であるとともに、元気な高齢者がいつまでも元気で、自立した生活を過ごせるように支援していくことが大切です。

一方、14歳以下の子どもの数は、20年前に比べ半減しています。少子化問題は、館山市の将来を考える上で、もっとも深刻な問題であり、総合的な対策が求められています。



お年寄りたちによる体育大会



地域のみんなで作る健康づくり

Q お年寄りや体の不自由な人たちなど、社会的に弱い立場の人たちが、安心して暮らせるまちにするため、どのような対策がありますか。

A 暮らしの安心を支える介護・福祉の充実
介護の必要な人を社会全体で支える介護保険制度の円滑な運営は、すべての市民の願いであり、一人ひとりの暮らしの安心を支えてくれます。

そこで、介護保険制度の充実と地域全体の介護力の向上を図るため、介護・福祉の拠点になる「介護・福祉情報センター(仮称)」を建設し、良質な介護・福祉サービスの提供に努めます。



「いつまでもお元気で」デイサービス

人にやさしいまちに・バリアフリーの推進

子どもやお年寄り、身体に障害を持った人、妊娠している人など、誰もがまちの中を自由に行き来でき、社会のさまざまな機会に参加できるバリアフリーのまちづくりを進めます。

そのため、市民参画によるバリアフリー推進委員会を設置し、



老後の安心を支える介護保険

市民の意見を聞きながらバリアフリー施策の展開を図ります。

同じ地域社会の中でともに生き、ともに支えあう、人にやさしいまちづくりを推進します。

元気な高齢者と生きがいの創造

高齢者がいつでも元気で、生きがいを持った生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉の連携を図りながら、介護予防や高齢者の健康管理を支援します。

また、高齢者が積極的に経済活動に参画し、現役で活躍できるように、「高齢者働く会」の活動や「シルバー人材センター」の設立を支援します。

さらに、館山市の豊かな自然を活用し、生産した農産物や手づくり商品を、高齢者が市民や高齢者に販売する「いきいきふるさとマーケット(仮称)」の開設を支援します。



青空の下でスポーツ



子どもたちとのふれあいの大きないきがいの一つ

Q

子どもの数が少なくなっている中で、子どもを育てやすい環境づくりが大切だと思いますが、子育てへの支援策はどのようになっていますか。

A

子どもを育てたくなるまちに

少子化は一段と進み、仕事と子育ての両立など、子育て支援は行政の重要な課題になっています。

そこで、子育て教室の開催、妊娠・出産・育児期の健康診査、相談などを行い、子どもが健やかに育つ環境づくりを進めます。

また、保育園の園舎を整備するとともに、保育時間の延長や病後児保育を行うなど、保育環境の整備を進めます。

さらに、乳幼児医療費の支給や学童保育への支援のほか、子育てサークルの交流の場として、ファミリーサポートセンターを開設するなど、子育てを支援します。



パパママ学級



子育て講座

4 人が輝くまち館山

Q

館山市には、里見氏の史跡や文化財などいろいろな文化遺産が残っていますが、これを保存し、後世に伝えていくためにどのようなことが考えられていますか。

A

里見をテーマにした歴史と文化の交流

全国的にも知名度の高い戦国大名里見氏の歴史や、曲亭(滝沢)馬琴の歴史小説「南総里見八犬伝」など、「里見」を軸にした歴史・文化交流を推進します。

全国の里見氏ゆかりの地との文化交流をはじめ、南総里見まつりなどのイベントを開催するとともに、歴史・文化交流活動を実践している市民団体の活動を支援します。

豊かな文化の継承と振興

館山市内には、全国的にも貴重な大寺山洞穴遺跡をはじめ、文化財や史跡など先人たちの足跡ともいえる文化遺産が数多く残されています。

黒潮文化や里見氏の歴史など、館山市の歴史や文化を後世に正しく伝えるため、各種文化財の保存・活用に努めるとともに、伝統芸能の伝承者の育成を通じた伝統文化の継承と振興を図ります。

Q

余暇時間が増え、国際化が進む中で、心の豊かさを求める人々が増えています。新しい文化を創るためにどのような対策がありますか。

A

異文化の交流と新しい文化の創造

外国の文化にふれあう機会の充実を図るため、国際交流協会や市民レベルの交流活動を支援し、アメリカのペリンハム市やオーストラリアのポートステイブンス市などの交流を進めています。



南総里見まつり・里見少年隊



南総見見フォーラム -花と里見と八犬伝-

南総見見フォーラム



海南刀切神社かっこ舞



ペリンハム市職員との交流



ポートステイブンス市の中学生との交流



全国大学フラメンコフェスティバル



5千人が力走する若潮マラソン大会

また、「全国大学フラメンコフェスティバル」など、館山市の気候や風土、街並みと調和した、魅力あるイベントの開催に努めます。

スポーツ交流の推進

館山若潮マラソン大会をはじめ、若潮旗争奪全国高校剣道大会など、スポーツイベントの充実を図ります。千葉県で開催が予定されている「国民体育大会」や「インターハイ」での剣道競技をはじめ、館山湾を活用した「オープンウォータースイミングジャパン」など、全国的・国際的なスポーツイベントの誘致、開催に努めます。

また、南房総の温暖な気候を活かし、プロ野球やJリーグなどプロスポーツチームのキャンプ誘致を積極的に行います。



若潮旗争奪全国高校剣道大会

一人ひとりが学び、ふれあい、輝くまちに

21世紀を担う子どもたちが個性や能力を伸ばし、ゆとりの中で「生きる力」を育み、創造力あふれる心豊かな市民となるよう、教育環境の充実を図ります。

また、子どもたちが地域に愛着と誇りを持てるよう、「ふるさと学習」を推進し、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めます。

さらに、市民と行政の協働のまちづくりを推進するため、環境、福祉、情報などのボランティアを育成・支援するとともに、特色ある市民活動の充実を図るため、「まちづくり未来塾(仮称)」を設置し、まちづくりをリードする人材の育成に努めます。



千葉ロッテマリーンズによる少年野球教室



中学生模擬議会のようす

れきし ねんびょう
館山市歴史年表

じだい時代	ねんだい年代	館山のできごと	にほん日本のできごと
げんしじだい原始時代		<ul style="list-style-type: none"> かいがん いま やま ・海岸が今の山すそまでできていた いなばら かいづか なたざり どう せいかつ ・稲原で貝塚ができ、鉤切の洞くつで生活がおこなわれた 	<ul style="list-style-type: none"> だいち かいがん ちか す か ・台地や海岸の近くに住んで狩りや漁をした(縄文式土器の時代) へいち す こめ はし ・平地に住んで米づくりを始めた(弥生式土器の時代) てつ きんぞく どうぐ ・鉄や金属の道具がつくられた
こふんしだい古墳時代	100 200 300 400 500 600	<ul style="list-style-type: none"> おおてらやま どう ぼ ・大寺山の洞くつ墓ができた さかい おきなざくこふん ・坂井の翁作古墳ができた よこあな ぼ しなかくち やま ・横穴墓が市内各地の山すそにできた こだい まつ ・古代の祭りがさかんにおこなわれた 	<ul style="list-style-type: none"> ぜんこくかくち くに ・全国各地にたくさんの国ができた ぜんこく あらそ お ひみこ じだい ・全国で争いが起こり卑弥呼の時代になった ぜんこく こふん ・全国に古墳ができた しょうとくたいし せいじ ・聖徳太子が政治をおこなった たいか かいしん ・大化の改新(六四五)
ならしだい奈良時代	700	<ul style="list-style-type: none"> あわのくに ・安房国ができた(718) あわ じよせい ちやうてい あわじんじゃ かみ ・安房の女性が朝廷で安房神社の神をまつた(731) あわ さんじゅうさんにん きゅうしゅう けいび い ・安房から三十三人が九州の警備に行った(738) あわ こくふんじ ・このころ安房に国分寺が建てられた あわぐん ねんぐ あわじんじゃ つか ・このころ安房郡の年貢が安房神社のために使われるようになった 	<ul style="list-style-type: none"> なら へいじやうきやう ・奈良に平城京ができた(710) ぜんこく こくふんじ なら だいぶつ ・全国に国分寺、奈良に大仏ができた(741)
へいあんしだい平安時代	800 900 1000 1100	<ul style="list-style-type: none"> いんべのひろなり あわ しんわ てんのう ほうこく ・斎部広成が安房の神話をまとめて天皇に報告した(807) こくぶ おおとものあたいやかぬし おやこうこう ちやうてい ひやうしやう ・国分の大伴直家主が親孝行により朝廷から表彰された(836) あわじんじゃ ちやうてい くらい ・安房神社が朝廷から位をもらった(836) えだ じやうり すいでん ・このころ江田に条里の水田がつくられた だいじんぐうせんしやうじ ぶつぞう ・このころ大神宮千祥寺の仏像がつくられた かすさのくに たいらのただつね あわ らんにやう こくし さつがい ・上総国の平忠常が安房へ乱入して国司を殺害した(1028) つぎ こくし ただつね おそ あわ に だ ・次の国司も忠常に襲われて安房から逃げ出した(1030) みなもとのかげもと こくし ぶつきやう ひろ ・源親元が国司になり、仏教を広めた(1096) あんざい ぬま かなまり まる あわ ぶし きやうと ほうげん ・安西・沼・神余・丸などの安房の武士が、京都で保元の乱に参加した(1156) 	<ul style="list-style-type: none"> きやうと へいあんきやう ・京都に平安京ができた(794) すがわらのみちざね させん ・菅原道真が左遷された(901) たいらのまさかど らん ・平将門の乱がおきた(935) ふじわらのみちなが せつしやう ・藤原道長が摂政になった(1016) へいし げんじ ちから つよ ・このころ平氏と源氏の力が強くなった たいらのきよもり だじやうだいじん ・平清盛が太政大臣になった(1167)

じだい時代	ねんだい年代	館山のできごと	にほん日本のできごと
鎌倉時代	1200	<ul style="list-style-type: none"> ・安房へ逃げてきた源頼朝が、洲崎神社へお参りして田を寄進した(1180) ・このころ安房の総社八幡宮が府中から北条に移った ・日蓮上人が立正安国論を書いた(1260) 	<ul style="list-style-type: none"> ・源頼朝が鎌倉に幕府を開いた(1192) ・承久の乱がおきた(1221) ・元が九州に攻めてきた(1274)
	1300	<ul style="list-style-type: none"> ・豊房にある小網寺の鐘がつくられた(1286) 	
室町時代(戦国時代)	1400	<ul style="list-style-type: none"> ・安東にある干手院の仏像がつくられた(1353) ・足利尊氏が安東の土地を家臣に与えた(1353) ・足利尊氏が西長田の土地を鎌倉の円覚寺に寄進した(1365) ・安西氏が円覚寺に与えられた西長田の土地を占領して、安房国の守護から返却を命じられた(1369) ・真田氏が鎌倉極楽寺の土地になった安東を占領したため、安房国の守護から返却を命じられた(1423) ・このころから里見義実が稲村城で安房の支配をはじめた 	<ul style="list-style-type: none"> ・後醍醐天皇が建武の新政をはじめた(1334) ・足利尊氏が室町幕府を開いた(1336) ・南朝と北朝が合体した(1392) ・応仁の乱がおきた(1467)
	1500	<ul style="list-style-type: none"> ・関白の息子が那古寺に来た(1486) ・里見義通が鶴谷八幡宮を再建した(1508) ・里見家に内乱がおきた(1533) ・里見氏と小田原の北条氏が市川国府台で戦い、四十年つづく戦争がはじまった(1538) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲が伝来した(1543) ・キリスト教が伝来した(1549)
安土桃山時代	1600	<ul style="list-style-type: none"> ・里見義康が館山城に住んで、城下町をつくりはじめた(1591) ・安房で豊臣秀吉の太閤検地がおこなわれた(1597) ・里見義康が関が原合戦にあわせて宇都宮へ出陣、鹿島で三万石を加増された(1600) 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉が関白になった(1585) ・徳川家康が江戸に入った(1590) ・関が原合戦(1600)
江戸時代	1700	<ul style="list-style-type: none"> ・里見忠義が安房国を幕府に取り上げられて、里見氏の支配がおわった(1614) ・屋代氏が北条藩主になった(1638) ・大神宮で一揆がおきて七人が処刑された(1687) ・大地震がおきて大被害になり、海岸が隆起した(1703) ・万石騒動で三義民が処刑された(1711) ・忍足佐内が越訴をして打ち首になり、小原村の名主平兵衛は行方不明になった(1771) ・稲葉氏が館山藩主になった(1781) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家康が江戸に幕府を開いた(1603) ・大坂夏の陣(1615) ・慶安の御触れ書がでる(1649) ・生類憐れみの令(1687) ・将軍吉宗が享保の改革を始めた(1716) ・天明の大ききん(1783)

時代	年代	館山のできごと	日本のできごと
江戸時代	1800	<ul style="list-style-type: none"> い のうただたか ぼうそうはんとう かいがん そくりょう ・伊能忠敬が房総半島の海岸を測量した(1801) すのさき ぼうそうかくち かいがん ほうだい ・洲崎など房総各地の海岸に砲台ができた(1810) むさしおはん かいぼう じん や ほうじょうつるが や ・武蔵忍藩が海防の陣屋を北条鶴ヶ谷につくった(1847) みなとかわ みなとぼし ・湊川にはじめて湊橋がかかった(1847) わかとしより ひらおかし ふなかた じん や ・若年寄の平岡氏が船形に陣屋をつくった(1864) ぼく ふくん えのちとたけあき たてやま へいりやく ととの はこだて む ・幕府軍の榎本武揚が、館山で兵力を整えて函館へ向かった(1868) 	<ul style="list-style-type: none"> なんそうさどみはっけんてん しゅつぽん はじ ・『南総里見八犬伝』の出版が始まった(1814~41) いこくせんうちばら れい ・異国船打払い令(1825) てんぼう ・天保のききん(1833~37) てんぼう かいかく はじ ・天保の改革が始まった(1841) くろふね うらが き ・黒船でペリーが浦賀に来た(1853) ぼしんせんそう ・戊辰戦争(1868)
明治時代	1900	<ul style="list-style-type: none"> しずおか ぶ し いじゅう ・静岡から武士が移住してきた(1868) たてやまけん なが おけん ・館山県と長尾県ができた(1871) たてやまゆうびんきょく ・館山郵便局ができた(1872) し ないかくち しょうがっこう ・市内各地に小学校ができた(1873) とうきょう たてやま きせん ゆき き ・東京と館山のあいだで汽船の行き来がはじまった(1878) ちやうそんがっぺい ・町村合併がすすんだ(1891) ほうじょう あ わ ぎんこう ・北条に安房銀行ができた(1896) あわのくに あ わ くん ほうじょう くんやくしよ ・安房国が安房郡になり、北条に郡役所がおかれた(1897) だいいちこうとうがっこう とうきょうだいがく すいえい ぶ やわたかいがん ・第一高等学校(いまの東京大学)水泳部が八幡海岸で水練をはじめた(1898) あ わちゅうがっこう あ わこうこう かいこう ・安房中学校(いまの安房高校)が開校した(1901) このころから かいすいよく さか ・このころから海水浴が盛んになった しりつ あ わ じょがっこう あ わにしこうこう かいこう ・私立安房女学校(安房西高校)が開校した(1905) たてやま でんわ つう ・館山に電話が通じた(1907) ぐんりつじょし ぎげいがっこう あわみなみこうこう かいこう ・郡立女子技芸学校(安房南高校)が開校した(1907) しづさわえいしち とうきょうよういくいん あ わ ぶんいん ・渋沢栄一が東京養育院の安房分院をつくった(1910) たてやま でんとう ・館山に電灯がついた(1911) 	<ul style="list-style-type: none"> はいはん ちけん ・廃藩置県(1871) がくせい せいいてい ・学制を制定(1872) ち ばけん ・千葉県ができた(1873) せいなんせんそう ・西南戦争(1877) だいにっぽんていこくけんぽうはつ ぶ ・大日本帝国憲法発布(1889) にっしんせんそう ・日清戦争(1894) にちろせんそう ・日露戦争(1904)
大正時代		<ul style="list-style-type: none"> しりつ としよかん ほうじょうぶんこ ・私立図書館の北条文庫ができた(1914) な ぐらなかたえき てつどう ・那古船形駅まで鉄道ができた(1918) あ わほうじょうえき たてやまえき てつどう ・安房北条駅(いまの館山駅)まで鉄道ができた(1919) すのさきとうだい ・洲崎灯台ができた(1919) このええき てつどう ・九重駅まで鉄道ができた(1921) けんりつ あ わすいさんがっこう あ わすいさんこうこう かいこう ・県立安房水産学校(安房水産高校)が開校した(1923) 	<ul style="list-style-type: none"> だいいちじ せ かいたいせん ・第一次世界大戦おこる(1914) こめそうどう ・米騒動がおきた(1918) ほうそう ・ラジオ放送がはじまった(1925)

じだい 時代	ねん 年代	館山のできごと	にほん 日本のできごと
大正 時代		<ul style="list-style-type: none"> かんとうだいしんさい (1923) 関東大震災 (1923) ほうきようじっかこうとうしよがっこう たてやまこうこう かいこう 北条美科高等女学校 (館山高校)が開校した (1926) たてやま ようさい ち たい 館山が要塞地帯になった (1926) かがみがうら はな ひきようぎ たいかい 鏡ヶ浦で花火競技大会がはじまった (1926) 	
昭和 時代		<ul style="list-style-type: none"> たてやまかいこんこうくうたい 館山海軍航空隊ができた (1930) たてやままち ほうじょうまち たてやまほうじょうまち 館山町と北条町をあわせて館山 北条町ができた (1933) とぎょう たてやま おおがたきやくせん たつまるる ゆ き 東京と館山を大型客船の橋 丸が行き来をはじめた (1935) たてやまほうじょうまち ふなかたまち な こまち たてやまし 館山 北条町・船形町・那古町をあわせて館山市ができた (1939) な こ ち くかわさき くうしゅう にじゅうしちにん ぎせい 那古地区川崎に空襲があり、二十七人が犠牲になった (1945) たてやま くん じょうりく 館山にアメリカ軍が上陸した (1945) し ない ちゅうがっこう 市内に中学校ができた (1947) へいさうら すなど こうじ 平砂浦の砂止め工事がはじまった (1949) にしきむら かんべむら とみさきむら とよふさむら たてのむら このえむら 西岬村・神戸村・富崎村・豊房村・館野村・九重村が館山市に加わった (1954) みなみほうそうこくえいどうえん 南房総国立公園ができた (1958) うちほうせん 内房線がスピードアップした (1969) とうきょう たてやま きやくせん ゆ き お 東京と館山の客船の行き来が終わった (1971) ほうそう 放送センターができた (1972) わかしおこくたい かじょう 若潮国体の会場になった (1973) しえい はな えん 市営の花つみ園がはじまった (1976) かんこう えん 観光イチゴ園がはじまった (1981) しりつはくぶつかん 市立博物館ができた (1983) 	<ul style="list-style-type: none"> うちほうせん そとほうせん 内房線と外房線がつながった (1929) にっちゅうせんそう 日中戦争がはじまった (1937) たいへいようせんそう 太平洋戦争がはじまった (1941) たいへいようせんそう お 太平洋戦争が終わった (1945) あたらし けんぽう 新しい憲法ができた (1947) にほん どりつ 日本が独立した (1952) にほん こくさいれんどう かめい 日本が国際連合に加盟した (1956) とうきょう かいさい 東京オリンピックが開催された (1964) せきゆ 石油ショック (1973) なりたこうこう 成田空港ができた (1978)
平成 時代	2000	<ul style="list-style-type: none"> たてやま 館山バイパスができた (1992) とねがわ すいどう 利根川から水道がきた (1996) ち ほけんなんそうぶんか 千葉県南総文化ホールができた (1997) あわいしがいびょういん あたら 安房医師会病院が新しくなった (1998) こうきょうすいどう つか 公共下水道が使えるようになった (1998) たてやまえき あたら 館山駅が新しくなった (1999) 	<ul style="list-style-type: none"> アクアラインができた (1997)

企画・編集関係者

(順不同・敬称略)

ふるさと学習副読本「南総たてやま発見伝」編集委員会 (館山市教育問題研究委員会)

- ◎神戸小学校 校長 佐野 元 (平成12年度～13年度)
○房南中学校 教頭 嶋田 裕史 (平成13年度)
館山小学校 教諭 松田 雅司 (平成12年度)
館山小学校 教諭 岡崎 靖 (平成12年度)
館野小学校 教諭 石井 恵子 (平成12年度)
第一中学校 教諭 池田 俊朗 (平成12年度)
房南中学校 教諭 加瀬 俊浩 (平成12年度)
那古小学校 教諭 真木 泉 (平成12年度～13年度)
館野小学校 教諭 永井 悟 (平成12年度～13年度)
北条小学校 教諭 黒川 健二 (平成13年度)
西岬小学校 教諭 川名 直樹 (平成13年度)
第二中学校 教諭 田中 和人 (平成13年度)
第三中学校 教諭 土橋 純也 (平成13年度)
(◎委員長 ○副委員長)

企画・編集協力

館山市教育委員会学校教育課・生涯学習課・館山市立博物館
館山市企画部企画課

協力・資料提供

(順不同・敬称略)

千葉県南房パラダイス・千葉県立野鳥の森・千葉県立安房博物館(写真/P16 ほしあわび・のしあわび)・千葉県安房農業改良普及センター・JA安房・館山警察署・安房郡市消防本部・三芳水道企業団・UMCジャパン株式会社・株式会社ミヨシ・株式会社カネフク・小池 康之(東京水産大学)・山井 廣(千葉県生物学会会員)・平本 紀久雄(水産学博士)・三瓶雅延(沖ノ島サンゴを見守る会)・黒川 浩(花農家)・成田 均(ダイバー)・大竹 邦明(館山海ほたる観察倶楽部)・安藤 智(館山天文クラブ)・難波昭一(平砂浦海岸植物園)・須藤 裕紀(須藤牧場)

参考資料

館山市史(館山市/1971年)・館山市総合計画(館山市/2001年)・館山市統計(館山市/2000年)・館山市の文化財(館山市教育委員会/1992年)・社会科郷土学習資料「館山市の生活」第7版(館山市教育研究会社会科部会編/1993年)・「千葉県の自然誌」本編7(千葉県/2000年)・「しおみ」移動教室副読本(新宿区教育委員会/1999年)・安房の校歌と応援歌(忍足利彦編著/1995年)・房州いちごのあゆみ(房州いちご組合連合会結成30周年記念事業実行委員会/1985年)・豊房郷土誌(豊房地区コミュニティ委員会/1984年)・耕心(JA安房神余支店/2001年)

ふるさと学習副読本「南総たてやま発見伝」(下巻)

平成14年3月 初版発行

編集者 ふるさと学習副読本「南総たてやま発見伝」編集委員会 (館山市教育問題研究会)

発行者 館山市教育委員会

〒294-8601 千葉県館山市北条1145-1 TEL0470-22-3111

印刷・製本 (株)集賢舎

〒294-0014 千葉県館山市山本226 TEL0470-22-2277

ねん 年	くみ 組	しめい 氏名
---------	---------	-----------